

令和4年度

教 育 計 画



河内長野市立千代田中学校

----- 目 次 -----

	項 目	ページ
	学校経営のグランドデザイン……………	1
◇	1～5 教育目標、教育方針……………	2～4
◇	6～8 在籍生徒、年間授業時数、日課表……………	5
◇	9～11 各学年時間割、年間のテスト計画……………	6
◇	12. 各月の定例行事……………	7
◇	13. 年間主要行事計画……………	8～9
◇	14. 校務分掌……………	10～13
◇	15. 各学年目標……………	14～16
◇	16. 学習指導の重点、研修計画……………	17～18
	各教科の年間授業計画……………	19～31
◇	道徳教育……………	32～37
◇	朝学習……………	38～40
◇	17. 総合的な学習の時間 全体計画……………	41～42
◇	18～19 図書館教育、環境整美……………	43～44
◇	20. 視聴覚教育……………	45
◇	21. 特別活動の重点……………	46
	部活動の規定……………	47～48
	生徒会年間計画……………	49
◇	22. 生徒指導部、緊急生徒指導体制……………	50～51
◇	23. 人権教育……………	52～54
◇	24～25 支援教育・通級教室……………	55～56
◇	26. 進路指導の重点……………	57
◇	27. 健康安全・防災教育年間計画……………	58～59
	食に関する指導の全体計画……………	60
◇	28. 主権者教育……………	61
◇	29. キャリア教育……………	62
◇	30. いじめ防止……………	63～74
◇	31. 小中グランドデザイン・小中連携……………	75～76
◇	32. 救急体制……………	77～78
	自衛消防組織、防火管理区域……………	79
	避難経路……………	80
◇	33. 情報管理について……………	81
◇	34. 職員一覧表……………	82

学習指導

- 学力向上（思考力・判断力・表現力の向上）
- わかった！できた！感動のある授業から、わかった！できた！！頑張れた！！と思えるテスト体験
- ICT機器の効果的活用（ロイロノートなどの思考力向上・教材の視覚化）
- 個別最適な学びを保障する。そのための「困り感シート」「つまづきシート」の活用
- 教材研究と指導方法の工夫改善により、つながり合い学び合う「協働的な学び」の実現
- 家庭学習の充実



人権・道徳

- いじめに向かわない子どもの育成のため、人権ベースの道徳教育・いじめを許さない集団づくりを進める。
- 様々な社会的弱者への差別を知り、差別解消のための学びを深め、主体的に行動する人権教育の充実。
- 命の尊さに気づき、互いの「違い」を認め合える豊かな人間関係づくりを構築するための集団づくりの推進。
- 自分の思いや意見を仲間を信じて語り合い、他の人の思いや意見について自分との違いを考え、議論する道徳の指導方法の研究を図る。

特別活動

- 学校は子どもが生活するミニ社会と考え、自分たちの社会で起こっている問題を自分たちで考え解決する集団を育む。（シチズンシップ＝主権者の育成）
- 学校生活の困り感を解消するために動く生徒会の指導
- 学校という集団の中での生徒一人ひとりの役割を提供し、役割を果たすことで感謝され、感謝されることにより「役に立った」と思える取組みを進める。

河内長野市立千代田中学校 グランドデザイン

河内長野市教育理念 ふるさとのつながりによる豊かな学び ～輝く人づくりのために～
 中学校区スローガン 誇りを胸に生きることも
 ～自分に誇りを・学校に誇りを・地域に誇りを～
 ～主体性と協調性をもった児童生徒～

めざす学校像 すべての人の命をとことん大切にす未来。
 その未来をともに創る子どもたち。
 その子どもたちの力を引き出す学校。

めざす子ども像・学校教育目標

1. 思いを語り合い、考え合い、学びを深め合う生徒の育成
2. 人の役に立つことにより、自分を更新できる生徒の育成
3. ちがいを活かし、ともに生きる未来を創る生徒の育成

校長経営ビジョン

- ・命(人権)をとことん大切にす信頼ベースの安全安心な居場所のある学校づくりの推進。
- ・学力(思考・判断・表現力)と心の成長を、子ども・教員・保護者・地域がともに喜び、感動できる教育の推進

支援教育

- 発達障がいなど様々な障がいの理解とその支援方法を学び、障がいのある生徒が通常の学級でクラスの仲間とともに学びともに育つための支援教育＝インクルーシブ教育に努める。
- 通常の学級におけるユニバーサルデザインの観点を取り入れたわかる授業づくり
- 一人ひとりの障がい理解と個のニーズに応じた支援方法の共有
- ソーシャルスキルの向上をめざした学習・生徒指導・ともに学びともに生きるインクルーシブ教育の観点を基盤とした社会の一員として、主体的に生きる力を育む。
- 通級指導教室の指導の充実（困り感のある生徒の存在に気づき、状況を把握した指導）

地域・保護者との連携と地域・保護者への発信

- 学校運営協議会の充実。
- 学校だよりやホームページの充実。
- 子育ての「共育者」として、保護者・青少年健全育成会・青少年指導員・民生委員児童委員等、地域の人々との連携強化。



生徒指導

- 成長を促す指導（生徒支援委員会からの発信）
 - ・自己有用感を高めることにより、自尊感情を高め、いじめ・問題行動・不登校に向かわせない。
- 寄り添い、向き合う生徒指導
 - ・ありのままの子どもの姿を受け入れる
 - ・子どもの背景を知るために、家庭訪問や子どもの話、保護者の話を聴く。
 - ・課題と向き合わせるために、スモールステップで根気よく支える。
- 虐待・いじめ・不登校・問題行動への早期発見・早期のチーム対応・関係諸機関との連携。
- 子どもと子どもをつなぐ集団づくり
 - ・不登校生とクラスをつなぐ。
 - ・配慮の必要な子が排除されずクラスに居場所があるように子ども同士をつなぐ。



キャリア教育・進路保障

- 自分の人生における役割をどう果たすかを主体的に考え、実践する力を育てる。
 - ・職場体験の充実
 - ・社会において、様々な役割を果たしている人の生き様を聞いて学ぶ
- 主体的に進路を選択し決定できる能力や態度を育成する
- 地域社会における自分の役割を考え、地域活動を体験する。（防災・あいさつ・地域清掃）
- 進路選択にあたり、保護者との連携を密にし、ガイダンス機能の充実に努める



1. 教育目標（めざす子ども像）

- (1) 思いを語り合い、考え合い、学びを深め合う生徒の育成
- (2) 人の役に立つことにより、自分を更新できる生徒の育成
- (3) ちがいを活かし、ともに生きる未来を創る生徒の育成

2. めざす学校像

すべての人の命をとことん大切にする未来。
その未来をともに創る子どもたち。
その子どもたちの力を引き出す学校。

3. 教育の重点

(1) **学習指導**

○すべての子どもたちがつながり合い学びあう授業の創造で、基礎・基本の定着と、自ら学び考える力の育成をめざす。

- 学力（思考力・判断力・表現力）向上のための授業改善
- 「わかった！できた！」感動のある授業から、「わかった！できた！！頑張れた！！！」と思えるテスト体験
- ICT機器の効果的活用（ロイロノートなどで思考力向上・教材の視覚化）
- 個別最適な学びを保障する。そのための「困り感シート」「つまづきシート」の活用
- 教材研究と指導方法の工夫改善により、つながり合い学び合う「協働的な学び」の実現
- 家庭学習の充実（KGノートの充実）

(2) **生徒指導**

○生徒や保護者との豊かな人間関係・信頼関係を基盤として、生徒一人ひとりの命をとことん大切にしたい生徒指導の充実に努める。

- 成長を促す指導（生徒支援委員会からの発信）
 - ・ 自己有用感を高めることにより、自尊感情を高め、いじめ・問題行動・不登校に向かわせない。
- 寄り添い、向き合う生徒指導
 - ・ ありのままの子どもの姿を受け入れる
 - ・ 子どもの背景を知るために、家庭訪問や子どもの話、保護者の話を聴く。
 - ・ 課題と向き合わせるために、スモールステップで根気よく支える。
- 虐待・いじめ・不登校・問題行動への早期発見・チーム対応・関係諸機関との連携。
- 子どもと子どもをつなぐ集団づくり
 - ・ 不登校生とクラスをつなぐ。
 - ・ 配慮の必要な子が排除されず、クラスに居場所があるように子ども同士をつなぐ。

(3) **特別活動**

○集団づくりを通じて、生徒どうしをつながり合わせることから、生徒一人ひとりが自己肯定感、自己有用感を持ち、自尊感情を高め、自分の命も他者の命もとことん大切にする学校の気風を醸成する。

- 学校は子どもが生活するミニ社会と考え、自分たちの社会で起こっている問題を自分たちで考え解決する集団を育む。（シチズンシップ＝主権者の育成）
- 学校生活の困り感を解消するために動く生徒会の指導
- 学校という集団の中での生徒一人ひとりの役割を提供し、役割を果たすことで「おかげで」と感謝され、「役に立った」と思える取組みを進める。

(4) **人権教育、道徳教育、心の教育**

○「共に生きる」を柱にした人権尊重の教育を推進する。

- いじめに向かわない子どもの育成のため、人権ベースの道徳教育・いじめを許さない集団づくりを進める
- 様々な社会的弱者への差別を知り、差別解消のための学びを深め、主体的に行動する人権教育の充実
- 命の尊さに気づき、互いの「違い」を認め合える豊かな人間関係づくりを構築するための集団づくり
- 自分の思いや意見を仲間を信じて語り合い、他の人の思いや意見について自分との違いを考え、議論する道徳の指導方法の研究を図る。

(5) **キャリア教育・進路保障**

○自分自身の生き方を見つめ直し、主体的に進路を選択し決定できる能力や態度を育成する。

- 自分の人生における役割をどう果たすかを主体的に考え、実践する力を育てる。
 - ・ 職場体験の充実
 - ・ 社会において、様々な役割を果たしている人の生き様を聞いて学ぶ
- 主体的に進路を選択し決定できる能力や態度を育成する
- 地域社会における自分の役割を考え、地域活動を体験する。（防災・あいさつ・地域清掃）
- 進路選択にあたり、保護者との連携を密にし、ガイダンス機能の充実に努める

(6) **支援教育**

○共に学び共に育つ支援教育の視点を基盤とし、障がいのある生徒一人ひとりに応じた教育を行い、社会の一員として主体的に生きる力を育む。

- 発達障がいなど様々な障がいの理解とその支援方法を学び、障がいのある生徒が通常の学級でクラスの仲間とともに学びともに育つための支援教育＝インクルーシブ教育に努める。
- 通常の学級におけるユニバーサルデザインの観点を取り入れたわかる授業づくり
- 一人ひとりの障がい理解と個のニーズに応じた支援方法の共有
- ソーシャルスキルの向上をめざした学習・生徒指導・ともに学びともに生きるインクルーシブ教育の観点を基盤とした社会の一員として、主体的に生きる力を育む。
- 通級指導教室の指導の充実（困り感のある生徒の存在に気づき、状況を把握した指導）

(7) **社会に開かれた学校・教育コミュニティの構築**

○開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域から信頼され、安心して通わせられる学校と評価される誇りある学校づくりをめざす。

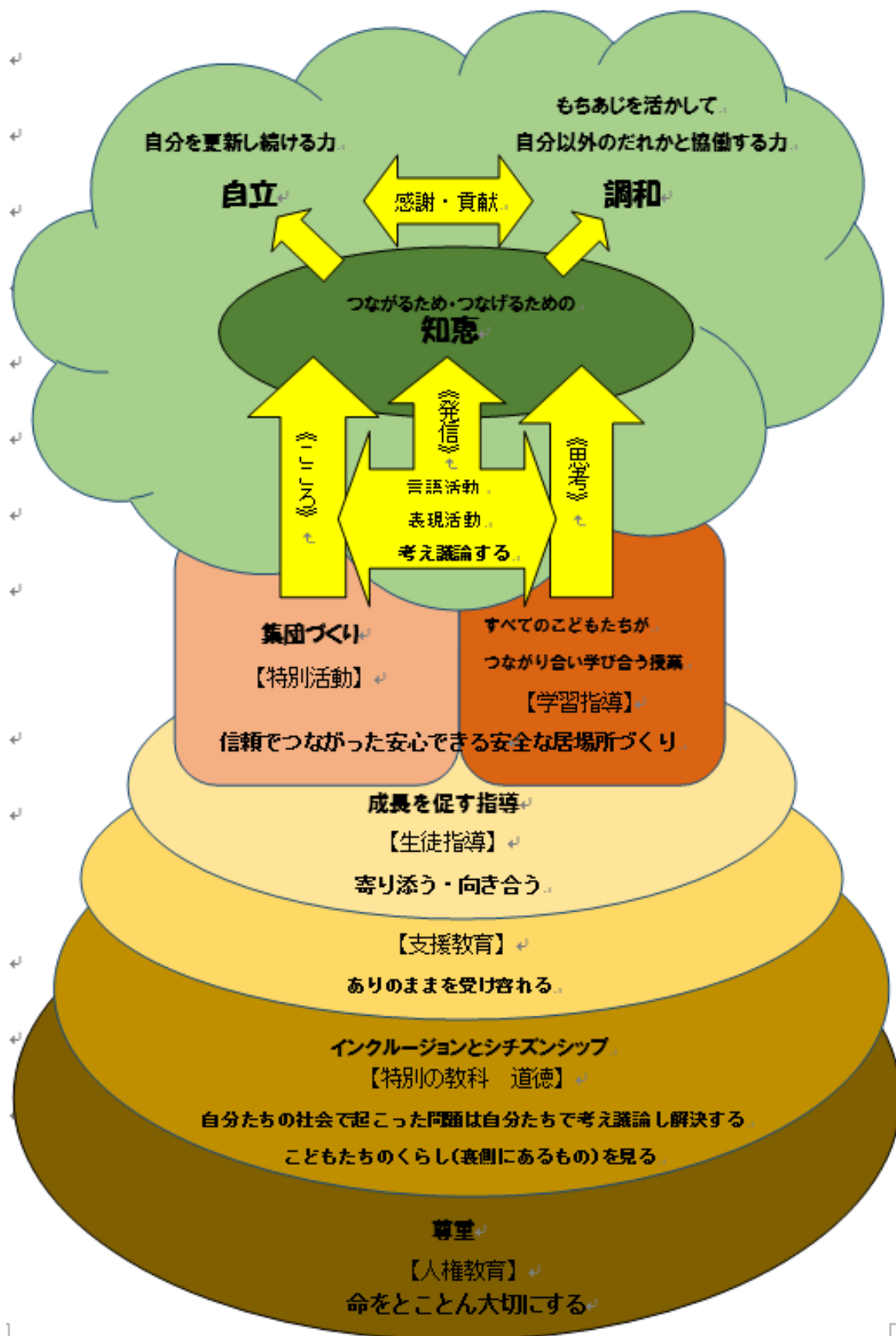
- 学校の情報発信 ・ 信頼される学校だより ・ HPへの充実
- 学校運営協議会の充実 ・ 学校の課題共有と解決策の協議
 - ・ 課題1：社会に開かれた学校・教育課程としてキャリア教育での地域人材活用
 - ・ 課題2：地域まちづくりへの子どもたちの参画
- 子育ての「共育者」として、保護者・健全育成会・青少年指導員・民生児童委員等、地域の人々との連携強化。
- 生徒会と地域との連携 ・ ボランティア活動

(8) **安全対策**

○自らの命を大切にするとともに、他者の命を大切に、地域の安全を守る主体としての自覚を育てる。

- 自他の生命を尊重するとともに、災害などから自らの生命を守り、安全を確保するために必要な能力や態度を育成する。（危険の予測・的確な判断・回避のための行動）
- 不測、緊急の事態の発生に備えた訓練等、校内安全対策を推進する。

千代中の木



6. 在籍生徒数(令和4年4月8日現在)

組		1	2	3	4	5	合計
1年	男	22	23	22	22		89
	女	18	17	17	18		70
計		40	40	39	40		159
2年	男	19	19	20	20		78
	女	23	23	22	22		90
計		42	42	42	42		168
3年	男	18	19	18	19		74
	女	21	21	22	21		85
計		39	40	40	40		159
合計		男子 241	女子 245	計			486

7. 各教科の年間授業時数

教科	学年												合計
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習	
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

8. 日課表

	通常授業	5時間授業	短縮授業	短縮4時間授業
登校	8:25	8:25	8:25	8:25
職員朝礼	8:20 ~ 8:25	8:20 ~ 8:25	8:20 ~ 8:25	8:20 ~ 8:25
朝学習/学活	8:25 ~ 8:45	8:25 ~ 8:45	8:25 ~ 8:45	8:25 ~ 8:45
第1校時	8:50 ~ 9:40	8:50 ~ 9:40	8:50 ~ 9:35	8:50 ~ 9:35
第2校時	9:50 ~ 10:40	9:50 ~ 10:40	9:45 ~ 10:30	9:45 ~ 10:30
第3校時	10:50 ~ 11:40	10:50 ~ 11:40	10:40 ~ 11:25	10:40 ~ 11:25
第4校時	11:50 ~ 12:40	11:50 ~ 12:40	11:35 ~ 12:20	11:35 ~ 12:20
昼食休憩	12:40 ~ 13:20	12:40 ~ 13:20	12:20 ~ 13:00	
第5校時	13:25 ~ 14:15	13:25 ~ 14:15	13:05 ~ 13:20	
第6校時	14:25 ~ 15:15		14:00 ~ 14:45	
学活	15:15 ~ 15:30	14:15 ~ 14:30	14:45 ~ 15:00	12:20 12:30
班別清掃	15:30 ~ 15:40		15:00 ~ 15:10	

下校時刻

	部活動終了時刻	最終下校時刻
2月~9月	17時15分	17時30分
10月~1月	16時45分	17時00分

※午前中で授業の終わる時
家庭訪問・懇談期間中 テスト最終日 等
部活終了 : 16時45分
下校時刻 : 17時00分

9. 道徳・学活・総合の時間、および学年集会の配置

	月	火	水	木	金
短学活		1年学年集会	3年学年集会	2年学年集会	
1限					
2限					
3限					
4限					
5限			道徳		
6限		学活	全学年総合	2・3年総合	全学年総合

10. 各学年の時間割

学年	月	火	水	木	金	
1-1	1	社	英	理	社	英
	2	英	社	国	保体	美
	3	技	家	保体	国	保体
	4	音/美	国	数	数	理
	5	理	数	道	英	国
	6	数	学	補填	音	補填
1-2	1	国	家	社	数	美
	2	技	英	数	保体	英
	3	英	理	保体	英	保体
	4	美/音	社	国	社	数
	5	数	国	道	音	理
	6	理	学	補填	国	補填
1-3	1	英	理	数	英	理
	2	数	技	保体	社	数
	3	音/美	国	国	保体	国
	4	理	英	社	音	英
	5	家	保体	道	国	美
	6	社	学	補填	数	補填
1-4	1	数	数	国	理	数
	2	理	国	保体	国	国
	3	美/音	英	音	保体	英
	4	英	技	理	英	美
	5	社	保体	道	数	社
	6	家	学	補填	社	補填
2-1	1	家	社	音	美	理①
	2	理②	国	理②	数	数
	3	英	数	社	英	技
	4	体育	保健	国	国	体育
	5	国	英	道	理①	英
	6	社	学	補填	補填	補填
2-2	1	数	数	英	社	家
	2	社	音	国	英	技
	3	国	社	理②	美	英
	4	体育	保健	数	理②	体育
	5	英	理①	道	国	国
	6	理①	学	補填	補填	補填
2-3	1	英	理①	理①	英	数
	2	数	英	美	社	家
	3	理②	音	国	理②	社
	4	国	国	英	体育	国
	5	体育	社	道	数	保健
	6	技	学	補填	補填	補填
2-4	1	理①	音	美	数	技
	2	英	社	英	理②	理①
	3	家	英	数	国	国
	4	社	数	理②	体育	英
	5	体育	国	道	社	保健
	6	国	学	補填	補填	補填
3-1	1	国	数	国	国	理
	2	英	保体	英	数	保体
	3	保体	理	数	理	英
	4	理	美	技/家	社	音
	5	数	社	道	英	社
	6	社	学	補填	補填	補填
3-2	1	理	美	理	社	国
	2	社	保体	数	国	保体
	3	保体	社	社	英	音
	4	国	理	家/技	理	英
	5	英	英	道	数	数
	6	数	学	補填	補填	補填
3-3	1	美	国	社	数	音
	2	保体	理	国	社	数
	3	社	保体	理	技/家	国
	4	数	英	保体	英	社
	5	理	数	道	理	英
	6	英	学	補填	補填	補填
3-4	1	数	国	数	理	社
	2	保体	英	理	英	音
	3	国	保体	英	家/技	国
	4	英	社	保体	数	理
	5	社	美	道	社	理
	6	理	学	補填	補填	補填

11. 年間テスト計画

	1、2年	3年
1学期中間テスト	5月26日・27日	
1学期期末テスト	6月29日・30日・7月1日	
2学期中間テスト	10月13日・14日	
2学期期末テスト	11月22日・24日・25日	
学年末テスト	3月1日・2日・3日	2月1日・2日・3日
第1回実力テスト		
第2回実力テスト	10月6日	
第3回実力テスト	11月11日	
第4回実力テスト	1月11日・12日	
チャレンジテスト	1月11日	9月6日

12. 各月の定例行事

(1) 定例会議（基本）

第1木曜日・・・指導部会

第2木曜日・・・職員会議

第3木曜日・・・学年会議

(3) その他の会議

毎月開く会議

調整委員会、支援教育委員会、生徒支援委員会、フレックス会議

毎週開く会議

生徒指導関係連絡会・・・月曜1限

毎朝開く会議

早朝ミーティング

適宜開く会議

進路対策会議、管理部会、教育課程委員会／学校行事検討委員会（運営委員会）、教科会議、学力向上委員会、校内人権、学年人権

※ 運営委員会は、校長・教頭・首席・学年主任・教務主任・生徒指導主事

児童生徒支援コーディネーターをもって組織し、学校における課題解決や活性化のための企画の提案・検討を行うために開催する。

※ 調整委員会は、職員会議への案件・日程調整を行う。

※ 各学年・各教科・各部から提出された問題や研究事項について定例の会議で審議をつくることができなかつたとき、及び学年主任会・小委員会等で全体会議の必要と認めたととき、また各学年・各部からの要求があつたときは、臨時に職員会議を開く。

※ 定例会議・研修会・研究会等が開かれるときは、原則として部活動は行わない。

(3) 集会

全校集会・・・月に1回（基本水曜日1限目に実施）

1年学年集会・・・毎週火曜日（朝）

2年学年集会・・・毎週木曜日（朝）

3年学年集会・・・毎週水曜日（朝）

(4) 千代田タイム

班長会議・カウンセリング等を目的とした時間を月2回程度確保する

13. 年間行事計画(1) (2021年4月30日時点)

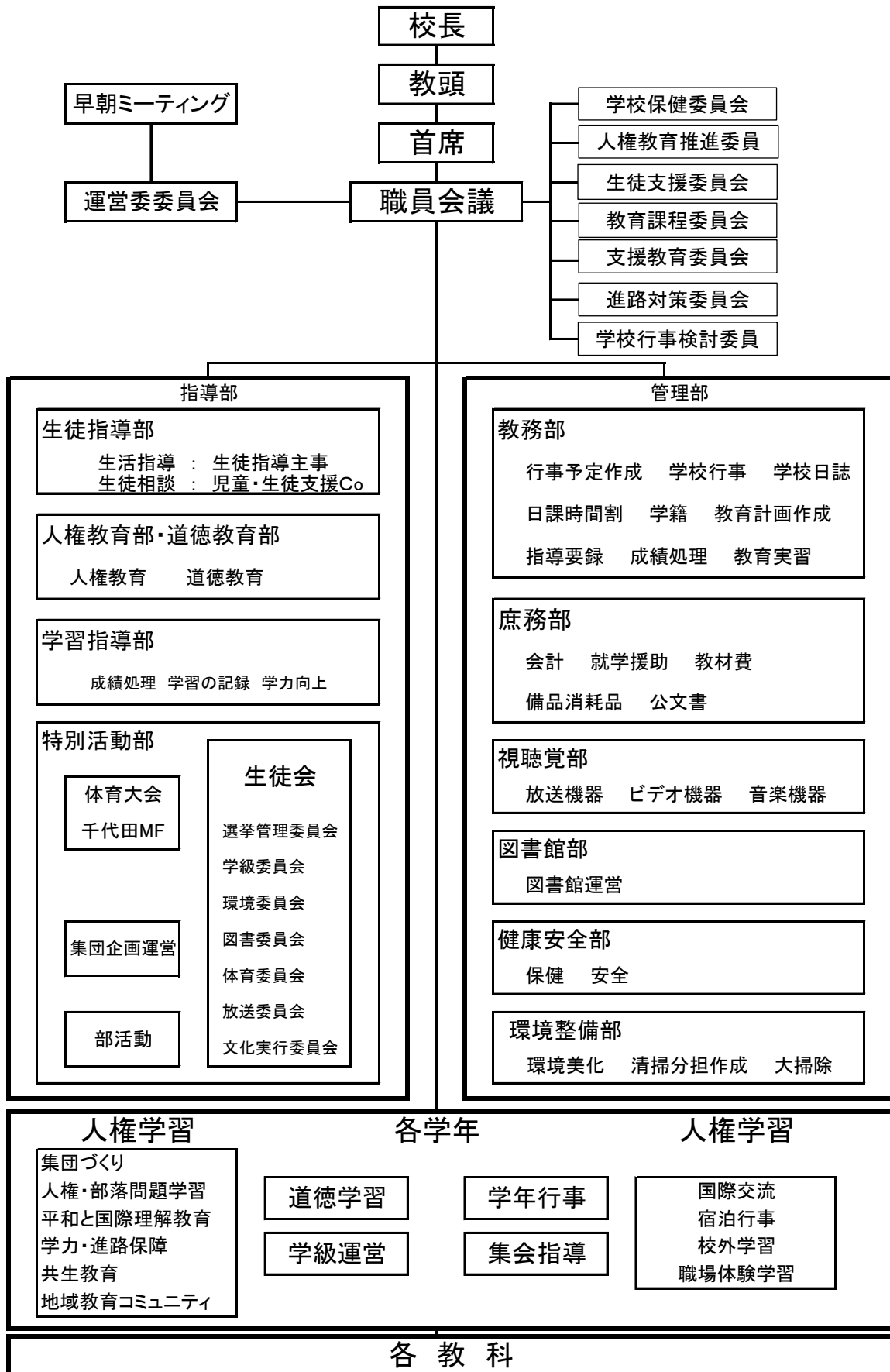
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
儀式的行事	入学式 始業式 赴任式 離任式			終業式		始業式
学校行事	家庭訪問	授業参観			平和登校日	
1年学年行事			校外学習			
2年学年行事			宿泊訓練			
3年学年行事			修学旅行			
フレックス (支援学級)				交流会(学級)		
テスト		中間テスト 3年全国学力調査	期末テスト			実力テスト(全学年) 3年チャレンジテスト
保健行事	身体測定 視力聴力 尿検査(1次・2次) 眼科検診 耳鼻科検診 心臓検診(1次)	内科検診 歯科検診	心臓検診(2次) プール水質検査			
人権教育部		校内人権	校内人権	現地学習会	平和登校日	校内人権
学習指導部	「学習の手引き」作成 授業公開MONTH		評価検討		夏季小中合同研修	
生徒指導部	通学路の確認	いじめ・暴力など 困ったら相談・集会 生活アンケート	カウンセリング	あいさつ運動 犯罪防止教室		あいさつ運動 生活アンケート
特活部	クラブミーティング 委員決め		団長決定 団の色決め	応援取り組み	応援取り組み	応援取り組み
健康安全部		交通安全指導 避難訓練 救命救急講習		安全点検		
進路			進路対策委員会 校内進路説明会			
教務部	時間割作成	教育計画作成				諸帳簿点検
環境整備	清掃用具の点検 清掃分担決定		美化活動	油引き		
視聴覚	入学式放送機器の点検	購入計画作成		機器の点検		体育大会放送機器の点検
図書		貸し出し活動開始				
小学校関係	小中連絡会 学力向上会議 小中一貫教育 コーディネーター会議	小中連絡会	あいあい活動 (千代田駅前挨拶活動) 小中一貫教育 コーディネーター会議	小中連絡会	小中合同研修会	小中連絡会
研修関係	市教研総会(中止) 市人権総会(中止)		人権教育講座	市人研1日研 フォーラム 夏季研修	夏季研修	
PTA 関係	学級委員選出(中止)	PTA総会		あいさつ活動		あいさつ活動

年間行事計画(2)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
儀式的行事	創立記念日 (10/1)		終業式	始業式		卒業式 修了式
学校行事	体育大会	千代田MF 土曜参観				
1年学年行事		MF発表	国際交流			球技大会
2年学年行事		MF発表	職業に関する学習			球技大会
3年学年行事		MF発表				学年お別れ会
フレックス (支援学級)	なかよし運動会	なかよし卓球大会 小中交流会	交流会(市)		なかよし作品展	
テスト	3年実力テスト 中間テスト	3年実力テスト 期末テスト		3年実力テスト 1,2年 チャレンジテスト 3年学年末テスト	1,2年 学年末テスト	
保健行事	尿検査(1次)	尿検査(2次) 照度検査			空気検査	
人権教育部	校区人研	研 修 (支援学級予定者)	校内人権	校区人研	校内人権	
学習指導部	校内研究授業		評価についての研究			
生徒指導部	小中生指研	カウンセリング	半日体験入学	あいさつ運動	SNS講演会 生活アンケート	小学校訪問
特活部	後期生徒会選挙	千代田MF 小学生体験入学				お別れ会 前期生徒会選挙
健康安全部	交通安全指導 避難訓練		安全点検			安全点検
進路	市合同説明会 校内進路説明会	進路会議 進路懇談	進路会議 進路懇談	進路相談 面接練習	進路会議 進路懇談	
教務部			諸帳簿点検		年度末反省会議	年度末反省会議 諸帳簿点検
環境整備	美化活動 清掃用具点検	美化活動	油引き		美化活動	油引き 教室整備
視聴覚			機器の点検			卒業式放送機器の点検
図書			蔵書点検	図書の整理		図書の整理
小学校関係	小中一貫教育 コーディネーター会議 あいあい活動 (千代田駅前挨拶活動)	小中連絡会 新生保護者説明会	小学生体験入学 小中一貫教育 コーディネーター会議	制服採寸	小中連絡会 小中一貫教育 コーディネーター会議 物品販売 あいあい活動 (千代田駅前挨拶活動)	物品販売 小中生指連絡会
研修関係		地区教研 市教研		小中連絡会研修	校内研修会 (総括)	
PTA 関係	バラエティーフェスタ	美化キャンペーン 教育講演会		あいさつ活動		

14. 校務分掌

千代田中学校校務分掌図



【委員会】

調整委員会

校長(坂本), 教頭(楠本), 首席(小椋), 教務主任(中村高), 児童・生徒支援Co(土井・河野香)
学年主任(小椋、川野仁、宇野), 指導部長(塚本、川野香、御園生、益本), 生徒指導主事(益本), 保健主事(山崎)
支援学級(柏原), 主査(寶木)

教育課程委員会

校長(坂本), 教頭(楠本), 首席(小椋), 教務主任(中村高)
教科主任(大多、御園生、堂前、石黒、松岡、塚本、江城、山崎、和田)

校外行事検討委員会

運営委員会が兼務する

進路対策委員会

校長(坂本), 教頭(楠本), 進路指導主事(中村誠), 教務主任(中村高)
学年主任(小椋、川野仁、宇野), 3年担当職員

支援教育委員会 (フレックス会議・月1回)

支援学級担任(池田・岩下・片山・阪本・柏原)
通級担当(喜寿) 介助担当(波戸岡) 発達支援員(堂上) 生徒支援員(荒川)

支援教育委員会 (支援教育会議・2か月に1度)

校長(坂本), 教頭(楠本), 学年主任(小椋、川野仁、宇野) 時々に応じて 児童・生徒支援Co(土井・川野香)
支援学級担任(池田・岩下・片山・阪本・柏原) 生徒指導主事(益本) 通級担当(喜寿)

生徒支援委員会

校長(坂本), 教頭(楠本), 児童・生徒支援Co(土井・川野香), 生徒指導主事(益本)
通級教室担当(喜寿), 学年主任(川野仁、宇野、小椋), 支援教育Co(柏原), 養護教諭(河口)
指導部長(塚本、川野香、御園生、益本)

運営委員会 / (早朝ミーティング 毎朝8:10より実施)

校長(坂本), 教頭(楠本), 児童・生徒支援Co(土井・川野香), 生徒指導主事(益本), 学年主任(小椋、川野、宇野)

学校保健委員会

学校三師(宮崎学校医、上堂学校歯科医、澤田学校薬剤師)、PTA代表、校長(坂本)、教頭(楠本)、
保健主事(山崎)、養護教諭(河口)、健康安全部

令和4年度 校務分掌 指導部構成

指導部メンバー

	1年	2年	3年
人権道德教育部 部長：塚本	山田	スニー・大多	喜多・柏原
特別活動部 部長：川野香	山崎 児玉	堂前・山本 松岡	西村・二川 中村高
学習指導部 部長：御園生	小椋 浦川	石黒・片山 阪本	中村誠 江城・石坂
生徒指導部 部長：益本	池田・岩下	川野仁・和田	宇野・河野

◇人権教育部【塚本】

校内分科会(市人研分科会と共通)	1年	2年	3年
集団づくり	児玉・岩下	堂前・山本	二川・喜多
人権学習・部落問題学習	川野香・塚本・益本	松岡・大多	中村高・河野
平和と国際理解・多文化共生	山崎・小椋	川野仁・阪本	江城・西村
進路保障・学力保障	御園生・山田・土井	スニー・和田	中村誠・石坂
共生教育	浦川・池田	片山・石黒	柏原・宇野

☞ 学年所属のない先生は学年親睦会の所属で表記

◇特別活動部【川野香】

生徒会担当			
生徒会	川野香		
選管	児玉・中辻		
集会	川野香		
部活動	松岡・西村		
特活部専門委員会担当	1年	2年	3年
学級委員会	川野香・山田	堂前・スニー	二川・宇野
環境委員会	御園生・小椋	和田	中村高・石坂
体育委員会	山崎・池田	川野仁・阪本	河野・喜多
図書委員会	浦川・岩下	山本・片山	柏原
放委員会送	児玉	石黒	中村誠
ミュージックフェスティバル実行委員会	塚本	松岡・大多	江城・西村

◇学習指導部【御園生】

	1年	2年	3年
成績処理 学習の記録 学力向上	御園生・小椋・浦川	石黒・片山・阪本	中村誠・江城・石坂

◇生徒指導部【益本】

		1年	2年	3年	養護教諭
生活指導係	益本	池田・岩下	川野仁・和田	宇野・河野	河口
生徒相談係	土井				

◆管理部

	1 年	2 年	3 年
教務部	岩下・御園生	阪本・堂前	柏原・中村高
庶務部	小椋	川野仁	宇野
健康安全部	山崎・池田	川野仁・山本	二川・喜多
環境整備部	児玉・浦川	松岡・和田	石坂・西村
図書館部	塚本	片山・大多	中村誠
視聴覚部	山田・川野香	スニー・石黒	河野・江城

教科研究組織と教科主任

教科	教科主任	教科担当者	計	31
国語	大多	小椋・中村誠・柏原		4
社会	御園生	川野仁・河野		3
数学	堂前	児玉・二川・喜多		4
理科	石黒	山田・石坂		3
英語	松岡	川野香・浦川・スニー・宇野・西村・片山		7
音楽	塚本			1
美術	江城			1
保健体育	山崎	池田・岩下・中村高・益本・土井		6
技術・家庭	和田	山本		2

その他担当者

道徳教育推進委員	塚本
フォーラムプロジェクトチーム	松岡
英語活動推進担当	浦川
「ICT活用」推進担当者	御園生
学力向上推進委担当	御園生
市人研事務局員	江城
市人研運営委員	喜多
支援教育コーディネーター	柏原
小中一貫教育コーディネーター	中村高
生徒支援コーディネーター	土井
スクールカウンセラー	三浦
司書教諭	額田
言語力向上司書職員	額田
生徒支援員	荒川
英語指導支援員	ネルソン・フィリップ・アンドリュース
発達支援員	堂上
介助支援員	波戸岡
学校管理員	清田・大濱・西

15. 各学年目標

○第1学年 目標 お互いの個性を認め合うことで仲間との調和を目指す

- 1 中学校生活の規律とリズムを身につけさせ、3年間の学校生活の基礎をつくる。
- 2 基礎学力の定着をはかり、学習につまずきがちな生徒の指導法を工夫するとともに、学習習慣を身につけさせる。
- 3 共に考え、協力し、助け合える学級集団・学年集団をつくる。

月	ねらい	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学級づくり ・生徒理解を深める 	学校生活のきまりを確認し、早く学校生活に慣れさせる 家庭訪問の実施 部活動への参加
5	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり ・学級づくり ・学習態度の確立 	班づくりをとおし、仲間とのふれあいを深める 学級目標、係活動の意義を深める 学習活動の重要性を理解させ、主体的な学習態度を身につけさせる
6	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習 	校外学習への取り組みと反省
7	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の反省 ・夏休みの計画 	1学期の学級経営の反省 家庭との連携(個人懇談会) 有意義な夏休みの過ごし方
8	<ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・部活指導 	学習指導及び生徒指導向上のための研修・自己研鑽 生徒指導
9	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の規律 ・集団行動、学級の和 	夏休みの反省と2学期の計画 体育大会に参加(協調性・自主性)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動を高める ・生徒会活動 	MFに参加(創造力・責任感) 生徒会活動に参加(役員選挙)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・学習へのより積極的な取り組み 	学習態度について考えさせる
12	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の反省 ・冬休みの計画 	2学期の学級経営の反省 家庭との連携(個人懇談会) 有意義な冬休みの過ごし方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新年の抱負と計画 	個人目標の確立、学級目標・学級活動の点検 学級経営の充実
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の分析と進路 	自分の性格、長所短所を知り、進路について考えさせる
3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめ ・2年生への展望 	1年間の学級経営の反省 2年生への心構えを持たせる

○第2学年 目標

- 1 たがいに理解し合って認めあい、ともに考えて行動し、協力し、助け合える学年集団を育成する。
- 2 自主自律をめざし、積極的に正しいことを実践できる生徒を育成する。
- 3 ひとりひとりの生徒が主体的に学習に取り組める授業を創造する。

月	ねらい	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学級集団づくり ・学習目標の確立 	学級目標と組織づくり、係活動の意義を深める 学習環境の整備 学習計画
5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度の確立 ・集団の活性化 	授業の工夫と積極的な学習への取り組み 宿泊学習への取り組み
6	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習 	宿泊学習への取り組みと反省
7	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の反省 ・夏休みの生活設計 	1学期の学校生活の反省 学級経営の見直し 有意義な時間のすごしかた 家庭との連携
8	<ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・部活指導 	学習指導及び生徒指導向上のための研修・自己研鑽 生徒指導
9	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの成果 ・集団行動の充実 ・学級の和 	夏休みの反省、2学期の計画 体育大会への参加(協調性・自主性)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学習へのより積極的な取り組み ・生徒会活動の充実 	授業の充実 積極的な学習活動の展開 協力して学校行事に取り組む 生徒会活動への参加(役員選挙)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動の推進 	学級活動の意義を深める
12	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の反省 ・冬休みの生活設計 	2学期の学校生活の反省 学級経営の反省 充実した休業中の生活設計
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新年の抱負と計画 	学級目標・学級活動の点検 修学旅行にむけて学習 学級経営の充実
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の分析と進路 	日常の人間関係を見直す 進路についての認識を深める
3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめ ・3年生への展望 	1年間の学校生活の反省 1年間の学級経営の反省と評価 修学旅行に向けての学習と取り組み

○第3学年 目標

- 1 最高学年としての自覚をもたせ、規律ある生活態度と基礎学力の定着をめざす。
- 2 生徒集団の質を高め、生き生きとした学校生活を体験させるとともに進路保障を行う。

月	ねらい	
4	・学級の組織づくり	学校生活のきまりのたしかめ
5	・仲間づくり	学校・学級の組織づくり、仲間づくり 係活動の意義と積極的な参加 修学旅行への取り組み
6	・学習態度の育成 ・修学旅行 ・進路の選び方 1	助け合い学習、学習の計画づくり 修学旅行への取り組み 進路の選び方、学習と健康
7	・1学期の反省 ・夏休みの生活設計	修学旅行への取り組み 1学期の確かめと学級経営の反省 健全な余暇活動、家庭との連携
8	・研修 ・部活指導	学習指導及び生徒指導向上のための研修・自己研鑽 生徒指導
9	・生活の規律 ・集団行動、学級の和	夏休みの反省と2学期の計画 体育大会への参加
10	・進路の選び方 2 ・生徒会活動	進路情報と進路相談 進路の選び方
11	・係活動の推進	奉仕する態度
12	・2学期の反省 ・冬休みの生活設計	2学期の生活の反省と学級経営の反省 健全な余暇活動、休暇中の生活指導
1	・新年の抱負と計画 ・進路指導	学級目標・学級活動の点検、学級経営の充実 進路を考える
2	・進路指導	進路を考える
3	・卒業にあたって	卒業までの学校生活 学校生活の反省と評価

16. 学習指導の重点

目標

1. 自ら学ぶ力を身につけさせるため、多方面から学習活動を援助する。
2. 生徒一人ひとりの成長のため、きめこまかな指導と指導力の向上をめざす。

○教科学習・学力保障

A. 研究方針

1. 教科の特性に応じ、教材の精選と構造化をはかる。
2. 学習に遅れがちな生徒の早期発見と、その指導を基本にすえた学習活動を展開する。
3. 学級集団の質を高め、主体的に参加し、相互に伸び合える学習活動を展開する。
4. UD及び支援教育の観点から、わかりやすい授業づくりに関する研究を継続していく。
5. より適切な評価についての研究を進める。
6. 学力保障という観点をもち、学習習慣を定着させる。

B. 方針への取り組み

1. 目標の明確化につとめ、タブレットなどのICT機器を活用し、効率の高い指導をおすすめる。
2. 基礎学力の定着をはかるための指導法や指導の機会・場の工夫をおこなう。
3. 指導形態の工夫により、生徒が自主的・意欲的に取り組む学習活動の研究を進める。
(T・T, 少人数授業, 習熟度別授業など)
4. 学習習慣を身に着けるために15分間の朝学習を行い、各教科の基礎・基本の定着を進める。

C. 研究の進め方

1. 授業公開WEEKSや研究授業を通じて授業力向上に努め、教科内での目標の達成をはかる。
2. 教科会を活発に開き、教科内で生徒の実態に即した互いの実践を交流し合う。
3. 相互の共通理解を深め、足なみをそろえて指導にあたる。

○研修計画

研究テーマ「すべての子どもたちがつながり合い学び合う授業」
～基礎基本の定着と、自ら学び考える力の育成～

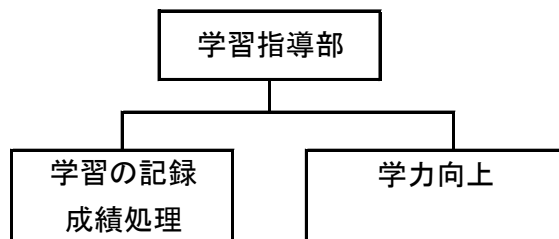
A. 研究方針

- ・ 授業の中で、言語活動の機会を取り入れ、生徒の学習意欲の向上をめざす。
- ・ 学力保障に向けた具体的な取り組みの研究と評価方法についての研究を進める。
- ・ 新学習指導要領及び本校の課題を全教職員が共通認識のもと、一致協力して取り組めるような研修および研究を実施する。その際、タブレット端末を利用し、個別最適な学び、協働的な学びの推進を図る。
- ・ 授業規律の確立と家庭学習習慣の定着をめざす取り組みを行う。

B. 具体的な取り組み

- ・ 教科 興味関心を引く授業、生徒それぞれの個性や到達度に応じた指導方法、学習集団づくりを意識した授業を研究する。タブレット端末を利用し、個別最適な学び、協働的な学びを進める。
- ・ 総合 より豊かな学習活動が展開できるように、活動内容の単元化をはかり、実践研究する。

C. 組織



D. 年間計画

月	研修・研究の内容	学力向上
4	研究方針立案 研究計画の確認 各教科の研究課題の設定と確認	活動方針検討 授業における共通認識の作成 学習規律に関する啓発活動
5	校内研修(評価の手引き、ヒヤリハット)	公開授業WEEKS 放課後学習会開始
6	各教科の評価の基準設定と確認	
7	夏季研修会企画立案	KGノートに関するアンケート分析
8	夏季校内研修会 ・テーマ別課題研究討議	小中連携校区研修会 ・タブレット端末を利用した授業づくりについて
9		
10	研究授業 ・「eラーニング」についての研修	市教研(教科) 地区教研(教科) 校内全体研究授業(国・社・数・理・英・保体・(支援))
11		
12	評価についての研究 ・学指導要録に基づいた3観点評価の規準の確認 「指導と評価の一体化」について	KGノートに関するアンケート分析
1	次年度への反省・課題の検討	各種アンケート分析
2		年度末反省
3	一年間の活動の反省と次年度への課題確認	

国語

【目標】

国語への興味を持たせ、みんなが参加できる授業の研究。
(書く力の育成)

【計画】

- 1 学期 教材の精選と研究。
- 2 学期 教材研究・指導法の交流。
- 3 学期 まとめと反省。

国語年間計画

1 年			2 年			3 年		
月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数
4	野原はうたう 朝のリレー	5	4	見えないだけ アイスプラネット	9	4	世界はうつくしいと 握手	10
5	シンシュン ダイコンは大きな根?	12	5	枕草子 熟語の構成 敬語	12	5	学びて時に之を習ふ	9
6	ちょっと立ち止まって 詩の世界 比喻で広がる言葉の世界	18	6	クマゼミ増加の原因を探る 「自分で考える時間」をもとう	18	6	作られた「物語」を超えて 俳句の可能性	12
7	大人になれなかった弟たちに… 言葉のまとまりを考えよう 指示する語句と接続する語句	10	7	短歌に親しむ 短歌を味わう 文法	10	7	俳句を味わう	7
9	星の花が降るころに 方言と共通語 漢字の音訓 「言葉」を持つ鳥シジュウカラ	19	9	文法 言葉の力 盆土産	15	9	挨拶 故郷	13
10	蓬菜の玉の枝―「竹取物語」から 今に生きる言葉	14	10	字のない葉書 同訓異字	14	10	人工知能との未来 人間と人工知能の創造性	12
11	「不便」の価値を見つめなおす 言葉の関係を考えよう	17	11	モアイは語る―地球の未来 源氏と平家 「平家物語」 扇の的	17	11	初恋 和歌の世界 書写	13
12	書写「天地」・「いろは歌」・「大木」	11	12	文法(助詞・助動詞) 「徒然草」 仁和寺にある法師	11	12	古今和歌集仮名序 書写	8
1	「少年の日の思い出」 単語の性質を見つけよう	14	1	「漢詩」 書写 「走れメロス」	14	1	夏草 誰かの代わりに	8
2	随筆二編 さまざまな表現技法 漢字の成り立ち さくらの はなびら	12	2	月夜の浜辺 類義語・対義語	12	2	温かいスープ あたしを束ねないで	8
3	書写「栄光」・「平和」 一年の振り返り	8	3	君は「最後の晩餐」を知っているか 同音異義語	8	3	三年間の歩みを振り返ろう	5

社会

【目標】

基礎学力の定着に重点をおきながら、社会への興味と関心を高め、自主的に学ぶ姿勢や力を身につけさせる。

【計画】

1～3学期・・・教材の精選をし、指導内容・課題の与え方について研究する。情報の集め方やまとめ方、報告の仕方等について研究する。各学年の取り組みを情報交換する。自ら学ぶことに重点をおき、研修に参加する。

社会年間計画

1 年				2 年				3 年			
月	単元 指導内容		時数	月	単元 指導内容		時数	月	単元 指導内容		時数
	《地理的分野》	《歴史的分野》			《地理的分野》	《歴史的分野》			《歴史的分野》		
4	第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿		8	4	第1章 身近な地域の調査	第2章 武家政権の成立と東アジア 1. 武士の世の始まり	8	4	第5部 近代国家の歩みと国際社会 5. 帝国主義と日本 6. アジアの強国と光と影	9	
5	第2章 日本の姿	第1部 歴史のとらえ方と調べ方 第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり	10	5		2. 武家政権の外と内 3. 人々の結びつきが強まる社会	10	5	第6部 二度の世界大戦と日本 1. 第一次世界大戦と民族独立の動き 2. 高まる民主主義の意識 3. 軍国主義と日本の行方	12	
6		第1章 古代国家の成立と東アジア 1. 人類の登場から文明の発生へ	12	6		第3章 武家政権の展開と世界の動き 1. 大航海によって結び付く世界 2. 戦乱から全国統一へ	12	6	第6部 二度の世界大戦と日本 4. アジアと太平洋に広がる戦線 第7部 現在に続く日本と世界 1. 敗戦から立ち直る日本 2. 世界の多極化と日本の成長	15	
7		2. 東アジアの中の倭(日本) 3. 中国にならった国づくり	7	7	第2章 日本の地域的特色	3. 武士による全国支配	7	7	第7部 現在に続く日本と世界 3. これからの日本と世界 《公民的分野》 第1編 私たちと現代社会	10	
9	第2部 世界のさまざまな地域	4. 展開する天皇・貴族の政治	12	9	第3章 日本の諸地域 1. 九州地方		12	9	《公民的分野》 第1編 私たちと現代社会 第2編 私たちの生活と政治 1. 個人の尊重と日本国憲法	15	
10	・アジア州 ・ヨーロッパ州		12	10	2. 中国・四国地方 3. 近畿地方 4. 中部地方		12	10	第2編 私たちの生活と政治 第1章 個人の尊重と日本国憲法 1. 法に基づく政治と日本国憲法 2. 日本国憲法と基本的人権 3. 日本の平和主義	15	
11	・アフリカ州 ・北アメリカ州		12	11	5. 関東地方 6. 東北地方 7. 北海道地方		12	11	第2編 私たちの生活と政治 第2章 国民主権と日本の政治 1. 民主政治と政治参加 2. 国の政治のしくみ 3. くらしを支える地方自治	15	
12	・南アメリカ州		10	12		4. 天下泰平の世の中 5. 社会の変化と幕府の対策	10	12	第3編 私たちの生活と経済 1. 経済のしくみと消費経済 2. 生産の場としての企業 3. 金融のしくみとお金の大切さ	12	
1	・オセアニア州	第2章 武家政権の成長と東アジア 1. 武士の世の始まり	7	1		第4章 近代国家の歩みと国際社会 1. 欧米諸国における「近代化」 2. 開国と幕府の終わり	7	1	第3編 私たちの生活と経済 4. 財政と国民の福祉 第4編 私たちと国際社会 1. 国家と国際社会	12	
2		2. 武家政権の外と内	9	2		3. 明治政府による「近代化」の始まり	9	2	第4編 私たちと国際社会 2. 国際社会の課題と私たちの取り組み 第5編 私たちの課題	15	
3		3. 人々の結びつきが強まる社会	6	3		4. 近代国家への歩み 5. 帝国主義と日本	6	3	第5編 私たちの課題	10	

数学

【目標】

- 学ぶ喜びを感じる授業の創造を目指して、学習内容や個に応じた授業・学習方法を考え実践する。
- 一斉授業の中で個に応じたきめ細かな指導を実践する。

【計画】

- 1学期 ・単元展開計画づくりと単元目標の設定・興味・関心をひく教材開発および指導法の研究
- 2学期 ・意欲的に学習に参加する授業の工夫 ・個に応じた教材や指導方法の研究
- 3学期 ・まとめと反省

数学年間計画

1年			2年			3年		
月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数
4	1章 正の数と負の数 1節 正の数と負の数 2節 加法・減法・乗法・除法	13	4	1章 文字式を使って説明しよう 1節 式の計算 2節 文字式の利用	13	4	1章 文字式を使って説明しよう 1節 多項式の計算	12
5	3節 正の数と負の数の利用 基本問題 問題練習 ※ 素数と素因数分解	17	5	基本問題・問題練習 2章 方程式を利用して問題を解決しよう 1節 連立方程式のその解き方	17	5	2節 因数分解 3節 式の計算の利用	16
6	2章 文字の式 1節 文字を使った式	10	6	2節 連立方程式の利用 基本問題・問題練習		6	2章 数の世界をさらにひろげよう 1節 平方根 2節 根号をふくむ式の計算 3節 平方根の利用	17
7	2節 文字式の計算 3節 文字式の利用	10	7	3章 関数を利用して問題を解決しよう 1節 1次関数 2節 1次関数の性質と調べ方	17	7	3章 方程式を利用して問題を解決しよう 1節 2次方程式とその解き方 ・因数分解による解き方	12
9	3章 方程式 1節 方程式 2節 方程式の利用・問題 比の性質の利用	15	9	3節 2元1次方程式と1次関数 4節 1次関数の利用 基本問題・問題練習		9	・解の公式による解き方 2節 2次方程式の利用 4章 関数の世界を広げよう 1節 2乗に比例する関数	15
10	4章 変化と対応 1節 関数 2節 比例 3節 反比例	25	10	4章 図形の性質の調べ方を考えよう 1節 説明の仕組み 2節 平行と角	20	10	2節 2乗に比例する関数の性質 と調べ方 3節 いろいろな関数の利用	18
11	4節 比例と反比例の利用 基本問題 問題練習 5章 平面図形 1節 直線図形と移動	20	11	3節 合同な図形 基本問題・問題練習 5章 図形の性質を見つけて説明しよう 1節 三角形	27	11	5章 形に着目して図形を調べる 1節 相似な図形 2節 平行線と線分の比 3節 相似な図形の面積と体積	15
12	2節 基本の作図 3節 円とおうぎ形		12	2節 平行四辺形		12	6章 円の性質を見つけて証明しよう 1節 円周角の定理 2節 円周角の定理の利用	10
1	平面図形の計量 基本問題 問題練習 6章 空間図形 1節 立体と空間図形 2節 立体の見方と調べ方	20	1	基本問題・問題練習		1	7章 三平方の定理を活用しよう 1節 三平方の定理 2節 三平方の定理の利用 ・平面図形への利用	19
2	3節 立体の表面積と体積 空間図形の計量 基本問題 問題練習		2	6章 場合の数と確率 1節 場合の数 2節 確率	11	2	・空間図形への利用 8章 集団全体の傾向を推測しよう 1節 標本調査	8
3	7章 資料の活用 1節 資料の傾向を調べよう 2節 データを活用 3節 ことからの起こりやすさ 基本問題 問題練習	10	3	7章 データを比較して判断しよう 1節 四分位範囲と箱ひげ図 基本問題・問題練習		3	復習 3年間の総復習	

理科

【目標】

1. 学習意欲をなくしている生徒のつまずきがどこにあるのかをみつめて、どうすればまなぶことの喜びを与えられることができるかその指導を研究する。
2. 学習の効果を高め、理解を深めるために、教育機器の活用を研究する。
3. 教科内授業研究を通じて、資料や教材の精選、その扱い方・指導を研究する。

【計画】

- 1 学期 理科の学習の効果を高める指導法を研究する。
- 2 学期 教育機器を効果的に活用し、生徒が意欲的に学習に参加し、学ぶ喜びを得る指導法を研究する。
- 3 学期 資料の整理・研究についての反省・まとめをする。

理科年間計画

1 年			2 年			3 年		
月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数
4	自然の中にあふれる生命	9	4	化学変化と原子・分子 1章物質の成り立ち	10	4	生命「生命の連続性」 1章 生命のふえ方と成長	8
5	1. いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類	17	5	ち	14	5	2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生命の種類の多様性と進化 単元のまとめ	6 4 5
6	2章 動物の特徴と分類 単元のまとめ	11	6	2章 物質の表し方	22	6	物質「化学変化とイオン」 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン	8 7
7	2. 身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質	17	7	3章 さまざまな化学変化	17	7	3章 酸・アルカリと塩 単元のまとめ	10 4
9	2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質	11	9	4章 化学変化と物質の質量 単元のまとめ	8	9	エネルギー「運動とエネルギー」 1章 力の合成と分解	1 7
10	4章 物質のすがたとその変化 単元のまとめ	9	10	天気とその変化 1章 地球をとり巻く 2章 大気中の水の変化	14	10	2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり	10 8 3
11	3. 光・音・力による現象 1章 光による現象 2章 音による現象	13	11	3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	10	11	5章 エネルギー資源とその利用 単元のまとめ 地球「宇宙を観る」	4 4
12	3章 力による現象 単元のまとめ	11	12	単元のまとめ	1	12	1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方	5 8 5
1	4. 活きている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地	4	1	電流とその利用 1章 電流の性質	18	1	単元のまとめ 環境「自然と人間」 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間	4 5 5
2	3章 火をふく大地 4章 語る大地	13	2	2章 電流の正体 3章 電流と磁界	18	2	3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして	3 8 4
3	単元のまとめ	3	3	単元のまとめ	1	3	単元のまとめ	5

105

140

140

英語科

<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 学年を通じて教材の系統をふまえた学習の理解・定着の徹底をはかる。 各学年ごとの到達目標をふまえた基本の定着をはかり、言語活動を促進する。 生きた英語力を養う。 <p>【計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学期 教材（視聴覚教材を含む）の検討と指導法の研究。 2 学期 教科内研究授業と研究協議。 3 学期 教具と資料の整理、まとめと反省。

英語科年間計画

1 年			2 年			3 年		
月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数
4	Program0 アルファベット、挨拶、ローマ字 単語、フォニックス classroom English	10	4	Classroom English Program 1 Start of a New School Year 未来表現、接続詞when, if My Summer Plan	7	4	Program1 Bentos Are Interesting ask[tell/want]～(人)to… It is～(for+人)to / 主語+be動詞+形容詞+that～	10
5	Program1 友だちを作ろう be動詞(肯定、否定、疑問) Program2 1-Bの生徒たち 一般動詞、曜日、天気、数	6	5	英語のしくみ Program 2 Leave Only Footprints 接続詞that, must, have to Our School Trip 英語のしくみ	10	5	Program 2 Good night. Sl Tight. 主語+動詞+(人)+疑問詞節 主語+動詞+人など+that～	10
6	授業でやり取りしよう① Program3 タレントショーを書こう Our Project 1 あなたの知らない私 自己紹介	18	6	天気予報、電話をかけよう Program 3 Taste of Culture 不定詞(to+動詞の原形) 動名詞(動詞のing形) Your Dream	12	6	Program 3 A Hot Sport Today 主語+動詞+目的語+補語(名詞/ 形容詞)/主語+動詞+目的語+ 原形	18
7	ハンバーガーショップへ行こう Program4 Let's enjoy Japanese Culture.	11	7	英語のしくみ 文の構成を考えよう Our Project 4「夢の旅行」を企画 しよう Reading 1 Gon, the Little Fox	7	7	Faithful Elephants 不良品を交換しよう Sign Languages, Not Just Gestures!	13
9	Program5 The Junior Saety Patrol 季節・月の名前	15	9	Program 4 High-Tech Nature 比較級、最上級、as～as Let's Interview 英語のしくみ	10	9	ホームページで学校紹介 簡単な表現で言いかえよう The Story of Chocolate	13
10	Program 6 The way to school 道案内をしよう① 順番、日付の言い方	15	10	Program 5 Work Experience how to～、look+形容詞、 become+名詞/形容詞、SVOO You Look Cool! 英語のしくみ	13	10	わかりやすい文章を考えよう 動詞の使い分け The Great Pacific Garbage Patch	15
11	Program7 Research on Australia There is There are の使い方 howの疑問文 疑問詞のまとめ Our Project2	17	11	Program 6 Live Life in True Harmony 受け身 What Do You Think? 英語のしくみ	17	11	あなたの町を世界にPRしよう 非常時のアナウンスを聞こう	17
12	Program8 The Year-End Events 現在進行形	11	12	Our Project 5 ポスターセッション こんな人になりたい Reading 2 Friendship beyond Time and Borders	8	12	Is AI a Friend or an Enemy? Malala's Voice for the Future	13
1	Program9 A trip to Finland 一般動詞過去(規則) 疑問詞 買い物	14	1	Program 7 A Gateway to Japan 現在完了(完了、経験) 相手にわかりやすい説明をしよう 空港アナウンスを聞こう	12	1	中学校の思い出を残そう オリンピック競技・パラリンピック 競技 The Ig Nobel Prize	14
2	Program10 Grandma Baba's Warbug ideas! be動詞の過去形 過去進行形	12	2	Program 8 A Hope for Lasting Peace 現在完了(継続)、現在完 了進行形 メールで近況報告	12	2	Library Lion 総復習	12
3	Our Project3 私が選んだ1枚	5	3	Our Project 6 この一年で得た「宝 もの」 Reading 3 Visas of Hope	5	3	Extensive Reading 総復習	5

河内長野市立千代田中学校 英語科 CAN-DO LIST 2022

<読むこと>

4:よくできる(と思う) 3:だいたいできる(と思う) 2:少しできる(と思う) 1:ほとんどできない(と思う)

1	アルファベットを順番どおりに(A~Z)言うことができる。	4 3 2 1
2	アルファベットの大文字・小文字がわかる。(Aとa/Fとfなど)	4 3 2 1
3	ピリオド(.)、疑問符(?)、コンマ(,)、引用符(“”),感嘆符(!)を理解できる。	4 3 2 1
4	英和辞書を引いて目的の語を見つけることができる。	4 3 2 1
5	日常生活の身近な単語を読んで理解できる。(例: dog/eat/happy)	4 3 2 1
6	日常生活の身近な語句を読んで理解できる。(例: in the morning/at home)	4 3 2 1
7	日常生活の身近なことを表す簡単な文を理解できる。(例: I play tennis every day.)	4 3 2 1
8	日常生活の身近なことを表す簡単な2文以上の文章を理解できる。	4 3 2 1
9	教科書をなめらかに音読することができる。	4 3 2 1
10	英和辞書を引いて本文に合う意味を見つけることができる。	4 3 2 1
11	短い手紙(Eメール)を理解できる。(家族の紹介、旅行の思い出など)	4 3 2 1
12	イラストや写真のついた簡単な物語を理解できる。 (子ども向けの絵本や教科書Readingのような読み物など)	4 3 2 1
13	日常生活の身近なことを表す文を理解できる。 (例: Ken went to the park and played soccer with his friends.)	4 3 2 1
14	公共の施設などにある簡単な表示・掲示を理解できる。 (例: No Smoking/Closed/No Dogs)	4 3 2 1
15	簡単な英語のメニューを理解できる。(ファーストフード・レストランにあるメニューなど)	4 3 2 1
16	パーティーなどの招待状や簡単なお知らせなどの内容を理解できる。(日時、場所など)	4 3 2 1
17	2年の教科書の前半部分の本文をなめらかに音読することができる。	4 3 2 1
18	興味・関心のある話題に関する文章なら、知らない単語がいくつかあってもだいたい内容を理解できる。	4 3 2 1
19	日常生活の身近な話題についての文章を理解できる。(学校生活、スポーツ、音楽など)	4 3 2 1
20	短くて簡単な物語を理解できる。(簡単な伝記や童話、教科書の読み物教材など)	4 3 2 1
21	日本語の注や説明がついた簡単な読み物を理解できる。 (学校の課題図書、学習者向けの物語など)	4 3 2 1
22	簡単に書かれた英語の地図を見て、通りや店、病院などを探することができる。	4 3 2 1
23	3年の教科書程度の長文を読んでだいたいの内容をつかむことができる。	4 3 2 1
24	3年の教科書程度の長文の中から必要な情報を見つけることができる。	4 3 2 1
25	初めて見る文章でも意味を考えながらだいたい音読することができる。	4 3 2 1
26	2年後半~3年前半の教科書をなめらかに音読することができる。	4 3 2 1

<聞くこと>

4:よくできる(と思う) 3:だいたいできる(と思う) 2:少しできる(と思う) 1:ほとんどできない(と思う)

1	初歩的な語句や決まり文句を聞いて理解できる。(Here you are./Two pencils.)	4 3 2 1
2	アルファベットを聞いて、どの文字かを思い浮かべることができる。	4 3 2 1
3	日常生活の身近な単語を聞いて、その意味を理解できる。(例: dog/eat/happy)	4 3 2 1

4	日付、曜日、天候を聞き取ることができる。(Monday/October 5/rainy)	4 3 2 1
5	日常生活の身近な数字を聞きとることができる。(電話番号、時刻、年齢など)	4 3 2 1
6	日常的なあいさつを理解できる。(例:How are you?/Nice to meet you.)	4 3 2 1
7	簡単な自己紹介を聞いて、その内容を理解できる。(名前、住んでいるところ、家族など)	4 3 2 1
8	簡単な文を聞いて、その内容を理解できる。(例:I like dogs, but she likes cats.)	4 3 2 1
9	簡単な指示を聞いて、その意味を理解して行動に移すことができる。 (例:Open your textbook./Close the door, please.)	4 3 2 1
10	人のいる場所、ものの位置を聞いて、理解できる。(例:The book is on the TV.)	4 3 2 1
11	簡単な対話を聞いて、話されている内容を理解できる。	4 3 2 1
12	先生の話す英語が、半分以上理解できる。	4 3 2 1
13	ゆっくり(またはくり返して)話されれば、興味・関心のある話題に関する話を理解できる。 (趣味に関すること、好きな音楽やスポーツのことなど)	4 3 2 1
14	ゆっくり(またはくり返して)話されれば、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて、その内容を理解できる。(学校、クラブ活動、週末の話など)	4 3 2 1
15	ゆっくり(またはくり返して)話されれば、簡単なアナウンスを聞いて、重要な情報を理解できる。(集合場所、乗り物の出発や到着時刻など)	4 3 2 1
16	ゆっくり(またはくり返して)話されれば、簡単な道案内を聞いて、行き方が理解できる。 (例:Go straight and turn left at the next corner.)	4 3 2 1
17	よく使われる表現であれば、単語がつながって発音されても、その意味を理解できる。 (Come in.が「カミン」、Don't you?が「ドンチュー」のように聞こえるなど)	4 3 2 1
18	先生が教科書の内容を説明する英語がだいたい理解できる。	4 3 2 1

<話すこと>

4:よくできる(と思う) 3:だいたいできる(と思う) 2:少しできる(と思う) 1:ほとんどできない(と思う)

1	アルファベットを見てその文字を発音することができる。	4 3 2 1
2	日常生活の身近な単語を発音することができる。(例:dog/eat/happy)	4 3 2 1
3	日常生活の身近な数字を言うことができる。(電話番号、時刻、年齢など)	4 3 2 1
4	簡単なあいさつをかわすことができる。(例:Good morning./Good night.)	4 3 2 1
5	あやまったり、お礼を言ったりすることができる。(例:I'm sorry./Thank you.)	4 3 2 1
6	日常生活の身近な話題について、Yes/Noで答える質問に応答することができる。「好き」「嫌い」など)	4 3 2 1
7	日常生活の身近な話題について、What, Who, Where, When, Howなどで始まる質問に短く簡単に答えることができる。	4 3 2 1
8	3~5文で自己紹介や家族・友だちの紹介をすることができる。	4 3 2 1
9	友だちとペアで簡単な対話(1年のBasic Dialog程度)をすることができる。	4 3 2 1
10	7文程度の簡単な自己紹介をすることができる。(名前、住んでいるところ、家族など)	4 3 2 1
11	簡単な質問をすることができる。(時刻、好きなもの、相手の名前など)	4 3 2 1
12	相手の言うことがわからないときに、聞き返すことができる。 (例:Excuse me?/Could you speak more slowly?)	4 3 2 1
13	日付や曜日を文で言うことができる。(It's Monday.など)	4 3 2 1
14	日常生活の身近な話題について、What, Who, Where, When, Howなどで始まる簡単な質問に答えることができる。	4 3 2 1
15	友達とペアで簡単な対話(2年のBasic Dialog程度)をすることができる。	4 3 2 1
16	原稿を書いておけば将来の夢などについてスピーチをすることができる。	4 3 2 1

17	自分の好きなことについて、短い話をするができる。(趣味、クラブ活動など)	4 3 2 1
18	ものごとの「好き」「嫌い」とその理由を簡単に述べるができる。(動物、食べ物、スポーツなど)	4 3 2 1
19	日常生活の行動について話すことができる。 (例:I got up at seven./I ate some bread for breakfast.)	4 3 2 1
20	自分の予定を簡単に言うことができる。(例:I'm going to meet my friends.) 予定を聞かれて簡単に答えることができる。(例:What are you going to do? - I'm going to study at the city library.)	4 3 2 1
21	簡単な頼みごとをするができる。また、引き受けたり断ることができる。 (Could you tell me the way to the station? - Sure./Sorry, I can't.)	4 3 2 1
22	身近なことで相手を誘うことができる。(例:Let's have lunch together.)	4 3 2 1
23	簡単な相づちをうつことができる。(例:I see./Really?)	4 3 2 1
24	過去や未来の日常生活の身近な話題について、What, Who, Where, When, Howなどで始まる質問に簡単な文で答えたり、相手に質問することができる。	4 3 2 1
25	つなぎ言葉(Really?/I see.など)を使って対話を続けることができる。	4 3 2 1

<書くこと>

4:よくできる(と思う) 3:だいたいできる(と思う) 2:少しできる(と思う) 1:ほとんどできない(と思う)

1	アルファベットの太文字と小文字を活字体(教科書や本などの字体)で書くことができる。	4 3 2 1
2	英語の書き方の決まりに合わせて正しく文を書くことができる。(先頭は大文字、単語と単語の間は少し離す、文の最後はピリオドかクエスチョンマークなど)	4 3 2 1
3	黒板に書かれた文や教科書の文を正しくノートに書き写すことができる。	4 3 2 1
4	重要な単語(例:教科書で太字になっている単語)なら半分くらいは書くことができる。	4 3 2 1
5	語句を並べて短いメモを書くことができる。(例:park, 5:00)	4 3 2 1
6	短い文であれば、英語の語順で書くことができる。(例:I like music./I come from Canada.)	4 3 2 1
7	簡単な文やメモを書くことができる。	4 3 2 1
8	短い文を、正しい英語の語順で書くことができる。(例:I went to the park yesterday.)	4 3 2 1
9	語句を並べて短いメモを書くことができる。(例:birthday party at 6 p.m.)	4 3 2 1
10	教科書の対話の一部を変えてスキット(寸劇)を書くことができる。	4 3 2 1
11	教科書やモデル文を参考にして将来の夢のスピーチ原稿を書くことができる。	4 3 2 1
12	文と文を接続詞(and/but/so/when/becauseなど)でつなげて書くことができる。	4 3 2 1
13	和英辞典を使って、自分の気持ちや考えを書くことができる。	4 3 2 1
14	10文程度で自己紹介の文章を書くことができる。(名前、住んでいるところ、家族など)	4 3 2 1
15	自分の趣味について、4~5文のわかりやすいまとまりのある文章を書くことができる。	4 3 2 1
16	ものごとの「好き」「嫌い」とその理由を書くことができる。(食べ物、スポーツ、音楽など)	4 3 2 1
17	短い日記を書くことができる。(3~5文程度)	4 3 2 1
18	簡単なカード、はがき、メールを書くことができる。(お祝いカード、旅行先からの絵はがきなど)	4 3 2 1
19	短い伝言を書くことができる。(例:Ken called at 3p.m.)	4 3 2 1

音楽科

【目標】

一人ひとりが自己表現し、感動する音楽活動を目指す。

【計画】

- 1 学期 基本的授業の充実
- 2 学期 曲の構成を学ぶ
- 3 学期 1年間のまとめと反省

音楽科年間計画

1 年			2 年			3 年		
月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数
4	国家・校歌・市民歌 歌唱 「We'll Find The Way」 AR リコーダーの吹き方と名称	4	4	国家・校歌・市民歌 歌唱 「夢の世界を」 AR 「カノン3」	3	4	国家・校歌・市民歌 歌唱 「花」 AR 「大きな古時計」	3
5	歌唱 「その先へ」 AR 「喜びの歌」「さんぽ道」	5	5	歌唱 「サンタルチア」 AR 「ラヴァースコンチェルト」 「思いに歌声をのせよう」	3	5	鑑賞 「アイーダ」 AR 「大きな古時計」 歌唱 「帰れソレントへ」 【リズムを学ぼう】	3
6	歌唱 「主人は冷たい土の中に」 鑑賞 「春」 AR 「かっこう」	6	6	歌唱 「翼をください」 「夏の日の贈り物」 AR 「ラヴァースコンチェルト」 鑑賞 「フーガ ト短調」	4	6	滝廉太郎について 歌唱 「荒城の月」 「子守歌」 AR 「大きな古時計」	4
7	歌唱 「Edelweiss」 「マイバラード」 AR 「そっと やさしく」	3	7	歌唱 「夏の思い出」 「夏は来ぬ」 【音楽を形づくっている要素】	3	7	鑑賞 能「羽衣」 歌唱 「Top of world」	3
9	歌唱 「浜辺の歌」 「赤とんぼ」 AR 「カノン1」 「カノン2」	5	9	歌唱 「荒城の月」 「合唱祭の曲」 AR 「きらきら星」	3	9	AR 「糸」 歌唱 「時を越えて」	3
10	歌唱 「朝の風に」 鑑賞 「魔王」 AR 「オーラリー」	5	10	歌唱 「Joyful, Joyful, 」 AR 「きらきら星」 鑑賞 「交響曲第5番ハ短調」 【オーケストラの楽器】	4	10	AR 「糸」 【指揮を学ぼう】 歌唱 (時を越えて) 【くらしと音楽】	4
11	歌唱 「Let's Search For Tomorrow」 「君をのせて」 AR 「オーラリー」	6	11	歌唱 「メッセージ」 AR 「きらきら星」	4	11	オペラ「アイーダ」 歌唱 「カントリーロード」	4
12	歌唱 「涙そうそう」 指揮について AR 「アニーローリー」	3	12	歌唱 「ハートのアンテナ」 鑑賞 「歌舞伎・長唄(勸進帳)」	3	12	歌唱 「たしかな一歩」	3
1	鑑賞 「雅楽(平調 越天楽)」 歌唱 「カリブ夢の旅」 「Forever」 AR 「虹の彼方に」	5	1	鑑賞 文楽・義太夫節 AR 「威風堂々」	3	1	創作 「CMソングを作ろう」 【リズムの学習】 卒業の歌	3
2	歌唱 「友達の友達」 「Yes!!」 AR 「虹の彼方に」	6	2	歌唱 「My Own Road」 AR 「威風堂々」 【生活や社会の音楽】	4	2	卒業の歌	2
3	歌唱 「あすという日が」 歌唱 「COSMOS」 AR 「虹の彼方に」	4	3	歌唱 「未来への旅」 「時の旅人」	3	3	卒業の歌	2

美術

【目標】

- ◇ 表現活動を通して創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる。
- ◇ 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
- ◇ 個性を発揮させ、それをお互いに尊重し合う心を育てる。

【計画】

- 1学期 興味を持って、取り組める教材の研究をする。
- 2学期 意欲的に取り組む指導法の研究をする。
- 3学期 まとめと反省をする。

美術年間計画

1 年			2 年			3 年		
月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数	月	単元 指導内容	時数
4	オリエンテーション 鑑賞 色彩・絵具の学習	1 2 3	4	オリエンテーション 鑑賞 絵巻物	1 2 5	4	オリエンテーション 鑑賞 屏風	1 1 6
5	↓ ・色の整理 ・配色の工夫 ・絵の具の使い方 ・「私が思う季節の色」		5	↓ ・四大絵巻鑑賞 ・四コマ漫画制作		5	↓ ・鑑賞 ・屏風制作	
6	↓ 鑑賞 プッシュステンド	1 6	6	↓ 水墨画 ・鑑賞 ・水墨画技法実践	4 6	6	↓ 藍染め	3
7	↓		7	↓ ポートフォリオ	3	7	↓ ポートフォリオ 鑑賞	1 1
9	↓ 日本の伝統色・伝統文様 レタリング	3 9	9	↓ 鑑賞 一点透視図法	2 10	9	↓ 鑑賞 パブリックアート	1 7
10	↓ ・明朝体、ゴシック体 ・粘土を使用した作品作り		10	↓ ストリングアート		10	↓ 伝統工芸	
11	↓ 鑑賞	1	11	↓		11	↓ サンドブラスト	4
12	↓	4	12	↓ ポートフォリオ	1	12	↓ ポートフォリオ	1
1	↓ 鑑賞	6	1	↓ ユニバーサルデザイン お面制作	2 6	1	↓ 鑑賞 タイポグラフィ判子	1 4
2	↓ オノマトペ	6	2	↓		2	↓	
3	↓		3	↓ ポートフォリオ	1	3	↓ ポートフォリオ ポスター制作	1 3

保健体育科年間授業計画

【目標】

1. 生徒同士の関わり合いを大切にし、授業規律や安全を確保し、学習意欲を高める指導を行う。
 - (1) できたことの喜び、運動する楽しさを味わえるような授業を研究する
 - (2) お互いが日々授業公開を実施し、授業の工夫に取り組む
 - (3) チャイム前整列・体操開始を目指し、且つ礼儀を学び、集団生活に必要な態度を育む。また生徒同士の声かけを促すよう常に心がける
2. 生涯を通しての運動実践や健康な生活の実現に必要な能力と態度を育てる工夫をする

【計画】

- 1 学期 集団で取り組める態度を育て、授業規律を育む。
- 2 学期 生徒同士が教え合いを行い、仲間を成功へ導く力を育む。
- 3 学期 個人の成長が、集団を作り上げていく実感を持てる感覚を育む。

保健体育科年間計画

1 年				2 年				3 年			
月	単元 指導内容		保健	月	単元 指導内容		保健	月	単元 指導内容		保健
	男子 体育	女子 体育			男子 体育	女子 体育			男子 体育	女子 体育	
4	集団行動 ラジオ体操第二 体づくり運動 (レクリエーション) スポーツテスト⑧	集団行動 ラジオ体操第二 体づくり運動 (レクリエーション) スポーツテスト⑧	心身の発達と心の健康⑩	4	集団行動 ラジオ体操第二 体づくり運動 (レクリエーション) スポーツテスト⑤	集団行動 ラジオ体操第二 体づくり運動 (レクリエーション) スポーツテスト⑤	傷害の防止⑧	4	集団行動 ラジオ体操第二 体づくり運動 (レクリエーション) スポーツテスト⑤	集団行動 ラジオ体操第二 体づくり運動 (レクリエーション) スポーツテスト⑤	健康と環境⑦
5				5				5			
6	ダンス⑩	球技⑦		6	武道⑧	球技⑦		6	ダンス⑩	球技⑦	
7	水泳⑧ クロール 背泳ぎ	水泳⑧ クロール	健康な生活と病気の予防④	7	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	水泳⑧ クロール 背泳ぎ	健康な生活と病気の予防④	7	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	水泳⑧ クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	健康な生活と病気の予防⑥
9	体育大会に向けて 陸上競技⑩	体育大会に向けて 陸上競技⑩		9	体育大会に向けて 陸上競技⑩	体育大会に向けて 陸上競技⑩		9	体育大会に向けて 陸上競技⑫	体育大会に向けて 陸上競技⑫	
10	陸上競技⑩	武道⑩		10	球技⑩	武道⑩		10	陸上競技⑩	武道⑩	
11	柔道⑩	長距離走⑥	運動やスポーツの多様性③	11	球技⑩	長距離走⑥	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方③	11	球技⑩	長距離走⑥	文化としてのスポーツ③
12	長距離走⑥	器械運動⑩		12	長距離走⑥	器械運動⑩		12	長距離走⑥	球技⑩	
1	器械運動⑩	球技⑩		1	器械運動⑩	球技⑩		1	球技⑩	球技⑩	
2	球技⑧	ダンス⑧		2	球技⑩	ダンス⑩		2	球技⑩	ダンス⑩	
3	球技⑧	球技⑧		3	ダンス⑧	球技⑧		3			

柔道授業について(体育科)

1. 柔道授業を実施する際の留意点

- 多くの生徒が初心者であることを踏まえ「頭を打たない、打たせない」指導を徹底する。
- 頭部への直接打撲がなくても、頭部を厳しく揺さぶられることで生じる「加速傷害」や、「セカンドインパクトシンドローム(SIS)」等により、頭部に出血を起こすことなどの危険性があることを十分に認識し指導をする。

(1) 生徒の健康状態を把握する

- ① 指導者は、養護教諭や担任と連携を図り、生徒の既往症や健康状態を把握する。
- ② 頭部に既往症をもつ生徒の授業への参加は、担任・指導者と保護者とが十分に話し合い、医師の指導のもとに柔道授業への参加の可否や参加形態を決定する。
- ③ 柔道授業中の生徒の様子を観察したり、柔道授業後の健康観察を十分に行ったりする。
- ④ 授業後の健康観察では、「頭痛、めまい、吐き気、視覚障害、耳鳴り、足がふらつく」などの症状を生徒が訴えたり、様子が見られたりしたときは、直ちに必要な対応をとる。

(2) 「頭を打たない・打たせない」ための「受け身」動作の習得を重視する

- ① 1年生(1年目)の柔道指導
 - ・「受け身」「抑え技(けさ固め・上四方固め・横四方固め)」のみに限定する。
 - ・基本となる「受け身」指導の時間を十分に確保し、その定着を図る。
- ② 2年生(2年目)の柔道指導
 - ・投げ手が立ち、受け手が膝をついた状態で、頭を打たない受け身が十分に習得できたことを条件に、「ひざ車」「支え釣り込み足」の投げ技を指導してもよい。ただし、必ず「約束練習」で行い、「自由練習」は行わない。
- ③ 3年生(3年目)の柔道指導
 - ・上記②の内容を原則とする。

(3) 二人組みの編成を意図的に行う

生徒の柔道経験、体格(身長・体重)や運動能力・体力の違いに十分に配慮した二人組みを意図的に編成し、運動に取り組ませるようにする。

(4) 武道(柔道)を通して、我が国の伝統や文化に対する理解を深める

- ① 礼法(座礼, 立礼)
- ② 黙想
- ③ 導入の授業で、武道(柔道)の歴史を伝える。

2. 安全な柔道授業の組織的な体制づくり

(1) 練習環境の事前の安全確認

- ① 施設、設備の安全点検を行う。
- ② 点検の観点

(2) 複数の教員による監督と外部指導者の活用

- ① 複数の教員による監督体制のもとで、柔道指導を行う
- ② 外部指導者を積極的に活用し、指導方法についての助言を受ける。

(3) 柔道指導計画、指導方針の共通理解

- ① 保健体育を担当する教員間で、各校の指導計画、指導方針を共通理解する。
- ② 生徒の「受け身」の習得状況などの実態に応じて、無理のない指導計画に修正していく。
- ③ 2年間、または3年間を見通した指導計画を立案し、毎年、改善を図っていく。
- ④ 気温や武道場の室温、湿度などを計測したり、生徒の様子を観察したりしながら、熱中症の予防に努める。

(4) 「体調不良やけが」が発生したときの対応

- ① 柔道授業後に体調を崩した生徒がいた場合、学級担任はその情報を保護者、管理職・学年主任・教科担任に伝え、生徒の体調変化を継続観察していく。
- ② 頭部・頸部のけがや痛みについては、直ちに診察を受けるようにし、医師の判断・指示に従う。

技術・家庭

【目標】

- 1 自ら学ぶ態度を育成する。
- 2 適切な題材設定や、生徒の興味・関心にあった教材・教具を工夫する。
- 3 一斉指導・グループ指導・個別指導等の指導の形態を工夫する。

【計画】

- 1学期 学習に対する意欲を高める指導を研究する。
- 2学期 集団で取り組める態度を育てて、個々の能力も大切にしたい指導を研究する。
- 3学期 まとめと反省。

技術・家庭年間計画

1年			2年			3年					
月	指導内容		時数	月	指導内容		時数	月	指導内容		時数
	技術分野	家庭分野			技術分野	家庭分野			技術分野	家庭分野	
4	ガイダンス 技術の役割 技術の見方・考 え方	ガイダンス 健康と食生活	2	4	情報セキュリ ティ と情報モラル	安心な住まいで 安全な暮らし 消費生活と環 境	2	4	情報モラル	わたしたちの成 長と家族	1
5	情報の表現と 伝達	健康と食生活・ 栄養素のかか わり	3	5	情報セキュリ ティ と情報モラル	消費生活につ いて消費者と しての自覚	3	5	情報セキュリ ティ	家庭生活をささ える仕事 家庭生活と地 域	2
6	材料と加工 材料の特徴	バランスのとれ た食生活	2	6	エネルギー変 換と利用	わたしたちの 衣生活	4	6	情報セキュリ ティ	幼児の生活	2
7	材料と加工 設計と製作	食品の選択と 保存	4	7	エネルギー変 換と利用	衣服のはたら きとTPO	2	7	情報セキュリ ティ	幼児期の遊び	1
9	材料と加工 加工と製作	食品の選択と保存 食事づくりに挑戦	3	9	製作品の制作	実習	3	9	計測と制御	幼児のおもちゃ 製作	2
10	材料と加工 加工と製作	実習	4	10	製作品の制作	実習	4	10	計測と制御	幼児の生活と 家族	2
11	材料と加工 加工と製作	行事と行事食	4	11	製作品の制作	実習	4	11	計測と制御	幼児のふれあ い	2
12	製作品仕上げ 生物育成	住まいのはたら き	4	12	これからのエネ ルギー変換の技 術 生物育成	実習	4	12	制御・プログ ラミング	わたしたちのよ りよい生活	1
1	材料と加工 加工と製作 生物育成	安心な住まい で 安全な暮らし	3	1	生物育成	持続可能な社 会をつくる	3	1	制御・プログ ラミング	幼児期のおや つ 実習	1
2	材料と加工 加工と製作 生物育成	持続可能な住生 活	4	2	生物育成	わたしたちの よりよい生活	4	2	制御・プログ ラミング	幼児期のおや つ	1
3	まとめと反省	まとめと反省	2	3	まとめと反省	まとめと反省	2	3	まとめと反省	まとめと反省	1

道徳科(1年生)

道徳科の目標

- ・人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。
- ・道徳の時間を「要」とした道徳教育を学校の教育活動全体を通じて推進する。
- ・道徳教材の開発や指導方法の研究を進め、「考え、議論する道徳」を実施するため、全教職員で取り組み、「道徳の時間」の充実を図る。
- ・基本的な道徳観を身につける。

1年道徳年間指導計画

		1年生		
		内容項目	教材名	主題名
4	A ・主として自分自身	自主、自律、自由と責任	二人の約束	迷いを乗り越えて
4		自主、自律、自由と責任	裏庭のできごと	誠実な生き方
5		節度、節制	疾走、自転車ライダー	安全への心構え
4		向上心、個性の伸長	トマトとメロン	みんな同じがよいのか
5		希望と勇気、克己と強い意志	サッカーの漫画を描きたい	困難を乗り越える力
5		希望と勇気、克己と強い意志	小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦	失敗から学んだ希望
6		真理の探究、創造	緑のじゅうたん	理想に向かって
6	B ・主として人との関わり	思いやり、感謝	人のフリみて	言葉のもつ不思議な力
6		礼儀	「愛情貯金」をはじめませんか	礼儀の心
6		友情、信頼	近くにいた友	心から信頼できる友達
7		友情、信頼	部活の帰り	心がときめくとき
7		友情、信頼	旗	友達のよさ
9		相互理解、寛容	自分だけ「余り」になってしまう……	お互いを認め合う
9	C ・主として集団や社会との関わり	遵法精神、公德心	ふれあい直売所	社会のきまり
9		遵法精神、公德心	使っても大丈夫？	自他の権利と法の遵守
9		公正、公平、社会正義	さかなのなみだ	いじめのない集団
10		公正、公平、社会正義	公平と不公平	公平とは何か
10		社会参画、公共の精神	あったほうがいい？	よりよい社会のために
10		社会参画、公共の精神	富士山から変えていく	つながりを生み出す力
10		勤労	私は清掃のプロになる	心のこもった仕事とは
11		勤労	役に立つことできるかな	働くことの尊さ
11		家族愛、家庭生活の充実	家族と支え合うなかで	支え合う家族
11		よりよい学校生活、集団生活の充実	むかで競争	みんなをまとめる力
11		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	震災を乗り越えて―復活した郷土芸能―	郷土芸能を伝える
12		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	篠崎街道	郷土を愛する心
12		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	奈良筆に生きる	伝統を守る
1		国際理解、国際貢献	花火に込めた平和への願い	世界平和のために
1	国際理解、国際貢献	違いを乗り越えて	多文化の理解を深める	
1	D ・主として生命や自然への関心	生命の尊さ	あなたはすごい力で生まれてきた	生きることの素晴らしさ
2		生命の尊さ	あふれる愛	生まれてきた大切な生命
2		生命の尊さ	ゆうへー生きていてくれてありがとうー	つながる生命
2		自然愛護	木の声を聞く	自然を愛する
3		感動、畏敬の念	オーロラ―光のカーテン―	自然に感動する心
3		よりよく生きる喜び	挫折から希望へ	弱さを乗り越え生きる
3		よりよく生きる喜び	いつわりのバイオリン	人間として生きる喜び

道徳科(2年生)

道徳科の目標

- ・人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。
- ・道徳の時間を「要」とした道徳教育を学校の教育活動全体を通じて推進する。
- ・道徳教材の開発や指導方法の研究を進め、「考え、議論する道徳」を実施するため、全教職員で取り組み、「道徳の時間」の充実を図る。
- ・他人の気持ちや相手の立場を理解し行動する態度を養う。
- ・社会の中で、ともに生きる力を身につける。

2年道徳年間指導計画

2年生

		内容項目	教材名	主題名	
4	A・主として自分自身	自主、自律、自由と責任A-(1)	五月の風—カナー	自分を信じて	
4		自主、自律、自由と責任A-(2)	ネット将棋	インターネット上の責任ある言動	
5		節度、節制A-(2)	避難場所にて	節度、節制の大切さ	
5		向上心、個性の伸長A-(3)	「自分」って何だろう	自己を見つめる	
5		希望と勇気、克己と強い意志A-(4)	「自分」をあきらめない。血ち上がった瞬間が自信になる。	諦めない心	
5		希望と勇気、克己と強い意志A-(4)	初心	初心に返る	
6	B・主として人と関わること	真理の探究、創造	戦争を取材する	真実を追い求める	
6		思いやり、感謝A-(6)	夜のくだもの屋	人の思いやりへの感謝	
6		礼儀A-(7)	挨拶は言葉のスキンシップ	心を形に	
6		友情、信頼A-(8)	五月の風—ミカー	本当の友達	
7		友情、信頼A-(8)	ライバル	真の友情	
7		友情、信頼A-(8)	恋する涙	友情と好意	
9		相互理解、寛容A-(9)	コトコの涙	わかり合うこと	
9		C・主として集団や社会との関わりに関する	遵法精神、公德心A-(10)	美しい鳥取砂丘	規則の役割
9			遵法精神、公德心A-(10)	オーストリアのマス川	法やきまりの意義
9			公正、公平、社会正義A-(11)	リスペクタザーズ	個性を尊重する社会
10			公正、公平、社会正義A-(11)	ヨシト	いじめへの公正な態度
10			社会参画、公共の精神A-(12)	行動する建築家 坂茂	社会のためにできること
10	社会参画、公共の精神A-(12)		門掃き	美しいしきたり	
10	勤労A-(13)		そうじの神様が教えてくれたこと	働くということ	
11	勤労A-(13)		小さな工場の大きな仕事	社会への貢献	
11	家族愛、家庭生活の充実A-(14)		きいちゃん	家族のきずな	
11	よりよい学校生活、集団生活の充実A-(15)		ハイタッチがくれたもの	私たちでつくる校風	
11	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度A-(16)		和樹の夏祭り	地域の祭りの大切さ	
12	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度A-(17)		さよなら、ホストファミリー	日本人としての誇り	
12	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度A-(17)	包む	日本文化の心		
1	D・主として生命や自然の高なものに関する	国際理解、国際貢献A-(18)	海の空—檉野の人々	国際社会の一員	
1		国際理解、国際貢献A-(18)	ダショー・ニシオカ	真の国際協力	
1		生命の尊さA-(19)	最後のパートナー	支え合う命	
2		生命の尊さA-(19)	体験ナースをとおして	輝く命	
2		生命の尊さA-(19)	命をみとめて 日猿渡瞳さんの六四十六日—	懸命に生きる	
2		自然愛護A-(20)	よみがえれ、えりもの森	自然環境を守る	
3		感動、畏敬の念A-(21)	樹齢七千年の杉	自然の偉大さ	
3		よりよく生きる喜びA-(22)	自分の弱さと戦え	自分の弱さの克服	
3		よりよく生きる喜びA-(22)	足袋の季節	強く気高く生きる	

道徳科(3年生)

道徳科の目標

- ・人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。
- ・道徳の時間を「要」とした道徳教育を学校の教育活動全体を通じて推進する。
- ・道徳教材の開発や指導方法の研究を進め、「考え、議論する道徳」を実施するため、全教職員で取り組み、「道徳の時間」の充実を図る。
- ・公正な判断力と社会連帯の精神を養う。
- ・公共の立場から、考え行動する態度を養う。

3年道徳年間指導計画

		3年生			
		内容項目	教材名	主題名	
4	A・主に すること として 自分 自身	自主、自律、自由と責任A-(1)	町内会デビュー	自立的な生き方	
4		自主、自律、自由と責任A-(1)	私も高校生	自分で決めたこと	
5		節度、節制A-(2)	ある朝の出来事	自分を抑える力	
5		節度、節制A-(2)	独りを慎む	自制する心	
5		向上心、個性の伸長A-(3)	新しい夏のはじまり	前向きな生き方	
5		希望と勇気、克己と強い意志A-(4)	銀メダルから得たもの	より高い目標をめざして	
6	B・主に すること の	真理の探究、創造	iPS細胞で難病を治したい	夢の実現	
6		思いやり、感謝B-(6)	塩むすび	感謝の心に応える	
6		礼儀B-(7)	出迎え三歩、見送り七歩	おもてなしの心	
6		友情、信頼B-(8)	違うんだよ、健司	本当の友情とは	
7		友情、信頼B-(8)	ゴリラのまねをした彼女を好きになった	人を好きになる	
7		相互理解、寛容B-(9)	思いを伝えることの難しさ	互いの思いの伝え方	
9		相互理解、寛容B-(9)	言葉の向こうに	相手の気持ちを考える	
9		C・主に こと として 集団 や 社会 との 関わり に 関 する こと	遵法精神、公德心C-(10)	二通の手紙	法やきまりの意義
9			遵法精神、公德心C-(10)	ワンス・アポン・アポン・ア・タイムロイン・ジャパン	規律ある社会
9	公正、公平、社会正義C-(11)		卒業文集最後の二行	いじめを許さない心	
10	公正、公平、社会正義C-(11)		命の大切さ	豊かな人権感覚	
10	社会参画、公共の精神C-(12)		No charity, but a Chance!	ともに生きる社会の実現	
10	社会参画、公共の精神C-(12)		自分・相手・周りの人	公共の場での心構え	
10	社会参画、公共の精神C-(12)		公園に桜を	より良い社会の実現	
11	勤労C-(13)		あるレジ打ちの女性	自分に大切な勤労の尊さ	
11	家族愛、家庭生活の充実C-(14)		一冊のノート	家族への敬愛	
11	よりよい学校生活、集団生活の充実C-(15)		お別れ会	我が校を愛する心	
11	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度C-(16)		「稲むらの火」余話	かけがえのない郷土	
12	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度C-(17)		昔と今を結ぶ糸	日本の伝統文化	
12	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度c-(17)		父は能楽師	日本の文化を受け継ぐ	
1	D・主に こと として 生命 の や 関 自	国際理解、国際貢献C-(18)	命のトランジットピザ	人類愛、つながる命	
1		国際理解、国際貢献C-(18)	本とペンで世界を変えよう	世界平和を考える	
1		生命の尊さd-(19)	エリカ-奇跡のいのち-	生きていることの奇跡	
2		生命の尊さd-(19)	臓器ドナー	自他の生命の尊さ	
2		生命の尊さd-(19)	希望	かけがえのない生命	
2		自然愛護d-(20)	「川端」のある暮らし	自然とともに生きる	
3		感動、畏敬の念d-(21)	風景開眼	自然への畏敬	
3		よりよく生きる喜びd-(22)	風に立つライオン	人間の気高さ	
3		よりよく生きる喜びd-(22)	世界を動かした美	よりよく生きる	

中学校 第1学年 道徳教育全体計画の別業

道徳教育の重点目標
人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現してこうとする態度を養う。
学年の重点目標
①基本的な道徳観を身につける。 ②人間尊重の精神を養う。

35/82

	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月			
A 主として自分自身に関すること																															
自主、自立 自由と責任			人類の登場から 文明の発生へ	6	比例・反比例の利 用 データの整理と分 析	11 3			our Project1	6			色で春夏秋冬 をデザイン	4	「心の発達」 「休養、睡眠と 健康」		材料と加工の技術	4										協議会活動	通 年		
節度、節制											校歌	4	色の整理・色相環	5 6	「欲求不満やスト レスへの対処」「食生 活と健康」																
向上心、個性 の伸長									our Project2	11	コンクールの練習	9 10	作品づくり		陸上競技、器械運 動 「自己形成」		材料と加工の技術	4	衣食住の生活	4	KGノート	4			体育大会 (応援合戦) 合唱コンクール	9 10	生徒会活動 全校集会	通 年			
希望と勇気、 克己と強い意 志	朝のリレー	4			文字を使った 式 方程式の利用	6 9			our Project3	3			作品づくり		「運動やスポーツ への多様な関わり 方」																
真理の探究、 創造			世界の姿 人類の誕生から文 明の発生へ	4 6	方程式の利用 関数・比例・反比 例 いろいろな立体	9 10 1	身のまわりの物質 身のまわりの現象	7 11							ダンス																
B 主として人との関わりに関すること																															
思いやり、感謝															球技 「心の発達」																
礼儀			武士の世の始まり	1 2					友だちを作ろう	5	コンクールの練習	9 10			武道 「自己形成」																
友情、信頼	少年の日の思い 出	1							友達を作ろう 1-Bの生徒たち	5	コンクールの練習	9 10			球技 「心の発達」						お別れ集会	3			体育大会	9					
相互理解、寛 容	シンシユン	5	世界各地の 人々の生活と 環境		正の数と負の数 加法・減法・乗法・ 除法	4			タレントショーを 書こう	6			作品づくり		体づくり運動 「性どどう向き合う か」								お楽しみ会	3	体育大会	9					
C 主として集団や社会との関わりに関すること																															
道法精神、 公德心															「欲求不満やスト レスへの対 処」		情報の技術														
公正、公平、 社会正義	君たちはどう生 きるか	?													「欲求不満やスト レスへの対 処」		情報の技術														
社会参画、 公共の精神									Junior Safty Patrol						「運動やスポー ツへの多様な関わり 方」		情報の技術														
勤労															「運動やスポー ツへの多様な関わり 方」						キャリア教育										
家族愛、 家庭生活の充 実	大人になれな かった弟たちに	7							The way to school													朝学習	4 ~								
よりよい学校生 活、 集団生活の充実															「集団行動」の 発達 「欲求不満 やストレスへの対 処」						校外学習	6		体育大会 合唱コンクール	9 10	生徒会活動	通 年				
郷土の伝統と文化 の尊重、郷土を愛 する態度			人々の結びつ きが強まる社 会	3					The Year-End Events	12	市民歌	4	日本美術史								衣食住の生活	4 ~	ふるさと学	3							
我が国の伝統と文化 の尊重、国を愛 する態度	蓬萊の玉の枝- 「竹取物語」から今 に生きる言葉	10	展開する天皇・ 貴族の政治	9					Let's enjoy Japanese Culture	7	国歌 雅楽「越天楽」	4			武道						衣食住の生活	4 ~									
国際理解、 国際貢献			世界のさまざま な地域	9 ~					Trip to Frnland	9 10	ヴィヴァルディ シューベルト		西洋美術史										国際理解教育	10 11							
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること																															
生命の尊さ							いろいろな生物 とその共通点	5							「体の発育・発達」 「呼吸器・循環器 の発達」		生物育成の技 術														
自然愛護	「言葉」を持つ 鳥シジュウカラ	9	東アジアの中 の倭(日本)	7			いろいろな生物 とその共通点	5	Research on Australia	11							材料と加工の技術	4 ~													
感動、畏敬の 念							活きている地球	1			魔王				「運動やスポー ツへの多様な関わり 方」																
よりよく生きる喜び									Grandma Baba's Warbug ideas!	2					「自己形成」「健康の成 り立ち」 「運動やスポー ツへの多様な関わり 方」					衣食住の生活	4 ~					生徒会活動	通 年				
	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月			

中学校 第2学年 道徳教育全体計画の別葉

道徳教育の重点目標 人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していくという態度を養う。
学年の重点目標 ①他人の気持ちや相手の立場を理解し行動する態度を養う。 ②社会の中で、ともに生きる力を身につける。

36/82

	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月						
A 主として自分自身に関すること																																		
自主、自立 自由と責任	アイスプラネット	4			式の計算、連立方程式、一次関数とグラフ、確率の意味	45 72							金属で表現				「安全な運動やスポーツの行い方」		衣食住の生活	4~ 12								協議会活動	通年					
節度、節制											校歌	4																						
向上心、個性 の伸長									our Project 5	12	コンクールの練習	9 10	作品づくり				体力テスト、水泳、陸上競技、器械運動		4~			KGノート	4~			体育大会 (応援合戦) 合唱コンクール	9 10	生徒会活動 全校集会	通年					
希望と勇気、 克己と強い意志	見えないだけ	4			一次関数の利用 場合の数と確率	9 2			our Project 4	2							持久走					進路学習	1~											
真理の探究、 創造			大航海時代によって結び付く世界 日本の姿	5 6	文字式・連立方程式の利用、一次関数と方程式、証明「三角形と四角形	4 7 11	電気の世界 化学変化と物質の質量	1~ 6					活を彩るデザイン作品				ダンス																	
B 主として人との関わりに関すること																																		
思いやり、感謝																	コンクールの練習	9 10								班活動 仲間づくり	4 5							
礼儀			天下泰平の世の中	11																		キャリア学習 (職場体験)	11											
友情、信頼	「走れメロス」	1							Start of a New School	4							コンクールの練習	9 10				宿泊学習	6	班活動 仲間づくり	4 5	体育大会	9							
相互理解、寛容			大航海時代によって結び付く世界	5									作品鑑賞									宿泊学習	6	班活動 仲間づくり	4 5	体育大会	9							
C 主として集団や社会との関わりに関すること																																		
遵法精神、 公德心			欧米諸国における近代化	12																						清掃活動	通年							
公正、公平、 社会正義									Live Life in True Harmony	11																								
社会参画、 公共の精神																																		
勤労									Work Experience	10																キャリア学習 (職場体験)	11							
家族愛、 家庭生活の充実	「字のない葉書」	10																																
よりよい学校生活、 集団生活の充実																											仲間づくり	4	体育大会 合唱コンクール	9 10	生徒会活動	通年		
郷土の伝統と文化の 尊重、郷土を愛する 態度			戦乱から全国統一へ、 天下泰平の世の中、 日本の諸地域	9 10 11							9	市民歌	4													衣食住の生活	4~ 12							
我が国の伝統と文化の 尊重、国を愛する 態度	扇の的 仁和寺にある法師 単曲に親しむ	11 12 7	新しい価値観の下 で 日本の諸地域	1 9 ~					A Gateway to Japan				国歌 歌舞伎「勸進帳」	4			日本の伝統工芸									衣食住の生活	4~ 12							
国際理解、 国際貢献	モアイは語る	11	開国と幕府の終わり	12			化学変化と 原子分子 電流の性質	4~ 1	Taste of Culture Friendship beyond Time and Border	6 12		パツハ ベートーヴェン ヴェルディ		西洋美術史																				
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること																																		
生命の尊さ									Gon,the Little Fox A Hope for Lasting	7 2			アニメーション で表現						「応急手当の意義と基本」 「きずの手当て」							エネルギー変換の技術	消費生活・環境	平和学習 (オキナワ)	7					
自然愛護	クマゼミ増加の 原因を探る	6							天気とその変化	10 ~	Leave Only Footprints	5														エネルギー変換の技術	4~		2~ 3					
感動、畏敬の 念									天気とその変化	10 ~																								
よりよく生きる喜び																											「喫煙と健康」「 飲酒と健康」「 薬物乱用と健康」	衣食住の生活	4~ 12	平和学習	7		生徒会活動	通年
	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月						

中学校 第3学年 道徳教育全体計画の別業

道徳教育の重点目標
 人権についての理解を深め、意識を高めるとともに、人間尊重意識を高めるとともに、人間尊重の精神を実現していこうとする態度を養う。

学年の重点目標
 ①公正な判断力と社会連帯の精神を養う。 ②公共の立場から、考え行動する態度を養う。

37/82

	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月					
A 主として自分自身に関すること																																	
自主、自立 自由と責任			日本国憲法と 基本的人権	10	根号をふくむ式の計算 平方根の利用	6							平面作品					「医薬品の有効利用」 「休養、睡眠と健康」	情報に関する技術	4				キャリア教育 (進路学習)	通年			修学旅行	7	協議会活動	通年		
節度、節制			経済のしくみと 消費生活	11			自然と人間	1	Good Night. Sl Tight	5	校歌	4						「食生活と健康」「生活習慣病とその予防」 「運動と健康」					面接練習	1									
向上心、個性 の伸長	あたしを束ねない で	2							A Hot Sport Today	6	コンクールの練習	9 10						体力テスト、水泳、 陸上競技、球技	情報に関する技術	4				KGノート キャリア教育 (進路学習)	4			体育大会 (応援合戦) 千代田MF	9 10	生徒会活動 全校集会	通年		
希望と勇気、 克己と強い意 志					式の計算と因数分解 平方根、二次方程式の 利用、三平方の定理	56 91					卒業の歌						持久走							キャリア教育 (進路学習)	通年								
真理の探究、 創造	人工知能との未来 人間と人工知能の 創造性		現代社会の見 方・考え方	?	式の計算の利用、二次 方程式、関数とグラ フ、三平方の定理	57 12					運動とエネルギー	9		立体作品				ダンス															
B 主として人との関わりに関すること																																	
思いやり、感謝	握手	4					生命の連続性	4					コンクールの練習	9 10				球技							家族・家庭生 活	4		班活動 仲間づくり	4 5	修学旅行	7		
礼儀													コンクールの練習	9 10				武道							キャリア学習 (進路指導)	通年							
友情、信頼													コンクールの練習	9 10				球技							学年お別れ会	3	班活動 仲間づくり	4 5	修学旅行 体育大会	7 9			
相互理解、寛 容			国家と国際社会	2					Sign Language. Not Just Gestures!	7			作品づくり					体づくり運動	情報に関する技術	4					文化発表会	10	班活動 仲間づくり	4 5	修学旅行 体育大会	7 9			
C 主として集団や社会との関わりに関すること																																	
遵法精神、 公徳心			取組から立ち直る日本 日本国憲法	6 9			科学技術と人 間												情報に関する技術	4					体育大会取組 み	9	清掃活動	通年					
公正、公平、 社会正義	故郷	9	高まるデモクラ シーの意識、日本 国憲法と基本的人 権	6 10			科学技術と人 間											「喫煙・飲酒・薬物乱用 のきっかけ」							平和学習								
社会参画、 公共の精神			高まるデモクラ シーの意識	6			科学技術と人 間												「保健、医療機関 の利用」						家族・家庭生 活	4	キャリア学習 (進路指導)	通年	清掃活動	通年	修学旅行	7	
勤労			高まるデモクラ シーの意識、生産 の場としての企業	6 12			科学技術と人 間																										
家族愛、 家庭生活の充 実	「字のない葉 書」	10	日本国憲法と基本 的人権、財政と國 民の福祉	10 2			科学技術と人 間												「生活排水の 処理 ごみの処理」						家族・家庭生 活	4	修学旅行	7					
よりよい学校生 活、 集団生活の充実			アジアと太平洋 に広がる戦線	6			科学技術と人 間												集団行動	情報に関する技術	4						仲間づくり	4	体育大会 千代田MF	9 10	生徒会活動	通年	
郷土の伝統と文化 の尊重、郷土を愛 する態度	俳句の可能性	6	私たちと現代社会	9			自然と人間	1			市民歌	4	伝統工芸					武道															
我が国の伝統と文化 の尊重、国を愛 する態度	和歌の世界	11	私たちと現代社会	9			自然と人間	1	Bentos Are Interesting	4	国歌 能「敦盛」	4	彫刻について					「スポーツの 文化的意義」															
国際理解、 国際貢献	温かいスープ	2	第一次世界大戦と 民族独立の動き、 私たちと国際社会	5 2			持続可能な社会を 目指して	2	The Story of Chocolate	9	ラヴェル スメタナ		鑑賞					「国際的なスポー ツ大会とその役 割」															
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること																																	
生命の尊さ	世界はうつくしいと	4	第一次世界大戦と民 族独立の動き、アジア と太平洋に広がる戦線	5 2			生命の連続性	4	Faithful Elephants	7									「感染症とその予 防」「性感染症と その予防/エイズ」						家族・家庭生 活		平和学習 (ヒロシマ)	7		平和学習	7		
自然愛護	作られた「物 語」を超えて	6	国際社会の課題と 私たちの取り組み	3			自然と人間	1	The Great Pacific Garbage Patch	10	「ブルタバ」							環境の汚染と 保全															
感動、畏敬の 念	挨拶	9					自然と人間	1																									
よりよく生きる喜び			生産の場としての企業 財政と国民の福祉	12 2			宇宙を観る		Is AI a Friend or an Enemy?	12								「喫煙と健康」「飲酒と健 康」「薬物乱用と健 康」 「共に健康に」								平和学習	7		平和学習	7	生徒会活動	通年	
	国語	月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	音楽	月	美術	月	保健体育	月	技術	月	家庭	月	総合的な学習	月	学級活動	月	学校行事	月	特別活動	月					

朝学習

【1年生】

【目標】

- ・ 課業前に落ち着いた環境づくりを行うことで、1日の学習に向けた準備時間とする。
- ・ 小学校の学習内容の復習から基礎基本を定着させ、中学校の学習への円滑な移行をめざす。
- ・ 自己採点により学習理解を深め、どの部分につまづきが生じているのかを生徒自らの気づきと結び付ける。
- ・ 仲間との教え合いを通して、自らの学びとするだけでなく支え合うことの大切さを知る。
- ・ 「覚える、見つける、写す、数える、想像する」など、学習に関わる認知機能を強化する。
- ・ 規則正しい登校習慣を身につける。

【実施内容】

* 実施計画

- ・ 集会、学校行事などの日を除き、毎朝実施。

* 使用教材

- ・ 計算トレーニング80回(浜島書店) ※適宜「百マス計算」なども導入。
- ・ 漢字トレーニング72回(浜島書店) ※進度に応じて、国語の基礎問題を導入。
- ・ 「覚える、見つける、写す、数える、想像する」など、学習に関わる認知機能強化に向けたシート

* 実施の流れ

基本的には1日シートずつとし、生徒自ら解答を確認後提出し、担任がチェックして返却。

朝学習

【2年生】

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回目	詩を読む	世界の国々と地域区分	正の数・負の数	生物のなかま①	be動詞①（現在）
第2回目	随筆を読む	世界各地の人々の生活	文字の式	生物のなかま②	一般動詞①（現在）
第3回目	小説を読む	世界の諸地域	方程式	物質のすがた①	canの文
第4回目	説明文を読む	日本のすがたと自然環境	比例と反比例	物質のすがた②	名詞/a, an, the/代名詞
第5回目	古文を読む	政治の流れ	平面図形	身のまわりの現象①	命令文
第6回目	漢字の読み書きと漢字の知識	経済・社会の流れ	空間図形	身のまわりの現象②	いろいろな疑問文
第7回目	作文の基本	文化の流れ	データの活用	大地の変化①	現在進行形
第8回目	文法	日本の人口・エネルギー	式の計算①	大地の変化②	一般動詞②（過去）
第9回目	文学的文章の読み方①	日本の産業・結びつき	式の計算②	化学変化と物質の成り立ち	be動詞②（過去）/過去進行形
第10回目	説明的文章の読み方①	日本の諸地域 九州地方	文字式の利用	物質のつくりと化学反応式	未来の文①
第11回目	文学的文章の読み方②	日本の諸地域 中国・四国地方	連立方程式①	化学変化と熱/化学変化と質量①	未来の文②
第12回目	説明的文章の読み方②	日本の諸地域 近畿地方	連立方程式②	化学変化と質量②	いろいろな文
第13回目	漢字の読み書きと熟語の知識	日本の諸地域 中部地方	連立方程式の利用	顕微鏡/細胞のつくり	接続詞①
第14回目	文学的文章の読み方③	日本の諸地域 関東地方	1次関数とグラフ①	光合成と呼吸	接続詞②
第15回目	説明的文章の読み方③	日本の諸地域 東北地方	1次関数とグラフ②	葉・茎・根のつくりとはたらき	不定詞①
第16回目	随筆を読み味わう	日本の諸地域 北海道地方	1次関数と方程式	消化と呼吸/血液の循環と排出	不定詞②
第17回目	古文を読み味わう	身近な地域の調査	1次関数の利用	感覚器官と動物の反応	助動詞
第18回目	小説を読み味わう	結びつく世界と全国統一	平行と合同	回路と電流・電圧	動詞のing形
第19回目	論説文を読み取る	江戸幕府の成立と鎖国	証明	回路の抵抗/電流とエネルギー	会話表現①
第20回目	短歌を読み味わう	産業の発達と幕府政治の改革①	三角形	電流と磁界	不定詞③/接続詞③
第21回目	古文を読み味わう	産業の発達と幕府政治の改革②	四角形①	電流と電子/直流と交流	比較①
第22回目	文法①(活用のない自立語)	革命時代の欧米/開国と幕府の滅亡	四角形②	気象観測と気圧	比較②
第23回目	文法②(用言の活用)	明治維新と立憲国家の成立	場合の数と確立	大気中の水蒸気/前線と天気	受け身
第24回目	文法③(付属語)	日清・日露戦争と近代日本の社会	箱ひげ図とデータの活用	日本の天気	会話表現②

朝学習

【3年生】

	国語	社会	数学	理科	英語
第1回目	漢字の基本	世界のすがた	正の数・負の数	花のつくりと植物の分類	be動詞（現在・過去）
第2回目	熟語の基本	世界各地の人々の生活と環境	文字の式	動物の分類	一般動詞①（現在）
第3回目	語句の基本	世界の諸地域/アジア州	方程式	いろいろな物質/気体の性質	一般動詞②（過去）
第4回目	指示語・接続語をとらえる	世界の諸地域 ヨーロッパ州/アフリカ州	比例と反比例	水溶液の性質	進行形（現在・過去）
第5回目	話題・要点をとらえる	世界の諸地域 北アメリカ州/ 南アメリカ州/オセアニア州	平面図形	物質の状態変化	名詞/a, an, the
第6回目	段落をとらえる	日本のすがた	空間図形	光の性質	代名詞
第7回目	要旨をとらえる	世界と日本の自然・人口	データの活用	音の性質/力のはたらき	形容詞・副詞
第8回目	会話・心情をとらえる	世界と日本の資源・産業・結びつき	式の計算	火山と地震	前置詞
第9回目	展開をとらえる	日本の諸地域 九州地方/中国・四国地方	連立方程式①	地層と大地の変化	疑問詞で始まる疑問文
第10回目	表現・主題をとらえる	日本の諸地域 近畿地方/中部地方	連立方程式②	物質のつくりと化学変化	命令文・提案する文
第11回目	詩を味わう	日本の諸地域 関東地方/東北地方/北海道地方	1次関数①	化学変化のきまりと熱の出入り	未来を表す文
第12回目	短歌を味わう	身近な地域の調査	1次関数②	生物と細胞	助動詞
第13回目	俳句を味わう	古代文明と日本	図形の調べ方	植物のつくりとはたらき	いろいろな文①
第14回目	古文の基本	古代国家の成立と発展	三角形	動物の消化と呼吸	不定詞①
第15回目	古文を味わう	中世の日本と東アジア	平行四辺形	血液の循環と排出/刺激と反応	There is(are) ～・接続詞
第16回目	古文を読み解く	結びつく世界と全国統一	確率	気象観測/空気中の水蒸気	動名詞
第17回目	漢文・漢詩の基本	江戸幕府の成立と発展	箱ひげ図とデータの活用	天気の変化	接続詞②
第18回目	文の組み立て	欧米の近代化と日本の開国	式の計算	電流の性質	比較①
第19回目	自立語	近代国家の歩み	平方根	静電気と電流/電流と磁界	比較②
第20回目	用言の活用	二度の世界大戦と日本	2次方程式	水溶液とイオン	受け身の文
第21回目	付属語	現代の日本と世界/ わたしたちの生活と現代社会	関数 $y = ax^2$ ①/ 関数 $y = ax^2$ ②	酸・アルカリとイオン/ 生命の連続性	現在完了形①②
第22回目	課題作文の基本	人間の尊重と日本国憲法/ 現代の民主政治、国会・内閣	図形と相似①/ 図形と相似②	力と運動/ 仕事とエネルギー	いろいろな文②/ 不定詞②③
第23回目	敬語	裁判所・三権分立、地方自治/ 消費、生産と労働、市場経済	円/平方根の定理①	天体の動きと地球/ 地球と太陽系	いろいろな疑問文・分詞
第24回目	手紙・対話	財政、社会保障/ 地球社会とわたしたち	三平方の定理②/ 標本調査	生物のつながり/自然と人間/ 科学技術と人間	関係代名詞・仮定法

17. 総合的な学習の時間 全体計画

教育目標・方針

主体性と協調性を持った生徒の育成

- (1) 自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成(自主)
- (2) 命や人権を尊重し、共に生きる生徒の育成(共生)
- (3) 地域や社会に貢献できる生徒の育成(貢献)

総合的な学習の目標

- (1) 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- (2) 情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方等の学び方やものの考え方を身につけさせる。
- (3) 自分の生き方についての自覚を深める。

育てたい力

- 自ら課題を見つける力
自分の置かれている状況を把握し、積極的に自分の内外に情報をもとめ、自分の課題を見つけていく姿勢や力。
- 協力して物事に取り組む力
集団の中で自己実現を図るためには、互いに考えを出し合い、よりよいものを求めていく姿勢が必要。そのための相手の意見をしっかりと聞く力や、自分の意見をまとめて相手に伝える力。
- 自らを表現する力
筋道を立てて論じる力や適切な話し方、効果的な表現を考える力。
- 目的に向けて行動する力
明確な目的を持ち、計画し、粘り強く取り組む力。自ら積極的に行動していく力。

学習内容と学習計画

	1年	2年	3年
学習内容と学習計画	<ul style="list-style-type: none"> * 興味や関心を引く学習教材を使用しながら、学習する姿勢・学習スタイル・学習の仕方を身につけさせる。 * 広い視野をもって文化を理解し、異なる文化・習慣を持った人々と偏見を持たずに自然に交流し、共に生きていくための資質や能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 生徒の興味関心を元に内容を決定し、学習意欲を引き出す。 * 職業についての学習をとおして生活の視野を広げ、社会との関わり方やマナーを身につける。 * 高度情報社会が進展していく中で、情報の発信・受信の基本的ルールを身につけるなど、生徒があふれる情報を主体的に選択・活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> * よりよい生活の創造のために、主体的に行動し、実践する。 * 他者を尊重する態度や他人を思いやる気持ちを育てる。
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班やクラスの集団づくりを進める中で、クラスに必要な課題を見つけ、それを解決していける取り組みを考え、実行していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路、生き方について考える。 ・暮らし方について考える。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の特徴を調べ発表をおこなう。 ・外国の方々を招き、交流会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業についての調べ学習。 ・社会と関わるためのあいさつやマナーについての学習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいと共に生きる子どもたち(手話で話そう、老いるとは) ・ボランティア活動を知ろう ・住みやすい街をつくらう

総合的な学習の時間の計画

時間割上の1時間分（35時間）

月時	1年内容	月時	2年内容	月時	3年内容
4 3	学級の組織作り	4 3	学級の組織作り	4 3	学級の組織作り
5 3	クラスの集団づくりに向けて 学習基礎(学習の仕方) テストの受け方・勉強の計画	5 3	クラスの集団づくりに向けて 宿泊学習に向けての取り組み	5 3	クラスの集団づくりに向けて
6 4	班やクラスの集団づくりに向 けての取り組み 平和学習	6 4	宿泊学習に向けての取り組み 平和学習	6 4	修学旅行に向けての取り組み 平和学習
7 3	平和学習 学習の充実についての取り組み 1学期の振り返り	7 3	学習の充実についての取り組み 体育大会に向けての取り組み 平和学習	7 3	修学旅行に向けての取り組み 平和学習
8		8		8	
9 4	体育大会に向けての取り組み	9 4	体育大会に向けての取り組み	9 4	体育大会に向けての取り組み
10 4	MFに向けた取り組み	10 4	MFに向けての取り組み	10 4	MFに向けての取り組み
11 4	国際理解についての取り組み	11 4	職業についての学習	11 4	障がいを持って生きることにつ いて考える
12 2	2学期を振り返る	12 2	社会と関わるあいさつやマナー について	12 2	手話について
1 3	進路について 学年行事の実施	1 3	様々な職業についての学習 職業選択と自分の進路について	1 3	手話を学ぶ
2 3	ふるさと学	2 3		2 3	進路について
3 2	1年間を振り返る	3 2	修学旅行に向けて	3 2	卒業にあたって

まとめ取りの時間分（1年15時間 2, 3年35時間）

学期	1年内容	2年内容	3年内容
1学期	・学級づくりの取り組み ・集団づくりの取り組み	・学級づくり、集団づくりの取り組み ・宿泊学習に向けての取り組み	・修学旅行に向けての取り組み ・体育大会に向けての取り組み ・応援団の取り組み
2学期	・体育大会の取り組み ・国際理解の取り組み	・体育大会の取り組み ・文化系行事に向けての取り組み ・職業についての学習	・体育大会の取り組み ・進路選択に向けての取り組み ・手話について
3学期	・各委員会からの取り組み ・ふるさと学	・進路に関する取り組み	・進路に関する取り組み ・卒業式に向けての取り組み

18. 図書館教育

A. 目標

図書館利用の活発化とマナーの向上に努める。
朝読書や校内読書感想文コンクールによって読書に関心をもたせる。

B. 年間計画

	月	行	事
1 学期	4	前年度図書整理	図書館指導
	5	購入図書希望調査(教師用)	図書整理
	6	図書館利用のマナーの徹底 購入図書の整理(受け入れ整理)	図書だよりの発行 読書PR用ポスター作成
	7	夏休み長期貸出	図書だよりの発行 図書整理(今年度購入分)
2 学期	9	読書感想文コンクールの出品作品の選考	図書だよりの発行 図書整理
	10	読書感想文集作成	図書だよりの発行
	11	読書週間の校内PR	図書だよりの発行
	12	冬休み長期貸出	図書だよりの発行
3 学期	1	市教研読書感想文集作成	図書だよりの発行 図書整理
	2	次年度の購入希望図書アンケート	図書だよりの発行
	3	読書賞の表彰、点検と反省	図書整理

19. 環境整美

A. 目 標

- 1 学習環境の整美と校内の美化に努め、美的情操を高める。
- 2 公共物を大切にし、身のまわりの整理整頓をする態度を身につける。
- 3 生徒・保護者・教職員が一体となって、美しい環境づくりに取り組む。

B. 努力目標

- 1 営繕係・・・校内の整美点検に努める
- 2 清掃係・・・清掃活動の充実に努める
- 3 学校園係・・・校内の緑化運動に努める

C. 年間計画

一 学 期	備品・設備・校具の点検整備	清掃分担の作成 清掃用具の点検 学期末清掃案の作成	花壇の点検、整美
二 学 期	備品・設備・校具の点検整備	清掃用具の点検 学期末清掃案の作成	花壇の点検、整美
三 学 期	備品・設備・校具の点検整備	清掃用具の点検 学期末清掃案の作成	花壇の点検、整美

20. 情報教育

A. 目標

- ①情報教育に関する研修を推進する。
- ②芸術鑑賞に関する資料を収集し、各学年に提供する。
- ③視聴覚機器の積極的な活用を推進する。

B. 年間計画

	月	行	事
1 学期	4	備品の点検と整備	今年度の全体計画作成 消耗品購入計画 CDラジカセの配備 クロムブックの学年移動
	5	新規購入備品の検討	芸術鑑賞の資料収集 HDDムービーカメラのデータの保管
	6	機器の整備	芸術鑑賞の資料収集 消耗品購入
	7	備品の点検	視聴覚研修
2 学期	9	備品の点検	消耗品購入計画
	10	消耗品購入	
	11	機器の点検整備	
	12	備品整理	
3 学期	1	今年度の反省	消耗品購入
	2	新年度に向けて機器の点検と確認	
	3	機器の整備	廃棄備品の確認 消耗品の確認 HDDムービーカメラのデータをDVDに保存

C. 情報活用能力観点別到達目標一覧 情報の科学的な理解

3観点	8要素	大項目	中項目	中学校
情報の科学的な理解	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解	コンピュータの特性や仕組み	コンピュータの基本構成	目的に応じてソフトウェアを利用することができる。(技術)
			周辺機器	周辺機器の機能特徴、活用方法が分かる。(技術)
		メディアの特性や仕組み	情報デジタル表現と特徴	デジタル化した情報を処理できる。(技術)
			伝達メディアの特性や仕組み	各メディアの長所と短所の活用方法が分かる。(技術)
		情報通信ネットワークの特性や仕組み	情報通信のネットワークの特性や仕組みが分かる。(技術・英語)	
		計測・制御の仕組み	プログラミング	簡単なプログラミングができる。(技術)
			データベース	データベースの整理整頓ができる。(技術)
			モデル化とシミュレーション	情報を理解し問題解決ができる。(技術)
情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解	情報活用の評価・改善	情報活用方法について改善し考えることができる。(技術)		

21. 特別活動の重点

A. 努力目標

- ・ 生徒のことは生徒にかえし、自分の問題としてとらえさせ、解決していく活動を具体的に推進し、生徒の自治能力の育成に努める。
- ・ 「生徒を変えるのは生徒である」ということを原則とし、生徒たちの力を引き出し組織していくことで、学級・学年・学校の現状をより良いものに変えていけるように支援する。

B. 重点目標

1. 学級集団づくり

- (1) すべての生徒が話し合いに参加できる場を設定する。
- (2) 進んで自分の考えや思いを言える雰囲気を作る。
- (3) 学級内の問題を取り上げ、考え、解決させていく取り組みをていねいに、ねばり強く進めていく。
 - ※ 学級活動を充実させる。
 - ※ 班長会議を活性化する。

2. 学年集団づくり

- (1) 行事に取り組みながら学年集団を作る。
- (2) 学年内の問題について考えられる場を設定し、組織的な動きを作る。
 - ※ 学年集会を充実させる。
 - ※ 学年学級委員会を活性化する。

3. 生徒会活動

- (1) 生徒会役員が中心となり、きまりや約束事を自主管理し、より良い学校生活づくりを進められるように指導する。
- (2) 学校内の問題について考えられる場を設定、話し合える組織的な動きを作る。
 - ※ 生徒集会を充実させる。
 - ※ 生徒協議会を活性化する。

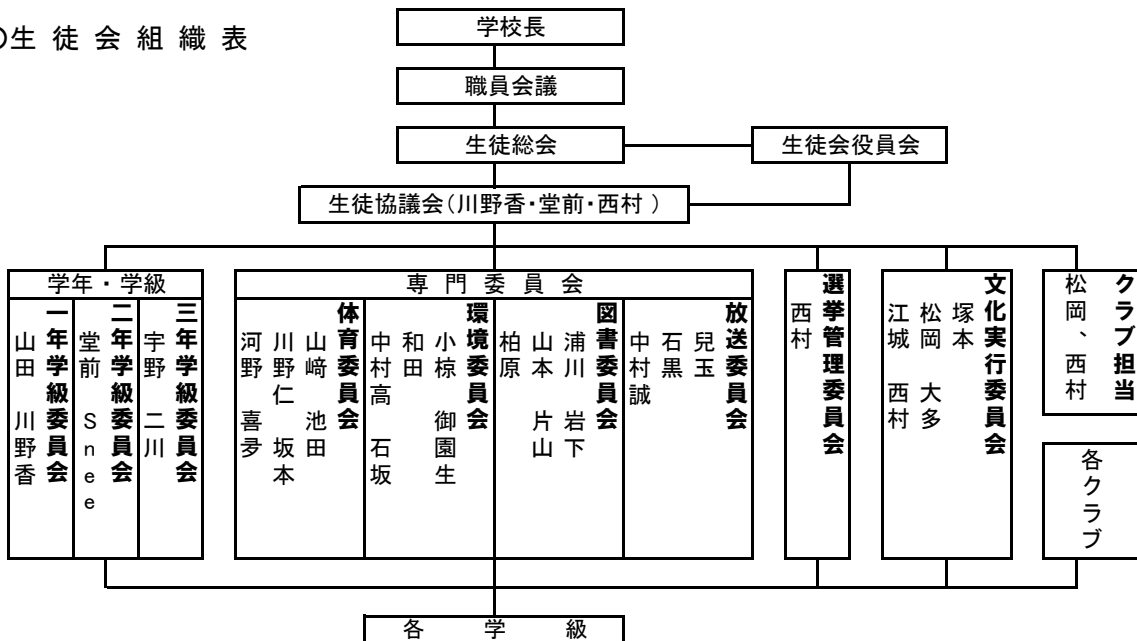
4. リーダーの育成

さまざまな活動を通し、学級、学年、学校を作っていくリーダーを育てる。

5. 地域や社会への貢献

地域や社会へ貢献し、地域の誇りとなる学校をめざす。

○生徒会組織表



各専門委員の選出方法

- *学級委員 2名 (男1名 女1名)
- *体育委員 2名 (男1名 女1名)
- *環境委員 2名
- *図書委員 2名
- *放送委員 1名
- *文化実行委員 2名 (男1名 女1名) 【前期のみ】
- *選挙管理委員 1名

○部活動規定（課外クラブ）及び活動方針

1. 部活動の目的

部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、礼儀や挨拶など社会性の向上等に資するものであり、単に、知識・技術・競技力を向上させるだけでなく、多様な活動・経験を通して、人間的な成長をめざすことを目的とする。

2. 部活動の意義

- ① 課外の時間を有効に活用する。
- ② 自主的な活動を通し、個性を伸ばし豊かな人間性を育てる。
- ③ クラブとしての結束をはかり、集団生活のあり方を学ぶ。
- ④ 精神と肉体を鍛え、技能・技術の向上をめざす。
- ⑤ 正しいマナー、あいさつ、言葉遣いを学ぶ。

3. 運営について

- ① 年間の活動計画並びに毎月の活動計画を作成し、計画的な活動を行うとともに、保護者にも提示し理解と協力を求める。
- ② 部活動顧問は複数で担当し、過度の負担が生じないようにする。

4. 休養日及び活動時間の設定について

- ① 休養日は週1日以上設定する。
- ② 週当たり平日は少なくとも1日（ノークラブデー）、土曜日及び日曜日のうち少なくとも1日を休養日とすることを基本とするが、対外試合等で困難な場合にあっても、学校全体で部活動を行わない日（定期考査期間等）を含め、部ごとに年間で104日以上設定する。
- ③ 1日の活動時間は、夏季時間帯の平日では長くとも2時間程度、冬季時間帯の平日では1時間程度、また、学校の休業日（学期中の週末を含む）は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。
- ④ 学校の休業日に練習試合等で4時間以上の活動となる場合は、生徒の健康管理に十分配慮して、休憩時間を適切に設定し、無理のないよう活動するとともに、その後に休養日設けるなど、学校生活に支障のないように配慮する。

5. 部活動規定

- ① クラブは顧問教師と部活動生徒で構成する。
- ② 部活動予算は、代表者（顧問）会議で審議し、学校長の承認を得て決定する。
- ③ 顧問の指導を原則とする。特別の事情の場合は、職員に連絡をし、承認を得る。
部活動係の教師と他のクラブ顧問は協力して責任をもって指導にあたる
- ④ クラブ練習・終了時刻（天候・時候により変更）・停止期間

期 間	クラブ終了時刻	下校時刻
2月～9月	17:15	17:30
10月～1月	16:45	17:00
家庭訪問、懇談会、 テスト最終日、 午前中授業、 千代田タイム	16:45	17:00

※午前中で授業の終わる時
家庭訪問・懇談会期間中
テスト最終日・千代田タイム
部活終了：4時45分
下校時刻：5時00分

- * 日・祝日 顧問の指導による
 - * 早朝練習 顧問の指導により、朝学活・学年集会に支障のないようにすること
時間帯 7時00分～8時00分（原則定期テスト1週間前は停止）
 - * 停止期間 定期テスト1週間前は原則練習を停止する
- ⑤ 土・日・祝日の活動は顧問が必要と認める場合、学校長の承認を得て活動することができる。
また、終了時刻は上の表を参考にする。
 - ⑥ 職員研修の日は原則として活動しない。
 - ⑦ 部外者の参加は、顧問の承認を得て行う。ただし、責任者にはなれない。
 - ⑧ 派遣費は公的行事に支給される。ただし、正選手（代表者）と補欠を含め16名を限度とする。
（ただし、クラブにより人数・金額の上限あり）
 - ⑨ キャプテン会議を部活動係の教師、クラブ顧問、代表生徒間で開き、種々の問題の解決をはかり、クラブ活動の発展を期す。
 - ⑩ 短縮日に昼食を忘れた場合、自分で外へ買いに行ったり、家に食べに帰ったりすることは禁止とする。
（忘れた場合は顧問に申し出ること。昼食は顧問に指定された場所で食べる事を原則とする）
 - ⑪ 買い食いをしない。
 - ⑫ 下校時刻を守る。
 - ⑬ 練習場所・更衣場所は、使用したクラブで責任を持って後始末をすること。
 - ⑭ 更衣場所は、各クラブで決められた場所を使用すること。
 - ⑮ 貴重品は、必要でない場合持ってこない。どうしても必要な貴重品は各クラブ顧問にあずける。

6、指導について

- ① 部活動の指導に当たって、体罰は、いかなる理由があっても、決して許されるものではない。また、威圧的な言動等による指導によって、生徒の自発性を損なうことの無いよう考慮して指導に当たること。
- ② 適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促す。

7、その他

- ① 事故の未然防止のため、施設・設備の点検を定期的実施する。
- ② 無理のない安全な活動メニューを心掛け、自主的に行うことを基本とする。
- ③ 大会参加や練習試合等については、日程等を十分に考慮し、過度な負担とならないようにする。
- ④ 夏期部活動停止基準
WBGT 31℃を超えた場合は、原則運動部は活動停止
どうしても実施しなければならない場合は、複数の顧問がついて、15分毎に休憩給水を行い、活動時間は1時間を限度とすること。

○部活動組織表

運動部	顧問	文化部	顧問
バスケットボール男子	池田 王井	吹奏楽	浦川 西村
バスケットボール女子	中村高 石坂	文化① 地歴・家庭科	喜多 片山
卓球 男子	Snee 岩下		
卓球 女子	山崎 松岡	文化② 美術・将棋	江城 中村誠 柏原
硬式テニス 男子	川野香 山本 和田		
剣道	益本 石黒 山田	※ 全員顧問制 事務職員・養護教諭は含まない 生徒指導主事・生徒会主担は配慮する 引率は全職員で協力して行う	
陸上	小椋 御園生 大多		
サッカー	宇野 川野仁 堂前		
ソフトテニス	塚本 阪本 二川		
野球	兒玉 河野		

○ 生徒会活動年間報告

	生徒会	学級委員会	環境委員会	体育委員会	図書委員会	放送委員会	合唱祭 実行委員会	選挙管理 委員会	応援団	キャプテン 会議
一 学 期	入学式・対面 式・離任式の 取り組み スローガン作り あいあい活動 応援団の準備 平和登校	仲間づくり ※年間を通 して学年集 会の企画運 営 目標達成に 向けての取 り組み 学年行事へ の取り組み	目標づくり (あいさつ活動) 校内または 校外の美化 活動の取 り組み 大掃除 (油引き)	ラジオ体操 学年行事の 取り組み 水泳の授業 について 学年行事の 取り組み 体育大会に 向けて <small>種目説明・エントリー</small>	図書室の利用 マナーの徹底 図書の貸出 図書の整理 ブックフェス 読書PR 夏休み期間 の貸出につ いて	昼食時の放 送の企画・ 運営 曲の決定	千代田MFに向 けての話し合 い 千代田MF の取り組み クラスの リーダーとし ての取 り組み	選挙に向け 話し合い クラス のリーダー としての取 り組み	団発表 団長募集 団長選挙 リーダー選出 団長会議 リーダー会議 役付け会議 垂れ幕作製	キャプテン 会議 クラブ紹介 クラブ ミーティ ング キャプテン 会議
二 学 期	体育大会への 取り組み 体育大会 あいあい活動 後期役員選挙 千代田MF 小学校体験入学	仲間づくり (あいさつ活 動) ごみ軽減の 取り組み 学年行事へ の取り組み 学年全体の 取り組み	カーディガ ンの取 り組み 大掃除・ (油引き)	体育大会の 取り組み 学年行事へ の取り組み	図書の貸出 図書室の飾 り作り 図書の整理 ポスター作り 冬休み期間 の貸し出し について おすすめの 本のポップ 作り	昼食時の放 送の企画・ 運営 体育大会の 取り組み	千代田MF の企画・運 営 全体会の企 画・運営 千代田MFの反省	後期役員選 挙に向けた の 取り組み 引継ぎ講習会	リーダー会議 役付け会議 応援練習 リハーサル 本番 引継ぎ講習会	キャプテン 会議
三 学 期	あいあい活動 お別れ会・卒 業式の取 り組み 次年度前期役 員選挙	仲間づくり ごみ軽減の 取り組み 学年行事へ の取り組み 1年間の反省	大掃除 (油引き) 1年間の反省	学年行事へ の取り組み 1年間の反省	図書の貸出 図書の整理 ポスター 本の処方箋 お守りづくり おすすめの 本のポップ 1年間の反省	昼食時の放 送の企画・ 運営 1年間の反省	前期役員選 挙に向けた の 取り組み (生徒総会)		キャプテン 会議 (次年度クラブ 紹介)	

22. 生徒指導部

1 現状と課題

本校は2つの小学校が合わさり、大阪府下でも有数の中規模校となっている。基本的な生活習慣がしっかりしている生徒も多いが、一方で生活基盤が崩れる中でさまざまな問題を抱え、それを不登校や問題行動として表出する生徒も少なくない。

- (1) 基本的な生活習慣に対する指導。
- (2) さまざまな理由により不登校になっている生徒への対応。
- (3) 学習に積極的に取り組ませること。
- (4) 集団生活の意義を理解させること。

2 生徒指導の重点目標と具体的指導

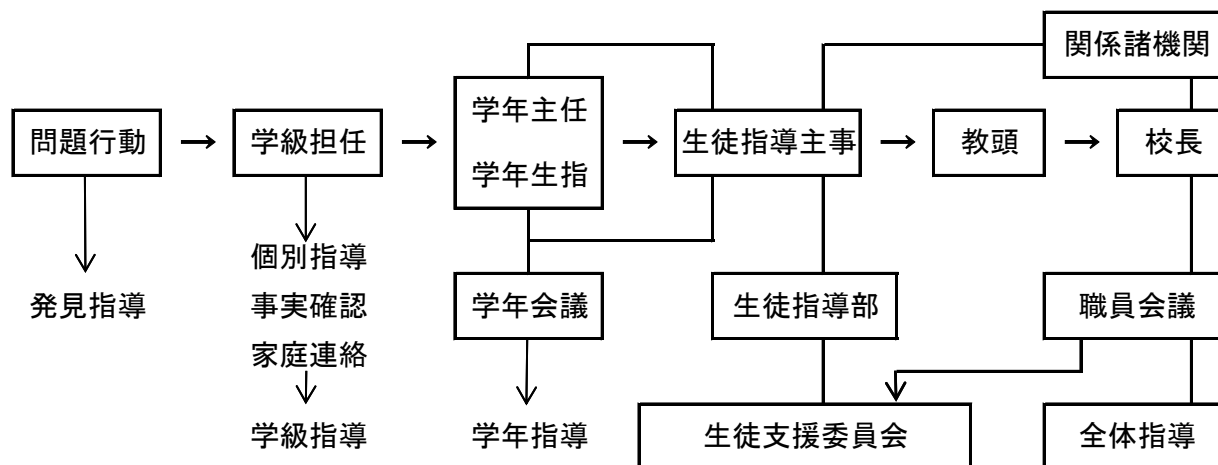
- ① 基本的な生活習慣（学習習慣）を身につけさせる。
 - ・ 時間を守る指導
 - ・ あいさつをする指導
 - ・ 正しい言葉遣いの指導
 - ・ 授業規律の指導（小学校との連携）
- ② きちんとした集団生活が行えるようにさせる。
 - ・ きまりを守る指導
 - ・ 頭髪、服装など身だしなみの指導
 - ・ 集会の指導
 - ・ 部活動の指導
 - ・ 公共物を大切にすることの指導
 - ・ クラスの子どもたちとつなげる仲間づくりの指導
- ③ 善悪の正しい判断力と行動力を身につけさせる。
 - ・ 良いことはほめ、制止すべきことに対しては、それを怠らない指導
- ④ リーダーを育成する。
 - ・ クラス、委員会、生徒会、部活動を活性化させる指導
- ⑤ いじめ・不登校対策に取り組む。
 - ・ いじめをおこさないための集会・学年集会・学級での仲間づくりの指導
 - ・ 生徒支援委員会との連携
 - ・ 対応の一本化（生徒支援コーディネーター）によって不登校を解消させる。
 - ・ 人権教育を通じて子どもたちの人権感覚を養い、他者理解を促す。

以上の目標を達成するために、

- 生徒との対話による指導をねばり強く続ける。
 - ・ 教室に入れない生徒に対して話し込み指導を授業空き教員が行う。
 - ・ 定期的にかウンセリング週間を設ける。
- 保護者（地域）との連携を密にして、保護者の協力を引き出す。
 - ・ 保護者に学校の実態を知ってもらうために参観を行う。
 - ・ 問題行動を起こす生徒の保護者へのアプローチ(家庭訪問など)を積極的に行う。
 - ・ 学校行事や学年行事があるときには、保護者に来校を願う。
- 生徒の心に響く道徳的指導を行う。
 - ・ 生徒指導だよりを定期的に発行する。
 - ・ 全校集会で生徒支援コーディネーターと一緒に成長を促す指導をおこなう。
 - ・ あいさつ活動を生徒会本部とタイアップして実施する。
 - ・ 美化キャンペーン期間中にボランティア生徒と一緒に実施する。
- 問題行動の対応として場合によっては、関係諸機関とも連携をとる。
 - ・ 河内長野警察や他市警察署との連携
 - ・ 富田林少年サポートセンターとの連携
 - ・ 子ども家庭センターや子育て支援センターとの連携
 - ・ 家庭裁判所調査官との連携
 - ・ 保護観察所、保護司、協働員などとの連携

○緊急生徒指導体制

- ・問題行動が起こったときは、千代ナビの「問題行動チャート」をもとに、迅速な対応をする。
 - ・いじめが起ったときは、千代ナビの「いじめ対応チャート」をもとに、迅速な対応をする。
 - ・欠席が続いたときは、千代ナビの「欠席対応チャート」をもとに、迅速な対応をする。
- ・問題の把握
関係生徒から事情を聞き、その事象・背景などを把握する。
 - ・指導
タイミング・場所・雰囲気などに配慮して指導を行う。
 - ・連絡
保護者へ、事情説明・指導の報告を行うとともに、職員への連絡を行う。



※ 生徒支援委員会

校長、教頭、生徒指導主事、生徒支援コーディネーター、通級学級担当、
各学年主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー

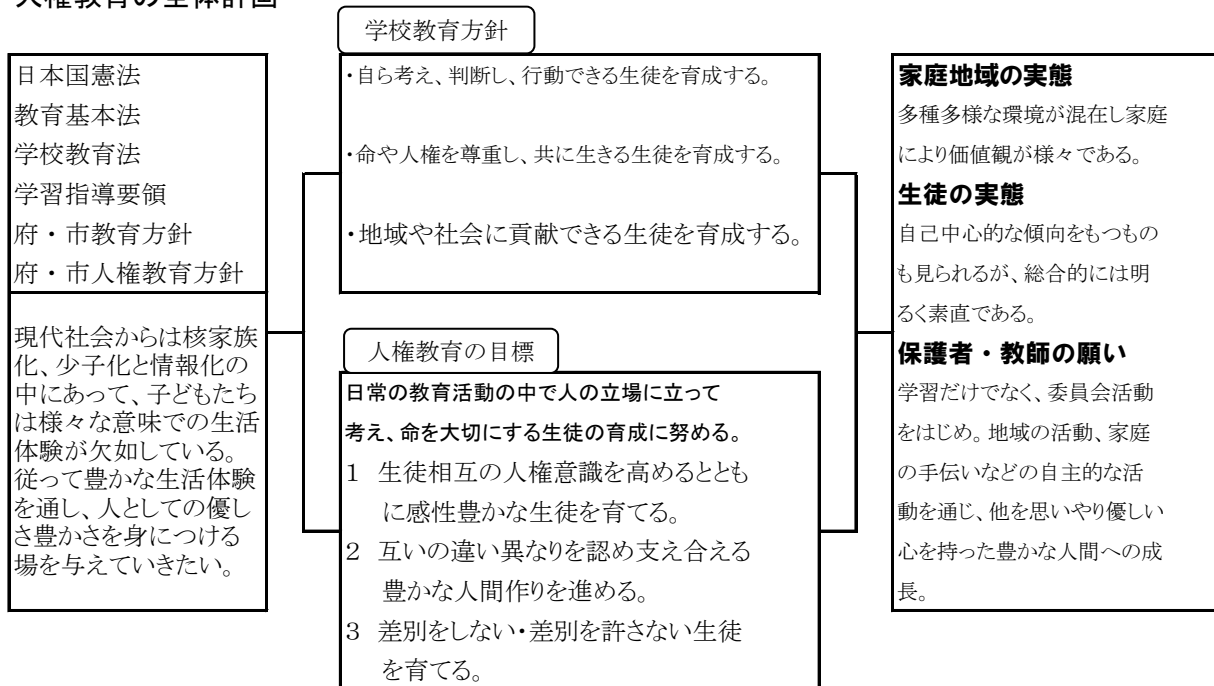
23. 人権教育

目 標

日常の教育活動の中で、人の立場に立って考え、命を大切にする生徒の育成に努める。

1. 感性豊かな生徒を育てる。
2. 互いに支え合うことの出来る生徒を育てる。
3. 差別しない・差別を許さない生徒を育てる。

人権教育の全体計画



学 年 の 重 点 目 標		
1 年	2 年	3 年
人権の尊さに目を開かせ、差別を許さない感性を育て相手の立場を理解し、協力しあえる仲間づくりに努める。	人権の学習を通してともに支え合う仲間(集団)づくりに努める。	人権を正しく理解したうえで、今何をしなければならないのかを考えさせる。

各教科	特別活動	その他
教科の特性に応じ、教材の精選と構造化をはかる。 学習に遅れがちな生徒のつまづきの早期発見と、その指導を基本にすえた学習活動を展開する。	相互理解を根底に、自主的な実践を通してよりよい集団の中に生きる自主的自立的態度を養う。	・お互いを思いやり、大切にすることを養う。 ・新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と理解を深めて、差別を許さない集団づくりを充実させる。
・目標の明確化に努め、教育機器を活用し、効率の高い指導を推し進める。 ・基礎学力の定着をはかるための指導法や指導の機会・場の工夫を行う。 ・指導形態の工夫により、生徒が自主的・意欲的に取り組む学習活動の研究を進める。	集団の一員としての自覚とその役割の遂行を促すとともに、自ら積極的に取り組む自主的態度を養う。	・時と場に応じた正しい言葉づかいや行動を身につけさせる。 ・仲間と共に励まし助け合う姿勢を養う。 ・時間厳守、身の回りの整頓などを含め、基本的な生活習慣、行動様式を身につけさせる。

○ 人権教育の項目別目標

年間指導計画			
	1年	2年	3年
目標	<p>・人権の尊さに気づき、差別を許さない心をもつ。相手の立場を理解し、協力し合える仲間作りに努める。</p> <p>・人権問題を正しく理解した上で、今何をしなければならないかを考える。</p>		
仲間づくり	一人ひとりを大切にし、人の立場にたって考え、集団の中でおたがいに支えあっていく仲間づくりを進める ○ 学級づくり ○ 校外学習に向けて	一人ひとりを大切にし、人の立場にたって考え、集団の中でおたがいに支えあっていく仲間づくりを進める ○ 学級づくり ○ 宿泊学習に向けて	一人ひとりを大切にし、人の立場にたって考え、集団の中でおたがいに支えあっていく仲間づくりを進める ○ 学級づくり ○ 修学旅行に向けて
部落問題	差別と闘う人々の姿を学ぶ ○ 身近な差別	差別と闘う人々の姿を学ぶ 職業と部落問題の関係を学ぶ ○ 就職差別	差別と闘う人々の姿を学ぶ 差別の現実を知る ○ 結婚差別、差別発言
障がい者理解	「障がい」がある人々が抱えている問題について学ぶ。 「障がい」がある人と共に生き、お互いに支えあう集団を育てる ○ フレックスについて	「障がい」がある人々が抱えている問題について学ぶ。 「障がい」がある人と共に生き、お互いに支えあう集団を育てる ○ バリアフリー ○ 職業における障がい者理解	「障がい」がある人々が抱えている問題について学ぶ。 「障がい」がある人と共に生き、お互いに支えあう集団を育てる ○ 手話
平和教育	戦争の被害について学び、平和の尊さを知る	戦争の本質に迫り、日本の過去と現在の姿を学習する	世界の紛争や戦争の現状を踏まえ、大きな視野に立ち、平和の意義について考える
学年別課題	【国際理解】 諸外国の文化に親しみ、日本に住む外国の人々とのふれあいを通じて、お互いを認め合える集団を育てる ○ 在日外国人問題 ○ 世界の現状を知る	【職業体験】 職業体験を通じて自分の進路を考える。いろいろな職業を知る。社会人として、必要なマナーを学ぶ ○ 職業における国籍問題 ○ 職業における男女格差	【福祉問題】 手話学習を通じて、聴力に障がいがある方々の思いや生活を知る。また、自分のできることや、よりよい福祉環境づくりを考える
共生教育	相手との違いを改めて知る中で、ジェンダー意識を持ち、お互いを尊重し支えあう気持ちを持つ ○ LGBT	人の誕生までを科学的に知り、自他の生命の尊さを考える ○ エイズ、性感染症 ○ 異性とのつきあい方（デートDVなど） ○ LGBT	相手を正しく理解し、社会の一員として、責任のある態度を養う ○ 薬物、妊娠・出産、性感染症 ○ LGBT
進路	将来の夢、身近な目標を持つことにより、今の自分を見つめる	職業体験を通じて自分の進路を考える。また、進学等についての情報、現状を伝える	自分・仲間の進路を大切にできる集団づくりをすすめる

○ 人権教育学年別指導計画・研修計画

	1 年	2 年	3 年	人権研修	市人研
4	仲間づくり	仲間づくり	仲間づくり	学年人権研	総会
5	障がい者理解	障がい者理解	平和学習	校内人権研	
6	(共生学習) いじめ	共生学習 (性に関する教育) いじめ	 いじめ 進路学習	学年人権研	研究部代表者会議 校区人権研 人権教育講座 夏季研
7	平和学習	平和学習	仲間と進路		現地学習会
8	平和登校日	平和登校日	平和登校日		大人教夏季研
9	仲間づくり	仲間づくり	仲間づくり	学年人権研	人権教育講座
10	在日外国人問題	職業選択における様々な差別問題 ・ 男女格差 ・ 国際問題 ・ 障がい者理解など	障がい者理解 差別を学ぶ ・ 部落問題 ・ 在日外国人問題	校内人権研	大人教
11	国際理解			学年人権研	全同教
	LGBT	LGBT	LGBT		
12	国際理解	職業体験にむけて 進路学習	・ 共生 など ・ 生き方について	学年人権研	
1	身近な差別 進路	職業体験のまとめ 共生学習	進路 親楽習 共生学習	学年人権研	研究部代表者会議 校区人権研
2	情報モラル	部落問題 情報モラル 修学旅行に向けて 進路	情報モラル	学年人権研	冬季研 あゆみ編集会議
				校内人権研	南人教実践交流会
3	まとめ	まとめ	まとめ	まとめ	あゆみ編集

24. 支援教育

目標

共に学び共に育つ支援教育の視点を基礎とし、障がいのある生徒一人ひとりに応じた教育を行い、社会の一員として主体的に生きる力を育む。

- ① 日常生活習慣を身につけさせ、運動機能、感覚機能の調和的発達をはかる。
- ② ことばの理解を深め、円滑なコミュニケーション能力を育てる。また、学級活動・学年・学校行事など通常学級の生徒と活動を共にする機会や郊外での交流活動を多く設けることにより、集団生活へ参加する力を育てる。
- ③ 家庭との連携を密にし、一人ひとりの能力・特性を把握し、それぞれに応じた教育課程を編成し実施する。
- ④ 職業体験など様々な活動に取り組むことで社会的自立をはかり、本人にとって最も適切な進路選択ができるよう努める。

年間計画

月	
4	教育方針の確認(指導目標、年間計画)。教育課程の編成。個別の指導計画の作成。困り感シートの作成。入級生の把握と指導。1学期の学習計画。支援教育方針等提出書類作成。生徒の情報交換。
5	学年行事(修学旅行や郊外活動、宿泊学習)の取り組み。支援小中連絡会
6	通常学級・支援学級の生徒の様子把握。学年行事(宿泊訓練)の取り組み。市人研・市教研テーマへの取り組み。小中連携しての情報交換。支援小中説明会
7	市内中学校交流会への参加。通常学級との交流。研修会への参加。小学校支援学級の保護者説明会。
8	市人研・市教研に参加。校区支援学級研修に参加と小中情報交換。提出書類作成(障がいの状態一案表)
9	指導計画の確認。2学期の学習計画。生徒の情報交換。諸行事への参加と学年の取り組み。研修会への参加。
10	小中支援学級で学習指導法や教材等の情報交換。なかよし運動会への参加。支援教育研修会への参加。校内研修会
11	市教研研究集会への参加。小中交流会への参加。市内なかよし卓球大会への参加。
12	市内中学校交流会への参加。通常学級との交流。提出書類作成(障がいの状態一覧表)
1	指導計画の確認。3学期の学習計画。新年度入級生の情報交換。進路の指導。なかよし作品展への作品制作
2	なかよし作品展への参加。小中連携しての情報交換。新入生と保護者との面談。
3	お別れ会。年間の反省。個別の支援・指導計画の総括

24. 通級教室

目標

通級指導教室とは、日常は通常の学級で勉強しながら「言葉」や「コミュニケーション」「情緒」などについて、何らかの個別の援助を必要としている子どものための教室です。学校生活の色々な場面で、不安を抱えて様々な要因で本来の力を出し切れない子どもに対して、それぞれの特性に応じた指導を行い、生き生きとした楽しい生活を送れるよう支援することを目的としています。

種別

- ◎言語障がい教室
 - ・器質的、機能的な構音障がい
 - ・吃音等、ことばにおけるリズムの障がい
 - ・言語機能の基礎的な事項(話す、聞く等)に要配慮等
- ◎自閉症・情緒障がい教室
- ◎発達障がい教室
- ◎学習障がい(LD)・軽い自閉傾向・ADHD等

年間計画

月	
4	教育方針の確認(指導目標、年間計画)。個別の指導計画の作成。困り感シートの作成。小中通級相談会。入級生の把握と指導。1学期の学習計画。支援教育方針等提出書類作成。生徒の情報交換。
5	学年行事(修学旅行や校外活動、宿泊学習)の取り組み。支援小中連絡会。小中通級相談会。
6	通常学級・通級生徒の様子把握。学年行事(宿泊訓練)の取り組み。小中連携しての情報交換。小中通級相談会。
7	研修会への参加。支援小中説明会。小学校通級教室の保護者説明会。小中通級相談会。
8	小中情報交換。提出書類作成。小中通級相談会。
9	指導計画の確認。生徒の情報交換。諸行事への参加と学年の取り組み。研修会への参加。小中通級相談会。就学前相談。
10	小中通級相談会。就学前相談。
11	小中連携しての情報交換。小中通級相談会。市内なかよし卓球大会への参加。
12	小中通級相談会。通常学級との交流。提出書類作成。(障がいの状態一覧表)
1	指導計画の確認。新年度入級性の情報交換。小中通級相談会。
2	小中連携しての情報交換。新入生と保護者との面談。小中通級相談会。
3	年間の反省。個別の支援・指導計画の総括。小中通級相談会。

26. 進路指導の重点

A. 目 標

生徒に「生きる目標」を自覚させるとともに「生きる力」を養い、「自らの進路」を見つめさせて個性に応じた進路を保障する。

B. 具体的な取り組み

1. カウンセリングや個人懇談等を通して生徒理解に努める。
2. 自己を見つめさせ、人生の目標を考えさせる。
3. 進路情報を収集するとともに進路説明会や進路通信、掲示等を通して、保護者・生徒への情報の提供を行う。
4. 高校や専修学校等の体験入学会や学校見学会への参加を促し、いろいろな学校等の特色を理解させることに努める。
5. 地元高校との連携を図っていく。

年間計画

月	1年生	2年生	3年	その他
4	進路指導計画の作成	進路指導計画の作成	進路指導計画の作成	
5				中高連絡会
6			[学活]中学校卒業後の進路 第1回進路説明会	
7			入試の仕組み いろいろな学校の概要 進路相談 [学活]「先輩の進路」 高校・専門学校体験入学	教師対象 高校説明会に参加 (各高校)
8			高校の見学・体験入学・合同説明会	
9	[学活] 「将来の希望・つきたい 職業・働くことの意義・ 職業調べ等」	(職業体験の職場探し)	第1回進路希望調査	
10		(職業体験に向けて) 職業調べ	第2回進路希望調査 体験入学・支援学校見学会 進路写真・進路カウンセリング [学活]「自分の進路を考える」 第2回進路説明会	私立高校説明会に参加、保護者対象 高校説明会、地元 高校保護者説明会
11	[学活] 「自己を知る。毎日の 学習と進路」		第3回進路希望調査 職場見学・適正検査 体験入学 進路懇談会 [学活]「いろいろな学校の概要」	専修・専門学校説明会に参加
12		(職業体験の実施) (職場体験のまとめと発表)	進路相談と進路調査 職業相談 面接練習 進路懇談会 (私立、公立特別選抜希望校決定)	
1	事業所へのアンケート		私学出願 他府県私学入試	高校との教育相談
2			私学入試・発表 専修専門学校入試・発表 公立特別選抜出願・入試・発表 第4回進路希望調査 公立一般選抜進路懇談会	
	[学活] 「1年をふりかえって」 職場体験場所の決定	[学活] 「1年をふりかえって」	公立一般選抜出願・入試・発表 特別支援学校入試	再受験の相談 進路資料の作成

27. 健康安全

目 標

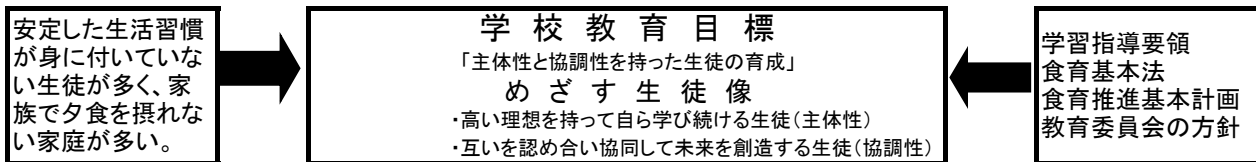
1. 生徒がすすんで、保健活動や健康管理をできるように計画的に指導する。
2. 生徒・職員が協力して、保健環境の整備に努める。
3. 保健行事を円滑に運営する。
4. 避難訓練を行い、平時から災害発生時の対応を身につける。
5. 職員の危機管理の意識向上に努める。

保健年間計画

月	保健行事・保健学習	保健管理	組織活動
4	身体測定 視力・聴力検査 検尿1次 定期健康診断 (眼科, 耳鼻科, 心臓1次)	欠席調査の実施 諸帳簿の記載 医薬品点検 宿泊行事前健康調査の実施 (2・3年)	健康安全部の役割と分担 教育計画の立案と実施 危機管理マニュアルの作成 定期健康診断の検討・準備 定期健康診断の事前・事後指導 保健通信の発行
5	定期健康診断 (内科, 結核, 歯科) 検尿2次	欠席調査の実施 医薬品点検	定期健康診断の事前・事後指導 宿泊行事前の保健指導 保健通信の発行 学校保健委員会の検討・準備 歯の保健指導 口腔衛生の実態調査・う歯の調査
6	定期健康診断 (心臓2次)	欠席調査の実施 医薬品点検	保健通信の発行
7	結核精密検査	欠席調査の実施 保健器具の整備 諸帳簿の記載 医薬品点検	1学期の保健活動のまとめ 夏休み中の生活設計と保健管理の指導 学校保健委員会の検討・準備 保健通信の発行発行 保健統計のまとめ
8	職員検診	医薬品点検	
9		欠席調査の実施 医薬品点検	疾病治療結果の調査と今後の対策 保健通信の発行
10	検尿(1, 2次)	欠席調査の実施 医薬品点検	保健通信の発行
11	1年歯科衛生指導	欠席調査の実施 健康調査の実施 医薬品点検	保健通信の発行
12		欠席調査の実施 医薬品点検	流感予防の指導 2学期の保健活動のまとめ 保健通信の発行
1	1年薬物乱用防止教育	欠席調査の実施 医薬品点検	疾病受診結果の調査と今後の対策 保健通信の発行 学校保健委員会の検討・準備
2	3年親楽習 学校保健委員会 1,2,3年生性教育	欠席調査の実施 医薬品点検	保健通信の発行
3		欠席調査の実施 医薬品点検 健康診断票の整理 諸帳簿の整理	春休み中の生活設計と保健管理の指導 (3年; 成長記録の配布 1,2年; 1年間のまとめ) 疾病受診結果の調査とその反省 保健通信の発行 資料の整理 本年度の反省

【防災教育年間計画】

月	学校行事・安全指導	安全管理	組織活動
4	交通安全指導	学校環境の点検と修理 教室の整備（机、椅子の適正な配備） 通学路の点検 運動場の整備	健康安全部の役割と分担 教育計画の立案と実施 危機管理マニュアルの作成 交通安全指導の計画・実施
5	飲料水検査 避難訓練(地震) 救急救命講習		避難訓練の検討・実施 消防署への連絡・調整 救急救命講習会の参加・計画・実施
6	プール水質検査	プール・手洗い場の整備と清掃	
7	安全点検 犯罪防止教室 校内大掃除 雷雨時の生徒避難		
8	不審者対応研修	校舎の修理 トイレ、手洗い場の清掃・点検	警察署との調整
9		運動場の整備	
10	交通安全指導 避難訓練(地震＋火災) 照度検査	教室の照明設備の点検	交通安全指導の計画・実施 避難訓練の検討・実施 消防署への連絡・報告
11	救命救急講習会(出前授業)	トイレ、手洗い場の整備	消防署への連絡・調整
12	安全点検		
1	空気検査		教室の換気の指導
2			教室の換気の指導
3	安全点検 校内大掃除	トイレ・手洗い場の掃除・点検 教室カーテン整備 教室の整備 窓ガラスの整備 トイレ・手洗い場の掃除・点検	



食に関する指導の目標	
①食事の重要性、食事をすることの楽しさ・喜びを理解する。 ②食文化等についての理解を図り、食習慣と健康な生活とのかかわりについて正しい知識や技能を身につける。(知識・技能) ③成長期の望ましい食事のとり方と栄養素の働きについて正しい知識を身につけ、自ら管理できる能力を養う。 ④食の安全についての知識を習得し、自ら選択し判断できる力を身につける。(思考力・判断力・表現力等) ⑤食の文化や各地の産物について理解し、持続可能な食のあり方について考える。 ⑥食事のマナーについて正しい知識などを身につけ、食事を通したコミュニケーション能力を養い、望ましい人間関係をとれる能力を身につける。 ⑦毎日の生活の中で、食事の持つ役割について考え、生産者への感謝や尊敬する心を育てる。(学びに向かう力・人間性等)	

幼稚園 保育所	小学校	各学年の食に関する指導目標						
幼・保・小との連携における基本方針		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">1年次</th> <th style="width: 33%;">2年次</th> <th style="width: 33%;">3年次</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ・家庭での日々の生活や生活環境の学習を通して、規則正しい生活習慣と食事の大切さ、家庭における自らの役割を考える。 ・食事が大切なコミュニケーションの場であることを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 </td> <td style="padding: 5px;"> ・栄養素の働きと正しい摂取バランスについての知識を身につける。 ・食材の種類と含まれる栄養素・正しい食材の選択方法などについての理解を深め、自分の摂取する食品を選択できる能力を身につける。 </td> <td style="padding: 5px;"> ・年代によって配慮されるべき栄養バランスや食事について理解する。 ・これまでの成長を振り返り、出生から現在までの食と心身の発達について考え、主体的によりよい食習慣を形成しようと努力する態度を養う。 </td> </tr> </table>	1年次	2年次	3年次	・家庭での日々の生活や生活環境の学習を通して、規則正しい生活習慣と食事の大切さ、家庭における自らの役割を考える。 ・食事が大切なコミュニケーションの場であることを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・栄養素の働きと正しい摂取バランスについての知識を身につける。 ・食材の種類と含まれる栄養素・正しい食材の選択方法などについての理解を深め、自分の摂取する食品を選択できる能力を身につける。	・年代によって配慮されるべき栄養バランスや食事について理解する。 ・これまでの成長を振り返り、出生から現在までの食と心身の発達について考え、主体的によりよい食習慣を形成しようと努力する態度を養う。
1年次	2年次	3年次						
・家庭での日々の生活や生活環境の学習を通して、規則正しい生活習慣と食事の大切さ、家庭における自らの役割を考える。 ・食事が大切なコミュニケーションの場であることを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・栄養素の働きと正しい摂取バランスについての知識を身につける。 ・食材の種類と含まれる栄養素・正しい食材の選択方法などについての理解を深め、自分の摂取する食品を選択できる能力を身につける。	・年代によって配慮されるべき栄養バランスや食事について理解する。 ・これまでの成長を振り返り、出生から現在までの食と心身の発達について考え、主体的によりよい食習慣を形成しようと努力する態度を養う。						

		学期ごとの指導目標		
特別活動・終礼時など	学級活動及び 昼食時の時間	食事ならびに朝食の大切さを理解する。食事をする時の環境・衛生に配慮できる能力を身につける。(年間を通して)		
	食に関する指導	1学期	2学期	3学期
	昼食指導	1 朝食の大切さを知ろう 年 暑さに負けない食事を作ろう 2 成長期における食事の大切さを知ろう 年 3 睡眠・食事と健康の関係を知ろう 年 行事等 身体測定 内科検診 歯科検診 家庭訪問 宿泊行事前健康診断 授業参観	日本のおいしいところを知ろう 運動と食事の関係を知ろう 食べ物に使われている食材について調べよう 授業参観 体育大会	楽しい昼食時間の持ち方やマナーについて考えよう 食材を扱っている職場に行き、食事について調べよう 食事を作ってくれている人への感謝を表そう 飲料水水質検査
教科との関連	技術・家庭科(家庭科分野)	食品と栄養素のかかわりについて知る バランスの取れた食生活についての理解 食事のマナーの理解	家庭生活と食品の消費についての理解 食品の正しい選択や環境に配慮した消費生活についての理解	幼児の成長と心身の発達の理解 生活を取り巻く環境の理解 食の安全性の理解
	保健体育	体づくり運動を通した健康や安全についての理解	健康な生活と病気の予防についての理解	健康と環境についての理解
	国語	古典文学に見る食文化(地域食や行事食 海外の伝統料理など)を知る		
	社会	世界各地および日本国内の地理的特徴・生産される食品や文化の違いを知る	歴史の流れと食文化を知る	現代の暮らしと食生活について知る
	理科	動植物の種類や生育システム、自然と環境のかかわりを知る	人体の仕組み 栄養素の消化吸収システムを知る	気候や風土の生活への影響を知る
道徳	1 主として自分自身に関すること (1) 2 主として他人とのかかわりに関すること (1) (2) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること (1) (2) 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (5) (6) (8) (9) (10)			
家庭・地域との連携	学校だより、保健だより、PTA運営委員会、PTA研修会などを通じて広く家庭・地域に食育の大切さを知らせる			
総合学習	世界の国々の食文化を知る	食に関するマナーを知る	世界の食糧事情や環境について考える	

28. 主権者教育

1. 目標

自分たちの社会で起こっている問題を自分たちの問題として捉え、考え、行動することができる力を子どもたちから引き出す



将来、子どもたちに必要な力は…

- ・主権者として社会の中で自立し、他者と協働しながら持続可能な共生社会を形成する力
- ・社会の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力

2. 本年度の重点目標

- ・学校の課題に気づき解決に向けて考え議論し行動する生徒会、委員会活動
- ・学年、クラスの課題に気づき解決に向けて考え議論し行動する学級委員会、学級会、班長会
- ・社会(地域を含む)の課題に気づき解決に向けて考え議論する、人権をベースとした道徳

3. 各学年の指導計画

《年間》	1 年	2 年	3 年
4月	学級開き 学級班づくり 委員会・学級の係り決め	学級開き 学級班づくり 委員会・学級の係り決め	学級開き 学級班づくり 委員会・学級の係り決め
5月	班長会議 委員会活動	班長会議 委員会活動	班長会議 委員会活動
6月	校外学習	宿泊学習	平和学習 修学旅行
7月	平和学習	平和学習	平和学習
8月	平和登校	平和登校	平和登校
9月	学級班づくり 班長会議 応援縦割り活動 体育大会	学級班づくり 班長会議 応援縦割り活動 体育大会	学級班づくり 班長会議 応援縦割り活動 体育大会
10月	生徒会選挙	生徒会選挙	生徒会選挙
11月	ミュージックフェスティバル	ミュージックフェスティバル	ミュージックフェスティバル
12月	国際交流	職業体験学習	進路学習(生き方を考える)
1月	学級班づくり 班長会議	学級班づくり 班長会議	学級班づくり 班長会議
3月	生徒会選挙	生徒会選挙	生徒会選挙

《教科》	1 年	2 年	3 年
道 徳	トマトとメロン あったほうがいい？ 違いを乗り越えて あふれる愛 震災を乗り越えて 役に立つことができるかな	挨拶は言葉のスキンシップ リスペクト アザース 体験ナースを通して 行動する建築家 坂 茂 避難所にて	本とペンで世界を変えよう 町内会デビュー 塩むすび あるレジ打ちの女性 世界を動かした美
社 会	日本の姿 世界と比べた日本の地域的 特性	私たちが住む日本 世界からみた日本の姿 日本の地方のようす 身近な地域を調べてみよう 近代の日本と世界 近代国家へのあゆみ	近現代の日本と世界 近代国家へのあゆみ 国際化する日本と世界 わたしたちの生活と現代社会 日本国憲法の基本原則 民主政治のしくみ 私たちの生活と政治・経済・福祉 私たちと国際社会の課題
家 庭		身近な消費生活と環境	私たちと家族・家庭と地域

29. キャリア教育

(1) 目標

「生きる力」の育成

～確かな学力，豊かな人間性，健康・体力～

- ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- ・進路計画の立案と暫定的選択
- ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成
- ・生き方や進路に関する現実的探索

	1 年	2 年	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめ、自己の特性などを考えさせる。 ・自己と他者の違いに気付き尊重しようとする。 ・集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 ・職業とは何か、働くことの意味を学習し、自分の将来の姿を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。 ・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえる。 ・職業について学び、「生き方」に触れる。 ・現実の社会に内在する職業に関する偏見などが間違いであることを学習し、自己の進路を見つげられる意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の個性を尊重し人間関係を円滑に進める。 ・高校体験入学・見学会を通して、なかまとともに、自分の進む道、進路を考え、決定していく力を養う。 ・学歴社会など身近なところから世の中の矛盾を見抜き、自分の進路となかまの進路をかかわらせ、生き方の問題としてとらえる。

(2) 年間計画

	1 年	2 年	3 年
4月	学級開き 班づくり・なかまづくり	学級開き 班づくり・なかまづくり	学級開き 班づくり・なかまづくり
5月			修学旅行に向けて
6月	カウンセリング 校外学習	カウンセリング 宿泊学習	進路説明会 カウンセリング 修学旅行
7月	個人懇談会	個人懇談会	個人懇談会
8月	登校日	登校日	登校日 高校体験入学
9月	体育大会への取り組み 体育大会	体育大会への取り組み 体育大会	体育大会への取り組み 体育大会
10月			進路説明会 カウンセリング
11月	カウンセリング MF	カウンセリング 職業についての学習 MF	進路懇談① MF
12月	個人懇談会	個人懇談会	個人懇談会（進路懇談）
1月	職業調べ	職業についての学習のまとめ	進路決定
2月	進路学活	進路学活	私立高校入試
3月	2年生に向けて	3年生に向けて	公立高校入試

高校説明会

※ 活用資料 「夢や志を育む教育」 他

(3) キャリアパスポートの活用

学年の進級・学期などの節目には、自己を見つめなおすためにキャリアパスポートを利用し、新たな目標をたてたうえで、将来の生き方や考え方に結び付けさせる。

30. いじめ防止

大阪府河内長野市立千代田中学校いじめ防止基本方針

平成26年 2月22日施行
令和 4年 4月 1日改正

第1章 いじめ防止に関する本校の考え方

1 基本理念

いじめは、その生徒の心を将来にわたって深く傷つけるものであり、生徒の成長に大きな影響を及ぼし、場合によっては命さえも奪ってしまう、まさに人権に関わる重大な問題である。まずは全教職員が、いじめはもちろん、いじめにつながる行為、そしてそれらをはやし立てたり傍観したりすることさえも、この学校から無くしていくのだという強い意志を持つことが必要である。また、生徒のどんな些細な変化も見逃さない感覚の鋭さを持ちながら、常に生徒の心に寄り添い、その声を聴き受け止めることが大切である。そのことが、いじめ事象の発生や深刻化を防ぎ、いじめに向かわない生徒集団を育成することになる。

そのためには、教育活動の全てにおいて人権を大切にすることを育てなければならない。教職員自身が、あたたかさにあふれた人権感覚を持ち、生徒一人ひとりを多様な個性を持つかけがえのない存在として尊重し、常に生徒のありのままを認めることで心をあたためるという視点を持った指導を徹底することが重要となる。

本校はいじめの未然防止のために、お互いのありのままを認め合い一人ひとりの「命をとことん大切にする」人権教育の視点を持って集団づくりと授業づくりに取り組んでいる。いじめは命さえも奪う重大な人権侵害であり絶対に許さないという認識のもとに、ここに千代田中学校いじめ防止基本方針を定める。

2 いじめの定義

「いじめ」とは、ある生徒に対して、当該生徒が在籍する学校に在籍している等、当該生徒と一定の人的関係にある他の生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

具体的ないじめの現われ方には、以下のようなものがある。

- 冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- 仲間はずれ、集団による無視をされる
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- 金品をたかられる
- 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等

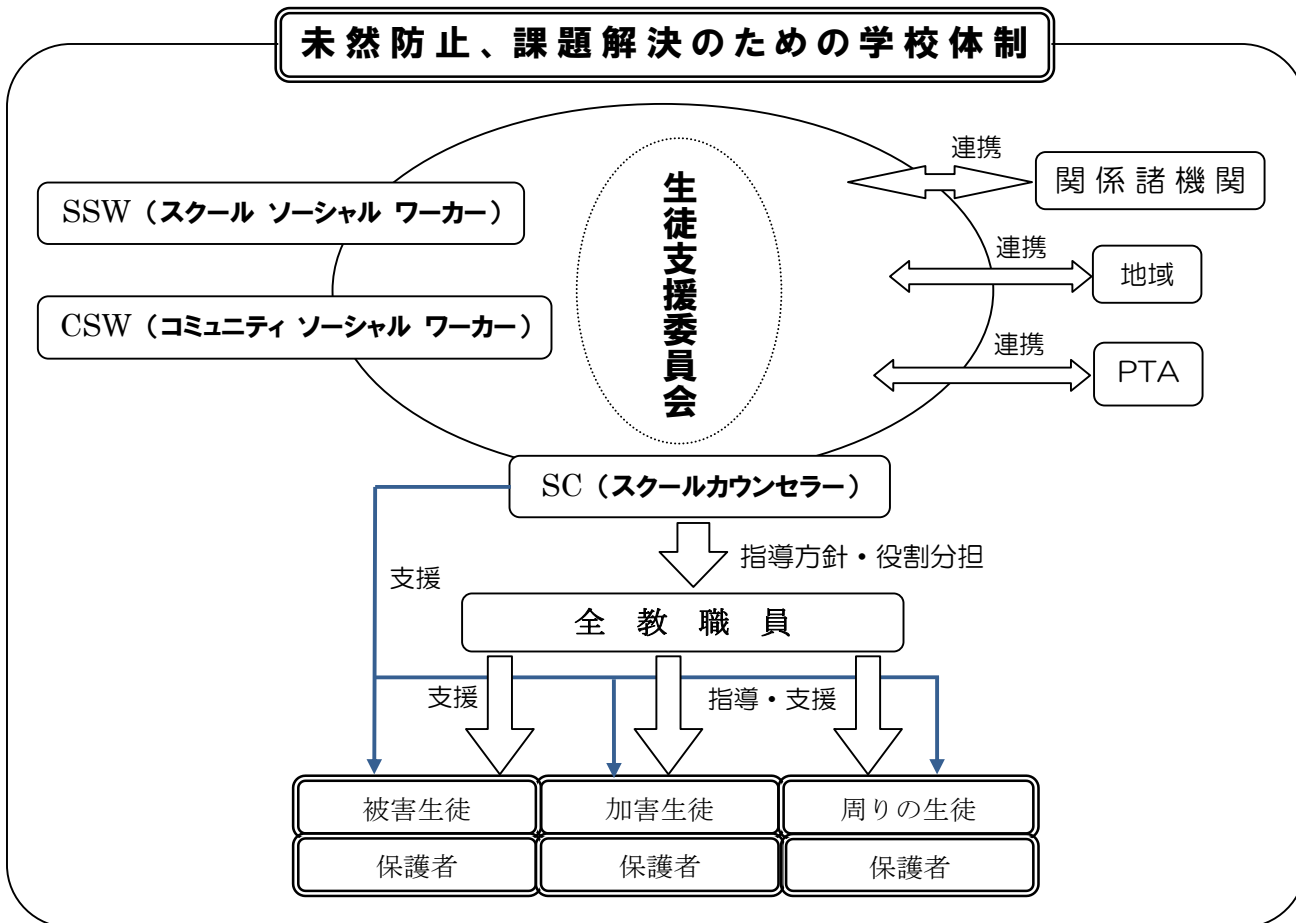
3 いじめ防止のための組織

(1) 名称 「生徒支援委員会」

(2) 構成員

校長、教頭、首席、生徒指導主事、児童生徒支援コーディネーター、養護教諭、各学年主任、教務主任、特別支援コーディネーター、通級指導教室担当教員、SC、各指導部長、生徒会主担

※構成員は次の図を基本とするが、必要に応じて追加することができるものとする。



(3) 役割

- ア 学校いじめ防止基本方針の策定
- イ いじめの未然防止
- ウ いじめの対応
- エ 教職員の資質向上のための校内研修
- オ 年間計画の企画と実施、進捗のチェック
- カ 各取組の有効性の検証
- キ 学校いじめ防止基本方針の見直し

4 取組状況の把握と検証

生徒支援委員会は、毎月1回開催し、取組みが計画どおりに進んでいるか確認、いじめ対応の確認、必要に応じた学校基本方針や計画の見直しや検証などを行う。

5 年間計画

本基本方針に沿って、以下のとおり実施する。

※年度当初に千代田ナビゲーションを配布し、千代田中学校いじめ防止基本方針を周知する。

	生徒	学校全体
4月	【1年生は入学式、2,3年生は家庭訪問で千代ナビを配布】 【生活班づくり】（居場所づくり、仲間づくり） 【生徒アンケートの実施】（不安や心配事など、こどもの声を聴く）	第1回生徒支援委員会 （年間計画の確認）（生徒の状況確認・情報共有） 【今年度の取り組みについて職員会議で確認】 【「千代田中学校いじめ防止基本方針」についてHP更新】
5月	【生徒アンケート・こころのアンケートの実施】 【カウンセリング週間】（生徒の思いに寄り添う）	第2回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
6月	1年：【校外学習】 2年：【宿泊学習】 3年：【修学旅行】 （お互いのことを知り、仲間づくりにつなげる）	第3回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
7月	【三者懇談】（学校生活の様子や家での様子を情報交換する）	第4回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
9月	【生活アンケートの実施】 【生活班づくり】 【体育大会】（縦割り集団による関係づくり）	第5回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
10月	【生活アンケート・こころのアンケートの実施】	第6回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
11月	【カウンセリング週間】 【千代田ミュージックコンクール】（つながりと支え合い） 【2年生 職場体験】（社会性の育成） 【3年生 三者懇談】（進路懇談）	【研究授業Ⅰ・研究授業Ⅱ】 （すべてのこどもたちがつながり合い学び合う授業） 第7回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
12月	【三者懇談】	第8回生徒支援委員会（職員会議で情報共有）
1月	【生活班づくり】	第9回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【今年度の取り組みの検証】
2月	【生活アンケート・こころのアンケートの実施】 【カウンセリング週間】	第10回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【今年度の取り組みの検証・来年度の取り組みについて】
3月	【クラスや学年で1年間の振り返り】	第11回生徒支援委員会（職員会議で情報共有） 【来年度の取り組みについて】

第2章 いじめ防止

1 基本的な考え方

いじめの未然防止にあたっては、学びの場である学校・学級自体が、「命をとことん大切にする」人権尊重のあたたかい思いにあふれた環境であることが求められる。その環境を基盤として、人権に関する知的理解及び人権感覚を育む学習活動を各教科、特別活動、総合的な学習の時間をはじめ、学校生活のすべての場面で、それぞれの特質に応じ、総合的に推進する必要がある。

特に、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることで、他者の痛みや感情を共感的に受容するための想像力や感受性を身につけることができるようにすること、そうすることでお互いのありのままを認め合える対等で豊かな人間関係を築くことができるようにすることに重点を置き、そのための学習活動の具体的な取り組みを考え実践していく必要がある。そして、その取組みを継続していくことで、信頼に基づいた人間関係づくりや人権を尊重した集団としての質を高めていくことが大切である。

2 未然防止のための学校体制

いじめの未然防止については、生徒支援委員会が担う。

生徒支援委員会は月に1回、会議を持つことで未然防止の取り組み（主として成長を促す指導）を推進する。

3 いじめの防止のための措置

(1) いじめについての共通理解を図るため、平素から全教職員、全校生徒が「命をとことん大切に
する」ための人権感覚を磨く必要がある。教職員の研修を充実させつつ、道徳など生徒の人権に
かかわる学習を適切に行い、学習した内容に基づいて必ず生徒にふり返らせ、生徒自身の問題と
してとらえ考えさせる丁寧な取り組みを実施する。

(2) いじめに向かわない態度・能力を育成するために、自他を認め合い、尊重し合える態度を養う
ことや、生徒が円滑に他者とコミュニケーションを図る能力を育てることが必要である。

そのために、集団づくりと「すべてのこどもたちがつながり合い学び合う授業」に取り組む。

いかにして生徒にお互いのありのままを認め合い尊重させるか、いかにして生徒同士をつなげるか
について集団づくりと支援教育の視点を持ちながら授業内容を創造する。

(3) いじめが生まれる背景には、生徒の自尊感情や自己有用感の低さがある。生徒の学校生活のう
ち、一日の大半を占める授業の時間において、全ての生徒の自尊感情や自己有用感を高めること
が絶対に必要である。

また授業だけでなく行事、特別活動においても、集団づくりの本来の意義に立ち返り、一部の
生徒だけではなく全ての生徒一人ひとりが集団に貢献できる場面を丁寧に設定し自己有用感を高
めることで自尊感情を高める取り組みを考え実施することが必要である。

(4) いじめを助長するような教職員の不適切な認識や言動等、指導のあり方に注意を払うため、生
徒指導のあり方について共通認識を持つ必要がある。

全教職員で取り組むべきは、「生徒の心に寄り添うことで心をあたためる生徒指導」である。

心のあたたまった状態の生徒はいじめには向かわない。生徒の心をあたためるために、まずは
教職員から生徒のもとに足を運び「こどもの声を聴く」ということを大切にする。

(5) 生徒が自らいじめについて学び、取り組むために、生徒会活動を充実させる必要がある。

生徒会は本来、生徒自身の力で学校生活を安心できる安全なものにする、つまりお互いの人権を
守り合うための自治組織である。いじめという人権の侵害は安心できる安全な生活を奪うもので
ある。いじめで生きにくさを感じている生徒がいるならば、その生活を安心できる安全なものに
回復させていくための組織として、また自分たちが生活する「社会」としての学校を、お互いの
ありのままを認め合うことでお互いの人権を守り合い、いじめに向かわなくてもよい学校にする
ための組織として生徒会を機能させなければならない。そのための十分な支援を、生徒会担当を
中心として教職員全員で取り組む必要がある。

第3章 早期発見

1 基本的な考え方

いじめの特性として、いじめにあっていない生徒は、いじめを受けていることを認めることは恥ずかしいことだと考えたり、いじめの拡大を恐れるあまり、誰にも訴えることができないことが多い。また、自分の思いをうまく伝えたり訴えたりすることが難しいなどの状況にある生徒がいじめにあっている場合は、隠匿性が高くなり、いじめが長期化、深刻化することがある。

それゆえ、教職員には、生徒の何気ない言動や行動の変化、服装をはじめとする様子の変化の中に傷つけられた心の訴えを感じ取る鋭い感性、隠れているいじめの構図に気づく深い洞察力、いじめに向かわない集団にしていこうとする熱い行動力が求められている。

全教職員が、日々、生徒一人ひとりの様子をしっかりと見る必要がある。一見、同等にふざけ合っているように見えても、いじめの構造の中で序列化され下位に置かれ苦しみがいている生徒がいる場合がある。行動、言動、服装など生徒が示すどんな小さな変化も見逃してはならない。自傷行為や他傷行為、体調面での顕著な変化、連続した遅刻や欠席などは危険信号と捉え、絶対に見逃してはならない。

また生徒の変化に気づいた場合、教職員が一人で抱え込むのではなく、日常から学年や分掌を超えて積極的に生徒の情報交換を行い、情報を共有し、組織として対応していく必要がある。

2 いじめの早期発見のための措置

- (1) 実態把握の方法として、4月、6月、9月、11月、2月にアンケートを実施する。
定期的な教育相談としては、各学期ごとにカウンセリング期間を実施する。
日常の観察として、全職員が生徒の登校から下校までの様子を丁寧に見ることはもちろん、個人ノート(KGノート)や班ノート、班長会議等も活用し積極的に情報収集をする。
- (2) 保護者と連携して生徒を見守るため、日常から丁寧な家庭連絡を実施し、生徒の家庭での様子を把握する。また、三者懇談においても、生徒の家庭での様子を把握することに努める。
- (3) 生徒、保護者、教職員が、抵抗なくいじめに関して相談できる体制として、生徒指導主事・児童生徒支援コーディネーター・養護教諭が中心に相談の窓口となる。また、スクールカウンセラーや生徒支援員とも連携し、教員とは違う立場で相談を受けられるようにする。
- (4) PTA総会、学校便り等により、相談体制を広く周知する。
生徒支援委員会により、相談体制が適切に機能しているかなど定期的に点検する。
- (5) 教育相談等で得た生徒の個人情報については、その対外的な取扱いについては、生徒の不利益が生じないように慎重を期す。

第4章 いじめに対する考え方

1 基本的な考え方

いじめにあった生徒のケアが最も重要であるのは当然であるが、いじめ行為に及んだ生徒の原因・背景を丁寧に把握、理解しながら指導に当たることも非常に重要である。近年の事象を見ると、いじめた生徒自身が深刻な課題を有している場合が多く、相手の痛みを感じたり、行為の悪質さを自覚することが困難な状況にある場合がある。よって、いじめた当事者が、なぜいじめるという行為に至ってしまったのかを自分自身としっかり向き合うことで認識し、心から悔い、相手に謝罪、その後二度といじめはしないということはもちろん、いじめを無くそうという前向きな気持ちに至るように、丁寧に支援することと継続的に指導することが必要である。いじめを受けた当事者は、仲間からの励ましや教職員や保護者等の支援が必要不可欠であるのは当然のことであるが、何よりいじめた当事者の自己変革する姿に、人間的信頼回復のきっかけをつかむことができると考える。

第4章の「いじめに対する考え方」で述べたように、いじめた生徒どうしが、豊かな人間関係の再構築をする営みを通じて、事象の教訓化を行い教育課題へと高めることが大切である。

具体的な生徒や保護者への対応については、(別添)「4つのレベルに応じた いじめ対応チャート」に従って、外部機関とも連携する。

2 いじめ発見・通報を受けたときの対応

(1) ささいな兆候であってもケース会議をおこない、いじめの疑いがある行為には、早い段階から的確に関わる。

遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、まずその場でその行為を止める必要がある。また生徒や保護者から「いじめられた」あるいは「いじめではないか」などの相談や訴えがあった場合には、真摯に対応する。その際、被害生徒や、いじめやいじめに向かう事象を知らせてきた生徒の安全を確保するよう配慮する。

(2) 教職員は一人で抱え込まず、速やかに生徒指導主事か児童生徒支援コーディネーターに報告し、当該学年主任と情報を共有する。

(3) その後、生徒指導主事か児童生徒支援コーディネーター、または当該学年主任が中心となって、関係生徒から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行う。

(4) 聴き取った事情を緊急に召集可能な生徒支援委員会メンバー(ただし、管理職1名は必ず含む)に報告、情報を共有し、生じた事象の事実を確認。「いじめ」か「いじめに向かう事象」かを判断する。必要な場合は臨時生徒支援委員会を行う。

(5) 判断の結果、いじめとして認知した場合、管理職が教育委員会に報告し、つなぐべき関係諸機関等について相談する。

(6) 被害・加害の保護者への連絡については、家庭訪問等により直接会って丁寧に行う。

- (7) いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものと認められるときは、いじめられている生徒を徹底して守り通すという観点から、所轄警察署と相談し、対応方針を検討する。
- (8) 生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、重大事態として直ちに所轄警察署に通報し適切に援助を求めると共に、事実関係を明確にするために生徒支援委員会が調査をおこなう。
- (9) いじめにより相当の期間学校を欠席せざるを得ない場合も重大事態として管理職が教育委員会に報告すると共に、生徒支援委員会が事実関係を明確にするための調査をおこなう。
- (10) 重大事態において、学校主体の調査では対応及び同種の事態の発生の防止に十分な結果を得られないと判断する場合や、学校の教育活動に支障が生じるおそれがあるような場合には、教育委員会にその対応の一部を委ねる。

3 いじめられた生徒又はその保護者への支援

生徒支援委員会が中心となって、いじめられた生徒が落ち着いて教育を受けられる環境を確保し、当該生徒に寄り添い支える体制をつくる。その際、当該生徒にとって信頼できる人（親しい友人や教職員、家族、地域の人等）と連携する。必要であればスクールカウンセラーとも連携する。

状況に応じて、いじめた生徒の別室指導や出席停止などにより、いじめられた生徒が落ち着いて教育を受けることができる環境を確保する場合もある。

4 いじめた生徒への指導とその保護者への助言

- (1) 速やかにいじめを止めさせた上で、いじめたとされる生徒からも事実関係を聴き取る。
いじめに関わったとされる生徒からの聴き取りにあたっては、個別に行うなどの配慮をする。
- (2) 事実関係を聴き取った後は、迅速にいじめた生徒の保護者と連携し、協力を求めるとともに、継続的な助言を行う。
- (3) いじめた生徒への指導に当たっては、当該生徒が抱えている問題など、いじめの背景に目を向け、当該生徒に自身の内面と丁寧に寄り添い向き合わせることで当該生徒の健全な人格の発達を支援し心情の変容を促す。

その上で、いじめは人格を傷つけ、生命、身体または財産を脅かす人権を侵害する行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。

さらに、その後二度といじめはしないということはもちろん、いじめを無くそうという前向きな気持ちに至るように、複数の教職員が連携し、必要に応じてSCの協力を得て組織的に丁寧な支援と継続的な指導を行う。

5 いじめが起きた集団への働きかけ

- (1) いじめに関わった生徒に対しては、正確に事実を確認するとともに、関わった生徒が抱える問題など、いじめの背景に目を向け、自身の内面に丁寧に寄り添い向き合わせる。その上で、いじめを受けた生徒の心情への共感性を育てる。

いじめを見ていたり、同調していたりした生徒に対しても、人ごとではなく自分の問題として捉えさせる。同調していたりはやし立てたりしていた「観衆」、見て見ぬふりをしてきた「傍観者」として行動していた生徒に対しては、そうした行為がいじめを受けている生徒にとっては、いじめによる苦痛だけでなく、孤独感・孤立感を強める存在になっているのだということを理解させるようにする。「観衆」や「傍観者」の生徒は、いつ自分が被害を受けるかもしれないという不安を持っていることが考えられる。それらの生徒が安心して生活できるようにするために、集団づくりの原点に立ち戻り、当該学級、学年のすべての生徒に自らの集団について自分自身の問題としてふりかえり考える機会を設定する。その上で、いじめを生み出さない、安心できる安全な居場所を自分たちでお互いに保障し合える集団づくりに取り組むことができるよう丁寧な支援と継続的な指導が必要である。

- (2) いじめが認知された際、被害・加害の生徒だけの問題とせず、全校生徒が自分たちの社会である学校の中で起きた社会問題として捉え、学級会、学級委員会、生徒会等で考えていく活動を組織し、取り組んでいけるよう全ての教職員でその活動の支援をする。

全ての生徒が、お互いの命をとことん大切にする集団づくりを進めるため、まずは担任が生徒一人ひとりのありのままを認め尊重する学級経営に取り組み生徒との信頼関係を育むとともに、すべての教職員が集団づくりを意識して担任を支援し、生徒どうしが互いの命をとことん大切にすることができるように、お互いのありのままを認め尊重することで信頼関係を構築し、学校生活を安心して過ごせるよう努める。

また認知されたいじめ事象について、生徒が抱えている地域や家庭等における背景を理解し、学校における人権教育の課題とつなげることにより教訓化するとともに、いじめに関わった生徒の指導を通して、その背景や課題を分析し、これまでの生徒への対応のあり方を見直す。その上で、人権尊重の観点に立ち、授業や学級活動、生徒会活動を活用し、生徒のエンパワメントを図る。その際、必要があればスクールカウンセラーとも連携する。

体育大会や千代田ミュージックコンクール、校外学習や修学旅行等の学校行事は、集団づくりの絶好の機会ととらえ、生徒どうしが、集団としてひとつのことを成し遂げるとき意見が異なる他者との関係をどのようにしてつくればよいのかを学ぶことができるよう適切に支援する。

6 ネット上（SNS等）のいじめへの対応

- (1) ネット上（SNS等）の不適切な書き込み等があった場合、まず学校として問題の箇所を確認し、その箇所を印刷等の方法で保存するとともに、こども支援委員会において対応を協議し、関係生徒からの聞き取り等の調査、生徒が被害にあった場合のケア等必要な措置を講ずる。
- (2) 書き込みへの対応については、削除要請等、被害にあった生徒の意向を尊重するとともに、当該生徒・保護者の精神的ケアに努める。また、書き込みの削除や書き込んだ者への対応については、必要に応じて、大阪法務局人権擁護部や所轄警察署等、外部機関と連携して対応する。
- (3) 情報モラル教育を進めるため、「情報の受け手」として必要な基本的技能の学習や「情報の発信者」として必要な知識・能力を人権教育の視点を持って学習する機会を設ける。
- (4) ネット上（SNS等）のいじめに関しても、被害・加害の生徒だけの問題とせず、全ての生徒が自分たちの社会である学校の中で起きた社会問題として捉え、学級会、学級委員会、生徒会等で考えていく活動を組織し、取り組んでいけるよう、全ての教職員がその活動の支援をする。

7 いじめの解消

- (1) 生徒支援委員会のスクリーニングにおいて、いじめが解消したと思われる被害生徒については、いじめ発生から3ヶ月経過後、当該生徒の担任を中心として当該生徒とその保護者に面談等をおこない、いじめが解消しているかどうかについて聴き取る。
- (2) 当該生徒、保護者ともにいじめの解消を認めた場合は、いじめは解消したものとする。
- (3) いじめ解消後も当該生徒が卒業するまで全教職員で見守りを継続する。

4つのレベルに応じた 問題行動への対応チャート 河内長野市立千代田中学校

ねらい

- ①問題行動による被害生徒の被害の拡大を未然に防ぎます。
- ②加害生徒の加害行為を早期に指摘し、本人の自覚を促し保護者の協力を要請します。
- ③教員が適切な指導を行えるようにします。
- ④問題行動の重篤度に応じた学校の対応について、あらかじめ生徒・保護者等に理解・協力を求めます。

- 警察と連携が必要な事案については、レベルに関わらず警察への相談や通報を行います。
- 被害生徒・保護者の意向（警察への相談・通報・被害届の提出等）をよく聞き、適切に対応します。
- 週に1回、生徒指導部の連絡会を開催し、情報交換・方向性の検討をします。

レベル1 担任・学年生徒指導担当が中心となり、注意や指導・改善を行います

- ◇無断欠席・遅刻 ◇反抗的な言動 ◇対教師暴言 ◇授業妨害 ◇服装・頭髪違反
 - ◇落書き ◇言葉によるからかい ◇無視 ◇仲間はずれ ◇悪口・陰口・暴言 など
- (例) 授業中にトイレに行くと言って教室を出たが、正当な理由もなく中々教室に戻って来なかった。
 (例) 休憩時間に遊び方を注意されたが、その教員に対して「うざい」「死ね」と言って遊び続けた。
- *原則、同様の行為を繰り返す場合は、レベル2の対応を行うこととします。

レベル2 生徒指導主事が中心となって、学校全体で共通理解をはかり、注意や指導・改善を行います

- ◇暴力・傷害行為 ◇誹謗中傷行為 ◇SNS等のトラブル ◇エスケープ
 - ◇深夜はいかい など
- (例) 生徒Aは朝家を出たが、登校途中に生徒Bと待ち合わせをし、2人は公園で遊んで登校した。
 (例) 「大阪府青少年健全育成条例」の時間に従わず、数人で公園やコンビニに集まっていた。
- *原則、同様の行為を繰り返す場合は、レベル3の対応を行うこととします。

レベル3 生徒指導主事と管理職が中心となり、注意や指導・改善を行います

- ◇対教師暴力 ◇脅迫・強要行為 ◇器物破損 ◇迷惑行為（近隣トラブルなど）
- (例) スマホを所持していたことを教員に注意され、イライラしたのでその教員にスマホを投げつけた。
 (例) 音楽を大音量で流していたので、近所の方に注意されたが、「うざい」「だまれ」と暴言を繰り返した。
- *原則、同様の行為を繰り返す場合は、レベル4の対応を行うこととします。

レベル4 関係諸機関と連携して指導・改善を行います

- ◇恐喝行為（金銭が絡む賭け事） ◇喫煙 ◇飲酒 ◇危険物の所持 ◇窃盗行為
 - ◇無免許運転 ◇性犯罪 ◇違法薬物の所持 ◇放火（火遊び） ◇家出 など
- *被害生徒の状況を考慮し、被害生徒の保護、加害生徒への教育的指導という見地から必要があると判断した場合は、関係諸機関等と連携し郊外での指導を行います。

	担任	学年	生徒指導主事	管理職	関係諸機関等
レベル1	○	○			
レベル2	○	○	○		
レベル3	○	○	○	○	(○)
レベル4	○	○	○	○	○

☆どのレベルにおいても、その子が抱えている状況に応じて、段階的指導(スモールステップ)で対応します。

4つのレベルに応じた いじめ対応チャート 河内長野市立千代田中学校

ねらい

- ① 生徒の命を守ることを最優先に考えます。
- ② 学校として、いじめが起きにくい、あるいはいじめを許さない環境づくりをおこないます。
- ③ いじめに発展しそうな芽を早期発見・対応し、安心して通うことができる学校づくりをおこないます。
- ④ 定期的に生活アンケートやカウンセリング週間を実施し、相談できる環境づくりをおこないます。
- ⑤ 生徒支援委員会中心に適切な対応ができるように教員全体でいじめの定義を理解し連携します。

レベル1 言葉によるからかいや無視をするなど

・担任や学年教員を中心に対応します

◇言葉によるからかい ◇無視 ◇仲間はずれ ◇悪口・陰口・暴言 ◇攻撃的な言動

(例) 生徒 A が生徒 B に「太っている」や「チビやな」など、生徒 B の身体的特徴を言い続けた。

(例) 生徒 A が席替えて生徒 B の近くなったとき、「最悪・きもい・いやだ」と言った。

(例) 生徒 A が友達に、「生徒 B を無視してな」とお願いした。 など

*原則、同様の行為が続く場合は、レベル2の対応を行うこととします。

レベル2 物を隠す・蹴る・たたく・足をかけるなど、精神的苦痛を伴う実害があるなど

・当該生徒に関わる教員や生徒支援委員会を中心に対応します

◇暴力・傷害行為(蹴る・たたく・足をかけるなど) ◇誹謗中傷行為(SNSトラブル含む) など

(例) 生徒 A は冗談のつもりで生徒 B を一方的にたたき続けていた。しかし、実は生徒 B はイヤだった。

(例) 生徒 A が生徒 B に気づかれないように日常の様子を動画で撮影し、勝手に SNS にアップしていた。それを見た他の生徒が生徒 B に「死ね」や「うざい」「きもい」など、誹謗中傷するコメントを書き込んだ。

*原則、同様の行為が続く場合は、レベル3の対応を行うこととします。 など

レベル3 万引きの強要・集団での暴力行為・服を脱がせるなど、重度の実害があるなど

・生徒支援委員会や管理職を中心に対応します。また、関係諸機関と連携することもあります。

◇集団での暴力・傷害行為 ◇脅迫・強要行為(屈辱的な行為をさせるなど)

(例) 生徒 A は生徒 B に、「土下座しないと秘密をバラス」と脅した。 など

*原則、同様の行為が続く場合は、レベル4の対応を行うこととします。

レベル4 犯罪に関わるような場合

・関係諸機関と連携して対応します

◇刃物や金属バットなど道具を用いての暴力・傷害行為 ◇恐喝行為

◇被害側が自傷行為や PTSD と診断されるなどの状況に至ったとき など

(例) 「殴られたくなければ、明日までに現金を持ってこい」と脅した。 など

	担任	学年	生徒支援委員会	関係諸機関等
レベル1	○	○	○	
レベル2	○	○	○	
レベル3	○	○	○	○
レベル4	○	○	○	○

※どのレベルにおいても、被害生徒の状況に応じて対応します。

4つのレベルに応じた 欠席対応チャート 河内長野市立千代田中学校

ねらい

- ① 欠席生徒に早期対応し、丁寧に関わることで長期化することを未然に防ぎます。
- ② 生徒が早期に学校復帰できるように、関係機関との連携体制づくりをおこないます。
- ③ 欠席状況の重篤度に応じた学校の対応について、あらかじめ生徒・保護者等に理解・協力を求めます。
- ④ 生徒の命を守ることを最優先に考えます。

レベル1 直近30日以内の欠席が5日に達した場合、または連続欠席が3日に達した場合

・当該生徒に関わる教員や生徒支援委員会が中心に対応します

- ◇生徒の表情 ◇生徒の生活リズム ◇生徒の友人関係 ◇登校への意欲
 ◇心身の状態 ◇家庭での様子 ◇校内適応指導教室（なごみ）登校の提示 など

*原則、同様の欠席が続く場合は、レベル2の対応を行うこととします。

レベル2 長期欠席（学期内で10日に達した場合、年間30日に達した場合）かつ、家庭との連絡が取れる状態

- ・生徒支援委員会や管理職が中心に対応します
- ・継続的な電話連絡、家庭訪問をし、学校とのつながりを切らない。
- ・校内の対策会議をスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加し実施する。
- ・学校復帰を最終的なゴールとし、本人、保護者の意向を取り入れた登校の仕方（行事への参加の仕方も含め）を、スモールステップで提示する。

*この時点で、学校としては不登校生徒として支援していきます。

*原則、同様の欠席が続く場合は、レベル3の対応を行うこととします。

レベル3 長期欠席（学期内で10日以上、年間30日以上）かつ、家庭との連絡が困難な状態

- ・関係諸機関と連携して対応します
- ・長期的に連絡が取れない場合、学校には公的機関への通告義務があることを管理職が保護者に説明する機会を設ける。また、校内の対策会議を定例化し、目的意識を持った組織的対応をする。また、必要な場合は関係機関を含めた対策会議を実施する。

*原則、同様の欠席が続く場合は、レベル4の対応を行うこととします。

レベル4 年間の出席日数が10日以下かつ、家庭との連絡が困難な状態

- ・長期的に家庭との連絡が取れない場合は、関係諸機関に相談、あるいは通告する。
- ・学校だけでケースを抱えることなく、関係機関を含めたチームで対応する。

	担任	学年	生徒支援委員会	管理職	関係諸機関等
レベル1	○	○	○		
レベル2	○	○	○	(○)	
レベル3	○	○	○	○	(○)
レベル4	○	○	○	○	○

千代田中学校区
 小中一貫教育グランドデザイン

CHIY ☺ KKUSU

『誇りを胸に生きるこどもに』
 ～自分に誇りを 学校に誇りを 地域に誇りを～
 主体性と協調性をもった児童生徒の育成

- 河内長野市立楠小学校
- 河内長野市立千代田小学校
- 河内長野市立千代田中学校

自己肯定感・自己有用感の高まり

考える子・学び合う子・頑張る子

- 15の春を見据えた学力向上の取り組み
 - ・新1年(幼保)体験入学
 - ・小学生の中学校体験入学
 - ・中学校教員による小学校授業参観
 - ・中学校の定期テスト期間に家庭学習週間の実施
 - ・両小学校で家庭学習の手引を共有
 - ・中学校入学前教育相談(学習)
 - ・漢検、算検、英検の実施
 - ・小中学力向上推進担当者会議(年間6回)
- 授業改善の取り組み
 - ・乗り入れ授業の実施(英語)
 - ・相互授業参観と討議会への参加
 - ・小中合同夏季研修会
 - ・学力向上・外国語・人権・道徳授業公開
 - ・言語活動にお充実 思考力・判断力・表現力の

つながる子・支え合う子

- 9年間を見通した、つながりをもった生活指導
 - ・小中担当者連絡会[支援教育を含む](年間6回)
 - ・小中生活指導連絡会(年間1回)
 - ・学習規律の統一(チャイム着席・名札着用・授業規律)
 - ・3校で統一した学校ルール・生指文書の作成
 - ・中学校入学前教育相談(生活)
 - ・校区人権研修会(年間2回)
 - ・生徒指導出前授業(生指・コーディネーター)
 - ・互いを認め、支えあえる「集団づくり」
 - ・小中相互の授業以外の時間の参観
 - ・小中連携した卒業式対応
 - ・小中合同SNS講演会
 - ・中学校教員による6年生への講話

たくましい子・思いやりのある子

- 積極的に他者や地域に貢献する取組み
 - ・中学校部活動部員との交流
 - ・中学校美術部、吹奏楽部の小学校での作品展示・演奏会
 - ・生徒会役員の小学校訪問
 - ・地域ディキャンプへの参加
 - ・校区合同あいさつ活動(あいあい活動年間3回)
 - ・千代田中学校区バラエティフェスタへの参加
 - ・校区美化キャンペーンへ
 - ・無言清掃(小学校)
 - ・清掃活動の充実(中学校)
 - ・三校合同PTA研修会
 - ・民生委員、福祉委員、保護司との連携

人権・道徳教育の推進と充実

<子どもの実態>

<市の基本方針>

・純朴で素直な子どもたち ・学校が好き、友だちが好き ・勉強がわかりたい ・基本的な生活習慣の乱れ ・通信技術の進歩に伴う児童・生徒同士の人間関係に乱れが生じている。
 ・人のために行動している、人の役に立っているという自己有用感を持っている児童が少ない。

・ともに学びともに育つ教育の充実 ・学びの成果を活かしていく生涯学習の推進
 ・「ふるさと河内長野」に誇りと愛着の醸成 ・スポーツ環境向上 ・家庭・地域の教育力を高める

・元気に楽しく安心して通える学校にしてほしい ・楽しくわかりやすい授業をしてほしい
 ・いじめや暴力のない学校にしてほしい ・きちんとした生徒指導をしてほしい
 ・希望の進路に導いてやってほしい
 ・地域の一人としてのマナーを守り、地域を支える主体を育ててほしい

・教育力の充実 ・障がいのある子どもたちの自立支援 ・豊かでたくましい人間性のはぐくみ
 ・健やかな体のはぐくみ ・教員の資質向上 ・学校の組織力向上と開かれた学校づくり

<保護者・地域の願い>

<府の取り組みの重点>

地域とのつながり

- ・千代田中学校区内教育機関との連携
- ・青少年健全育成会活動への参加協力
- ・学校運営協議会の充実と発展
- ・中学校も参加した校区合同学校運営協議会の実施

保護者とのつながり

- ・PTA 活動の充実
- ・学校行事への参加協力
- ・家庭訪問、電話連絡、学級通信、ホームページ、学校だより等で保護者とのつながりを強める

31.小中一貫教育

(1) 年間計画

月	小中連携活動内容
4	小中連絡会 小中一貫担当者会議
5	小中連絡会
6	あいさつ活動 小中連絡会
7	小中連絡会
8	校区合同研修(生徒指導・学力向上・道徳人権)
9	小中連絡会
10	バラエティーフェスタ あいさつ活動
11	美化キャンペーン(地域清掃活動) 仕事に関する学習 ※事業所での体験学習は中止 小中連絡会
12	中学校半日体験入学(6年生)
1	中学校区道徳研究授業 小中合同校区人権研修
2	あいさつ活動 新1年生小学校体験入学 小中連絡会
3	小中生指連絡会

☆小中異学年交流の実施, 地域行事(バラエティーフェスタ)参加

☆コミュニティスクール活動

(チョックス駅前あいさつ活動、千代田美化キャンペーン参加, 地域花いっぱい活動)

(2) 令和元年度の担当者

◇コーディネーター: 千代田中(中村高) 楠小(福本) 千代田小(峰尾)

◇小中相互乗り入れ授業

○千代田中→楠小・・・水曜日1～4校時(浦川)【6年英語】

○千代田中→千代田小・・・木曜日1～4校時(安井)【6年英語】

(3) 校内研究授業・研修会

	千代田小	楠小	千代田中(校内研修会を含む)
研究テーマ	豊かな人間性を育む取り組み推進事業		
	伝え合う活動をとって、「わかった」を実感できる子どもを育てる	自ら考え、伝え合う子の育成～思考を深める能動的な学びを授業にどう創るか～	すべての子どもたちがつながり合い、学び合う授業づくり
1学期	3年生「算数」研究授業(6月)	全学年「国語科」研究授業(未定) 【第1ステージ】	
2学期	5年生「算数」研究授業(9月) 2年生「算数」研究授業(11月)	全学年「国語科」研究授業(未定) 【第2ステージ】 府内授業公開+成果報告会	校内研究授業 国語・算数・理科・社会・英語 保健体育
3学期	6年生外国語授業(未定) 人権学習研究授業(未定) JS授業公開(未定)	道徳学習研究授業(未定)	人権学習研究授業(1月中)

(4) おもな活動計画

○英語活動

小学校1・2年生からの英語活動におけるカリキュラム検討・作成を行う。小中英語活動担当者会議を適宜行い、授業計画や教材作りなど3校の外国語活動9年間の小中一貫した取り組みを実施する。

○生活指導

児童生徒の情報交換や3校の共通理解に立ち、あいさつ活動を中心とした小中一貫した取り組みを実施していく。

◎学校における集団生活を行う上での起立、約束・約束を3校の共通理解に基づき実施し、情報交換やあいさつ活動・美化活動など、共通した取り組みを通じ、小中一貫した活動を行う。

32. 救急体制

○学校事故災害時における救急体制

- (ア) 病気の場合—保健室
(養護教諭)
- 1. 処置して教室に帰す (検温等)
 - 2. 保健室で休養させる
 - 3. 家に帰す—保護者に連絡 (担任)
 - ・迎えに来てもらう
 - ・徒歩 (帰宅後学校に電話)
 - 4. 医師に見せる…後記 ウ) に準ずる

※ 養護教諭不在時は、担任、授業中であれば職員室にいる教諭や学校長、教頭に連絡することとし、その連絡を受けた教諭が協力して生徒に対応する。
保健室で休ませる場合は、必ず付き添い者がつくこととする。

- (イ) けがの場合—保健室
- 1. 処置して教室に帰す
 - 2. 保健室で休養させる
 - 3. 医師に診せる…後記 ウ) に準ずる
- 必要に応じて

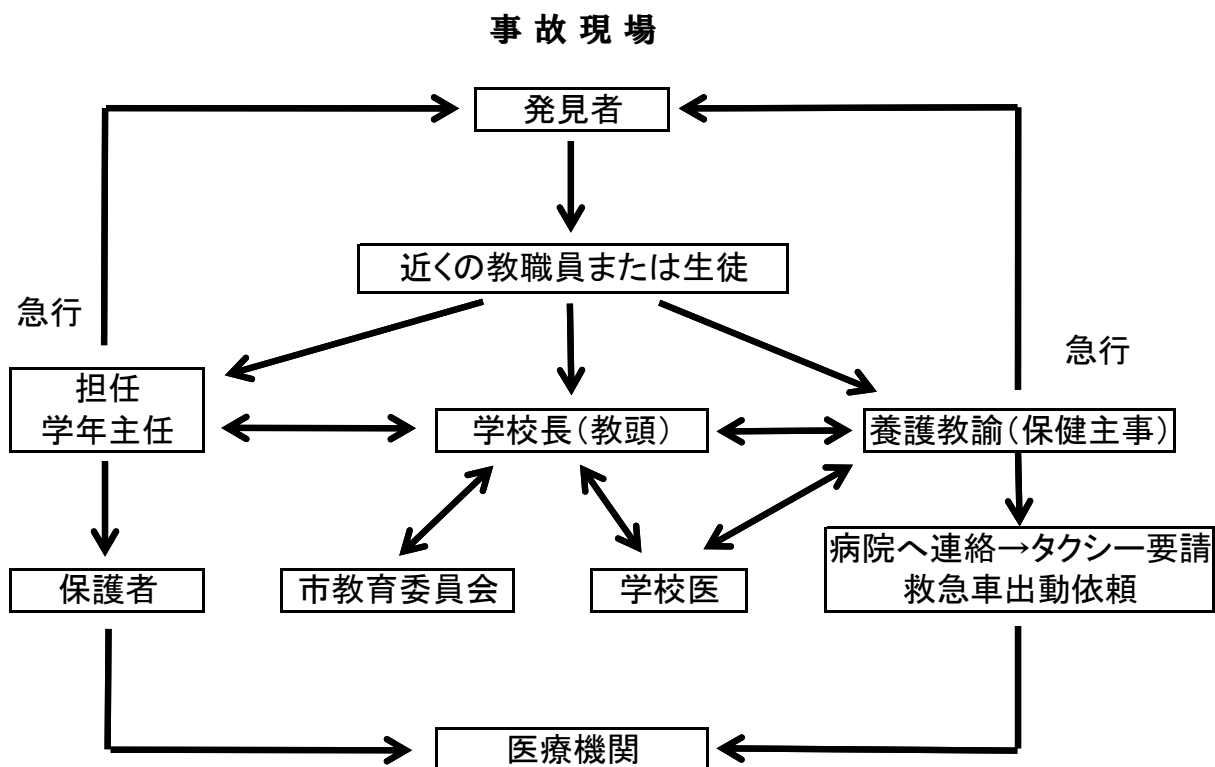
※ 養護教諭不在時は、連絡を受けた教諭が消毒等の応急処置を行う。
保健室で休ませる場合は、必ず付き添い者がつくこととする。

(ウ) 緊急救急処置

[前記 (ア) 4, (イ) 3の対応]

災害発生に際し、全職員協力のもとで迅速に受傷者に対し適切な措置がとれるように配慮する。必要があればAEDを使用して心肺蘇生を行う。

※ 校内には、AEDを2台設置している。(設置場所は原則1階保健室及び職員玄関)



対応時の注意事項

1. 処置と把握

①救急処置

養護教諭を中心に救急処置を行う。（但し緊急の場合、応援が来るまでは発見者）負傷者の全般を観察し、まず何をすればよいか、どのようにしてはならないかを判断し、医師の手当が必要かどうかを見極め、手際よく処置を行う。

②事故災害発生状況の把握

状況を把握している教諭と養護教諭は、各方面への連絡に必要な情報を把握する。
その指示のもとに、職員は適切な処置をとる。

- ・状況聴取の把握 ・生徒氏名 学年組
- ・いつ どこで どこが 何をしていた どのようになって どうなったか

①と②は相互に連絡を取り合う。

2. 連絡体制

①校内

発見者は、まず担任と養護教諭に連絡し、協力体制を取る。

担任または養護教諭は、災害発生状況、判断の結果を学校長へ報告する。

②家庭

家庭の連絡先は、職員室の保健調査票で調べる。

担任（原則として）は、災害発生を知らせ、医療機関の選定について相談し、その医療機関に保険証を持参し行ってもらうよう依頼する。

保護者と連絡がとれない場合は、学校で判断して受診し、後で連絡する。

保護者が医療機関に来なかった場合は、受診前に連絡した者が、結果を保護者に伝える。

③医療機関

家庭の指示のあった医療機関に、また家庭連絡が取れなかった時は、通院の便宜などを考慮して、受け入れ体制を確認する。

連絡は、養護教諭または応急処置をした教諭が行うのが適当であるが、負傷者から手が離せない時は上記の報告内容を心得た者が連絡する。

3. 移送

学校長または教頭は、状況を把握している教諭及び養護教諭からの報告に基づき、移送の手配をする。
移送はタクシーを利用する。利用の際は、タクシーチケットを往復分教頭からもらう。緊急を要する場合は、救急車を利用する。

4. 付き添い

養護教諭が付き添うのが望ましいが、その場の状況に応じて付き添い者を決める。

その際、付き添い者は、保健調査票、救急処置用具、筆記用具、タクシー券等を持っていく。診察後、医師からの診断名、指示事項等を関係職員に伝える。

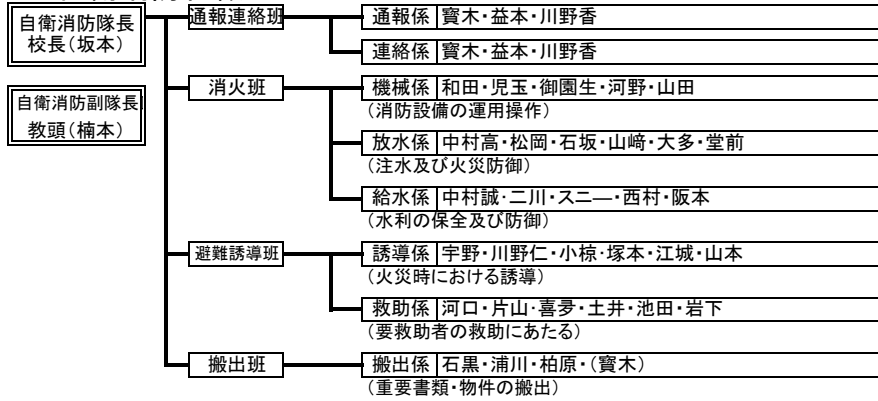
5. 事後処理

担任は、保護者にスポーツ振興センターについての説明を行い、書類を渡す。養護教諭は、手続きを行う。

担任または学年の教諭は、事故の原因をできるだけ詳しく知る。（本人や周囲の居合わせた者から事故の発生状況を聴取する。）その結果、必要であれば、生徒指導、環境整備等を行う。

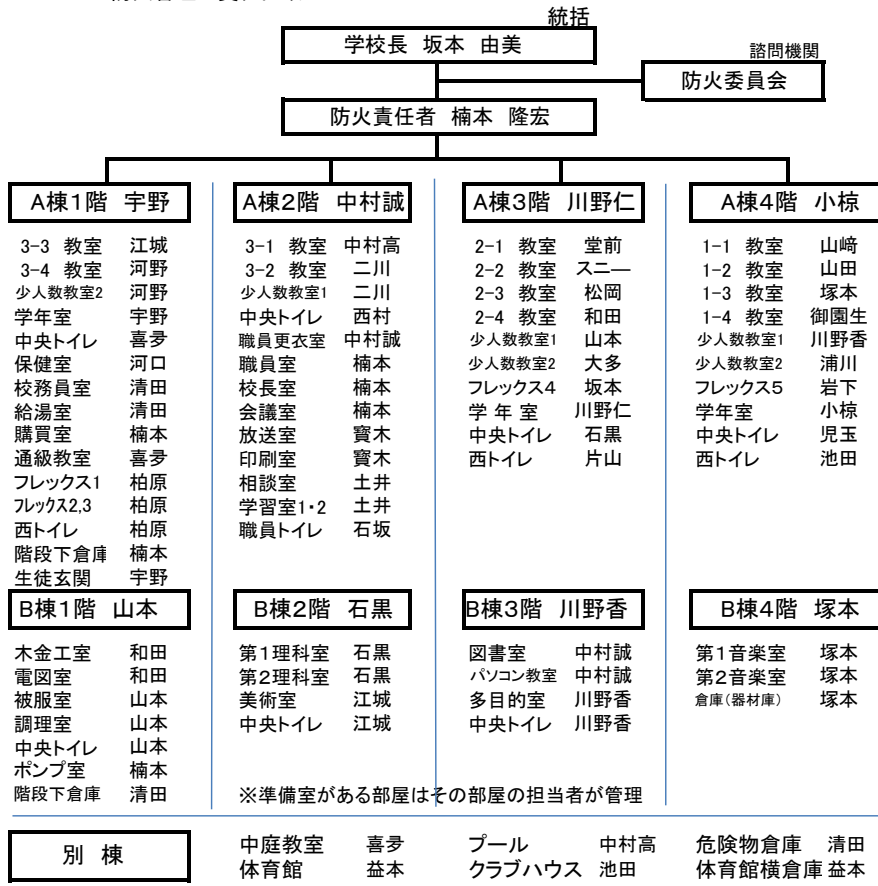
※ 校長、教頭、養護教諭が不在の時に起こった災害（長期休業中の部活動中など）の場合は、その対応や連絡などについて、「事故によるけがや疾病への対応カルテ」に記入する。

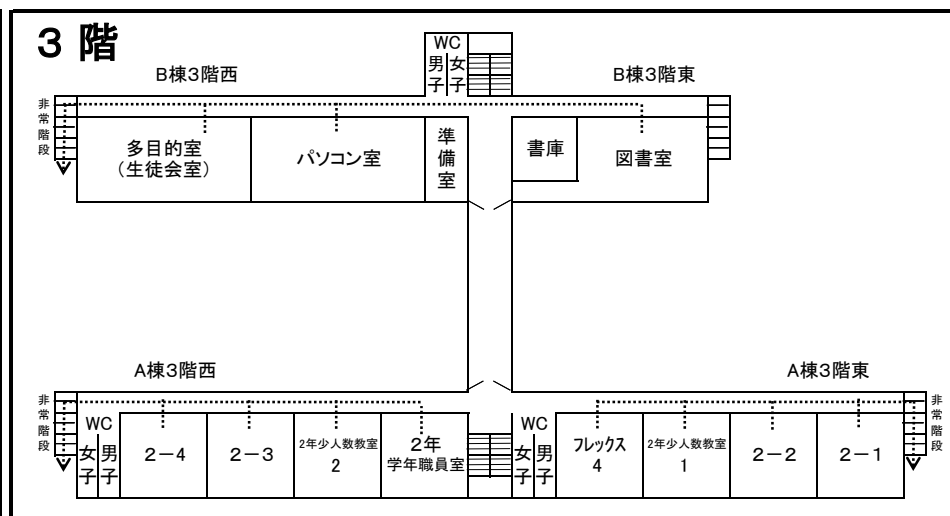
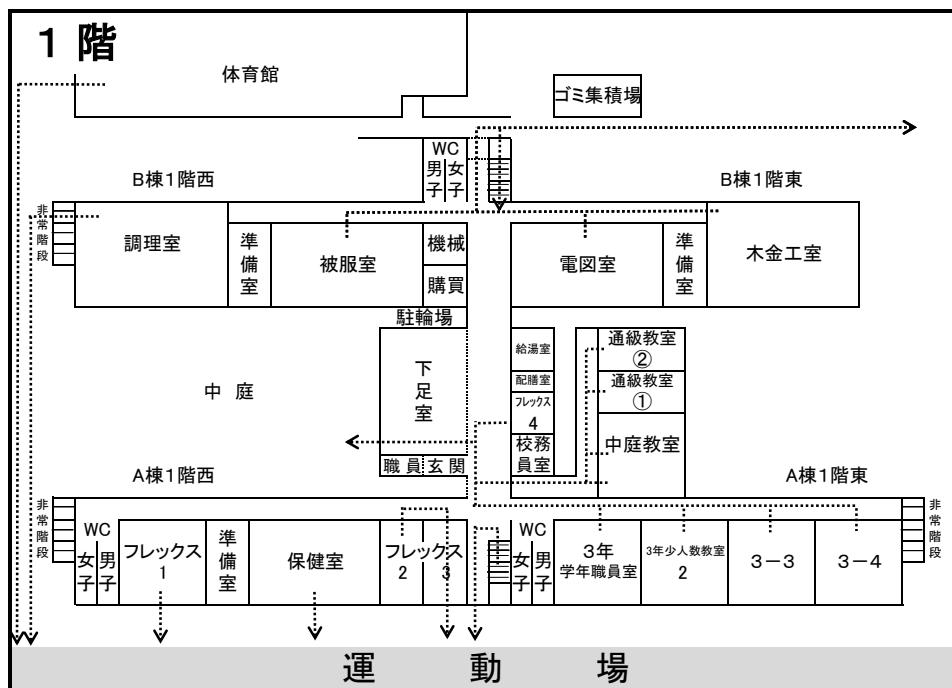
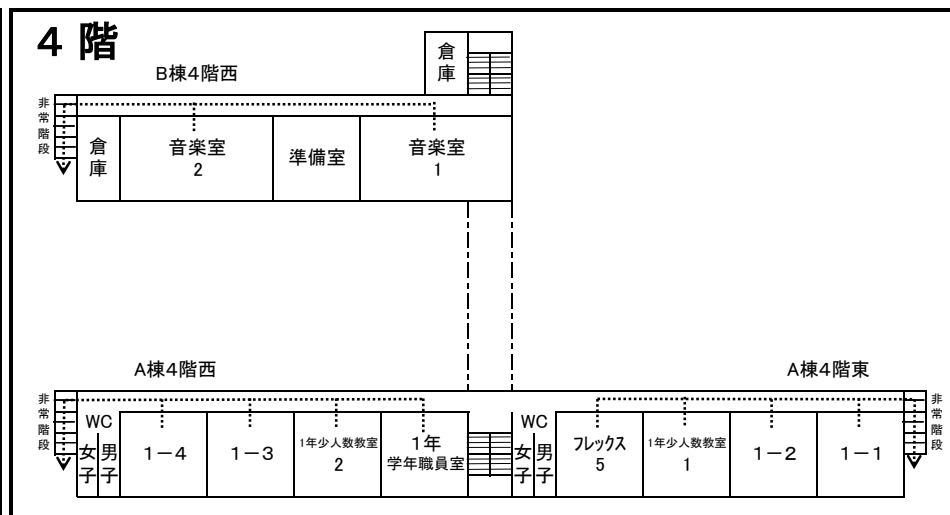
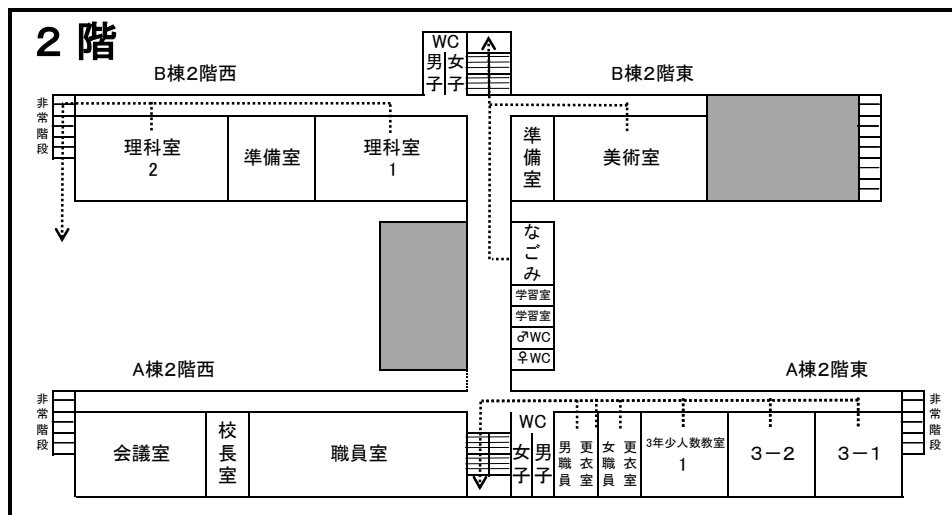
自衛消防組織



令和4年度

防火管理の責任区域





令和4年度

千代田中学校避難経路

33. 情報管理

情報管理についての確認事項

1. 職員室に設置されているパソコン及び教職員用ノートパソコンのハードディスクには、個人情報等公開すべきでない情報を保存しないこと。
 2. 個人情報の入った記憶媒体は、事務室前の保管用ロッカーに保管し、個人では管理しないこと。
 3. 保管用のロッカーの鍵は、事務室で管理する。
 4. 個人情報については、むやみに他の記憶媒体へのコピーを行わないこと。
 5. 個人情報の持ち出しは原則として禁止する。ただし、管理責任者（校長）及び取り扱い責任者（教頭）の許可を得た場合はこの限りではないが、通勤退勤時は目的地に直行することを約束し、厳正な取り扱いをすること。
 6. 教職員用ノートパソコンについては、校内で使用し持ち帰ることの無いようにすること。
 7. 職員室に設置されているパソコン及び教職員用ノートパソコンの諸設定の変更については管理責任者及び取り扱い責任者の許可を受けること。
- ※ 個人情報の適切な取扱い、管理・保管について、校内等での研修を通じ、個人情報保護の重要性に対する教職員一人ひとりの意識を向上させる。

個人情報漏洩の防止について

H22. 12. 9 職員会議
H26. 5. 1 追記
H30. 5. 1 追記

市内小学校において、USBメモリ（私物）を校内で紛失し、現在検索・対応中との学校全体に関わる事案が発生しました。メモリ内には、個人情報を含む様々な情報が保存されていたとのことです。

つきましては、本校におきましても今一度、個人情報の重要性について再認識するとともに管理方法等の再確認をお願いします。

【個人情報の管理について】・・・紙媒体含む全般

※「個人情報の管理運営に関する内規」にもとづき、運用。

<ポイント>

1. 原則、個人情報を扱う業務は、**校内で処理**をする。
2. 万一、持ち出す必要のある場合は、**教頭（校長）の許可**を得る。
3. 許可を得た個人情報を持ち出す時の通勤時は、**直帰・直行**する。
4. 前年度までの不要となった個人情報は、**確実に削除**する。

【USBメモリの管理について】・・・電子媒体

1. WinBirdの校務用USBのみ使用できる。
2. サーバー保存を原則とするが、必要時にはあくまで**一時保存的な位置づけ**とし、使用する。
3. 混在した情報は入れず、**入力情報を限定**する。
4. やむを得ず持ち出す必要のある場合は、**許可**を得る。（上記の通り）



令和4年度職員一覧表

氏名	役職所属	教科	部活顧問	氏名	役職所属	教科	部活顧問
坂本 由美	校長	-	-	宇野 聡	3 学 年	主任 3-4 副担	英語 サッカー
楠本 隆宏	教頭	-	-	*中村 高士		3-1 担任	保体 女子バスケット
小椋かおり	首席 学年主任	国語	陸上	二川 大舗		3-2 担任	数学 ソフトテニス
中村 高士	教務主任	保体	女子バスケット	江城 佑香		3-3 担任	美術 文化2 (美・将)
土井 薫	生徒支援co	保体	男子バスケット	河野 圭吾		3-4 担任	社会 野球
益本 裕子	生徒指導主事	保体	剣道	西村 幸子		3-1 副担	英語 吹奏楽
中村 誠司	進路指導主事	国語	文化2 (美・将)	*中村 誠司		3-2 副担	国語 文化2 (美・将)
山崎さゆり	保健主事	体育	女子卓球	石坂 敦		3-3 副担	理科 女子バスケット
*小椋かおり	主任 1-2 副担	国語	陸上	柏原 俊彦		フレックス 担任	国語 文化2 (美・将)
*山崎さゆり	1-1 担任	保体	女子卓球	喜寿 由起	通級 担任	数学 文化1 (地・家)	
山田 拓	1-2 担任	理科	剣道	河口 好	養護助教諭	-	-
塚本 律子	1-3 担任	音楽	ソフトテニス	寶木 伸一	主査	-	-
御園生 啓	1-4 担任	社会	陸上	池側 和子	非常勤	国語	-
児玉 良行	1-1 副担	数学	野球	廣井 幸彦	非常勤	理科	-
浦川 節子	1-3 副担	英語	吹奏楽	安井裕美乃	非常勤	英語	-
川野 香織	1-4 副担	英語	男子硬式テニス	石田 雅子	マイタウン	英語	-
池田 裕磨	フレックス 担任	保体	男子バスケット	ネルソン・フィリップ・アンドリュー	英語指導支援員	英語	-
岩下 真樹	フレックス 担任	保体	男子卓球	清田ちさと	学校管理員	-	-
川野 仁	主任 2-2 副担	社会	サッカー	三浦 理子	カウンセラー	-	-
堂前 仁志	2-1 担任	数学	サッカー	荒川みゆき	生徒支援員	-	-
スニー瑞代	2-2 担任	英語	男子卓球	堂上 雅美	発達支援員	-	-
松岡由利枝	2-3 担任	英語	女子卓球	横田 奈央	発達支援員	-	-
和田 精久	2-4 担任	技術	男子硬式テニス	波戸岡京子	介助支援員	-	-
大多 仁美	2-1 副担	国語	陸上	額田美那子	言語力向上司書職員	-	-
石黒 仁	2-3 副担	理科	剣道	西 典子	学校管理員	-	-
山本貴美香	2-4 副担	家庭科	男子硬式テニス	大濱 友代	学校管理員	-	-
片山 幸子	フレックス 担任	英語	文化1 (地・家)				
阪本 崇文	フレックス 担任	社会	ソフトテニス				

千代田中学校

2021年4月 4月行事予定		5月 5月行事予定		6月 6月行事予定		7月 7月行事予定		8月 8月行事予定		9月 9月行事予定	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	金	1	日	1	水	1	金	1	月	1	木
			校庭解放		校長会		期末テスト3日目 3限目 全校集会 ※ 雨天時は集会ナシ		職員研修日		始業式・2限集会・3限学活 会議日
2	土	2	月	2	木	2	土	2	火	2	金
			家庭訪問5日目 短縮4限・朝連絡		千代田タイム 教室内清掃+終学活 2年生出発式 2年生宿泊学習1日目		校庭解放				実力テスト 生徒協議会 会議日 一斉退庁日
3	日	3	火	3	金	3	日	3	水	3	土
			校庭解放		憲法記念日		一斉退庁日				
4	月	4	水	4	土	4	月	4	木	4	日
			みどりの日		2年生宿泊学習2日目		校長会				校庭解放
5	火	5	木	5	日	5	火	5	金	5	月
			こどもの日		校庭解放		千代田タイム 簡単清掃		平和登校日		
6	水	6	金	6	月	6	水	6	土	6	火
	入学式(13:30~)		家庭訪問6日目 短縮4限・朝連絡		カウンセリング期間(24日マデ)		生徒協議会				3年生チャレンジテスト
7	木	7	土	7	火	7	木	7	日	7	水
			一斉退庁日		2年生代休 短縮授業		職員研修日				校庭解放
8	金	8	日	8	水	8	金	8	月	8	木
	8:00クラス掲示(2,3年) 赴任式・始業式・学活 クラブキャプテン会議						昼連絡・昼休み5分短縮 1学期給食最終日		会議日 一斉退庁日		一斉退庁日
9	土	9	月	9	木	9	土	9	火	9	金
			2年生宿泊学習説明会 フリー参観・学級委員選出懇談会 水着見本展示・サイズ合わせ開始 13日(金)マデ		昼連絡・昼休み5分短縮		会議日 一斉退庁日				
10	日	10	火	10	金	10	日	10	水	10	土
			スポーツテスト(3年生) 検尿2次 生徒協議会		1年生校外学習 1年生給食ナシ						学校閉庁日
11	月	11	水	11	土	11	月	11	木	11	日
	生徒登校 9:00 離任式・学活 クラブ紹介		スポーツテスト(2・1年生) 教室内清掃+終学活		小学校土曜参観		夏季短縮期間 短縮4限・掃除ナシ		会議日 一斉退庁日		山の日
12	火	12	木	12	日	12	火	12	金	12	月
	身体測定 体操服登校 運動器・視力測定		スポーツテスト(予備日) 短縮授業		会議日 一斉退庁日		1学期期末懇談① 短縮4限・掃除ナシ				学校閉庁日
13	水	13	金	13	月	13	水	13	土	13	火
	クラブ仮入部②		内科検診 図書室閉館		小学校代休 全学年給食ナシ		1学期期末懇談② 短縮4限・掃除ナシ				小学校授業参観
14	木	14	土	14	火	14	木	14	日	14	水
	検尿1次				心臓2次検診		1学期期末懇談③ 短縮4限・掃除ナシ				
15	金	15	日	15	水	15	金	15	月	15	木
	検尿1次		クラブ仮入部③		3年生 6限目出発式 Jアラート(10:00頃予定) あいあい活動7:45~8:05		1学期期末懇談④ 短縮4限・掃除ナシ		結団式(グラウンド) ※ 雨天時は授業		学校閉庁日
16	土	16	月	16	木	16	土	16	火	16	金
			春の交通安全指導8:00~ 千代田タイム 教室内清掃+終学活		3年生修学旅行1日目						
17	日	17	火	17	金	17	日	17	水	17	土
			春の交通安全指導8:00~ 短縮授業・朝連絡		3年生修学旅行2日目						
18	月	18	水	18	土	18	月	18	木	18	日
	クラブ仮入部④		春の交通安全指導8:00~ 避難訓練(火災・地震) 放課後学習会 15:50~【PC教室】		3年生修学旅行3日目		海の日				
19	火	19	木	19	日	19	火	19	金	19	月
	全国学力学習状況調査<3年>		全校集会 短縮授業・昼連絡		職員ブール清掃		学期末作業日 短縮4限・掃除ナシ		結団式予備日 応援リーダー全体会議(体育館)放課後		敬老の日
20	水	20	金	20	月	20	水	20	土	20	火
	クラブミーティング 眼科検診		短縮授業 3年生修学旅行説明会 14:00~ PTA総会・学級委員会総会		3年生代休 3年生給食ナシ		終業式・大掃除・学活 ※結団式雨天時は部長宣言のみ(ビデオ)		不審者対応訓練 14:00~		
21	木	21	土	21	火	21	木	21	日	21	水
	家庭訪問1日目 短縮4限・朝連絡				校庭解放						校庭解放
22	金	22	日	22	水	22	金	22	月	22	木
	千代田タイム				進路説明会 14:00~ 2年次研修(堂前)市役所 15:00~ 千代田タイム						
23	土	23	月	23	木	23	土	23	火	23	金
			短縮授業・掃除ナシ 教育実習開始 検尿予備		会議日 一斉退庁日						秋分の日
24	日	24	火	24	金	24	日	24	水	24	土
	校庭解放		短縮授業・朝連絡・昼短縮 1年生夏用制服販売(水着販売) [中庭]7:45~8:20		職員研修日		短縮授業		会議日		校庭解放
25	月	25	水	25	土	25	月	25	木	25	日
	家庭訪問2日目 短縮4限・朝連絡		千代田タイム 教室内清掃+終学活 歯科検診		放課後学習会 15:50~【PC教室】						校庭開放
26	火	26	木	26	日	26	火	26	金	26	月
	家庭訪問3日目 短縮4限・朝連絡 耳鼻科検診		中間テスト1日目		校庭解放						
27	水	27	金	27	月	27	水	27	土	27	火
	生徒協議会 短縮3限・朝連絡		職員研修日		中間テスト2日目		生徒協議会 簡単清掃				
28	木	28	土	28	火	28	木	28	日	28	水
	家庭訪問4日目 短縮4限・朝連絡 心臓検診1次				短縮授業 簡単清掃・一斉下校		会議日 一斉退庁日		職員研修日		
29	金	29	日	29	水	29	金	29	月	29	木
	昭和の日				期末テスト1日目 支援・通級生保護者説明会15:00~ 1 多目的室				職員研修日		
30	土	30	月	30	木	30	土	30	火	30	金
					期末テスト2日目						
		31	火			31	日			31	水
			短縮授業・掃除ナシ		会議日 一斉退庁日						

千代田中学校

10月		11月		12月		1月		2月		3月							
日	曜	10月行事予定	日	曜	11月行事予定	日	曜	12月行事予定	日	曜	1月行事予定	日	曜	2月行事予定	日	曜	3月行事予定
1	土	体育大会 創立記念日	1	火	千代田ミュージックフェスティバル	1	木		1	日	元日	1	水	3年生期末テスト①	1	水	1・2年学年末テスト① 特別選抜合格発表
2	日		2	水	4限短縮授業 職員研修日	2	金		2	月		2	木	3年生期末テスト②	2	木	3年進路懇談④ 1・2年学年末テスト②
3	月		3	木	文化の日	3	土		3	火		3	金	3年生期末テスト③	3	金	1・2年生学年末テスト③ 公立高校一般選抜出願受付 開始日
4	火	体育大会予備日	4	金		4	日	校庭開放	4	水		4	土		4	土	
5	水	短縮4限・掃除ナシ 体育大会代休	5	土		5	月		5	木		5	日	校庭開放	5	日	校庭開放
6	木	3年生10月実力テスト 一斉退庁日	6	日	校庭開放	6	火		6	金		6	月		6	月	短縮授業(3年生は3限まで) 公立高校一般選抜出願日
7	金	英語検定実施日 5限短縮授業・掃除ナシ	7	月	3年生進路懇談① 4限まで短縮授業	7	水		7	土		7	火		7	火	公立高校一般選抜出願受付 最終日
8	土		8	火	3年生進路懇談② 4限まで短縮授業	8	木	小学生体験入学	8	日	校庭開放	8	水		8	水	
9	日	校庭開放	9	水	3年生進路懇談③ 4限まで短縮授業	9	金		9	月	成人の日	9	木	あいあい活動7:45~8:05	9	木	
10	月	スポーツの日	10	木	3年生進路懇談④ 4限まで短縮授業	10	土		10	火	始業式 会議日 一斉退庁日	10	金	大阪私学入試 一斉退庁日	10	金	公立高校一般入学者選抜
11	火	私立高校説明会(ラブラー)	11	金	3年生11月実力テスト	11	日		11	水	3年生実力テスト①(2教科) 1・2年生チャレンジテスト	11	土	建国記念の日 キッズアート展	11	土	
12	水		12	土		12	月		12	木	3年生実力テスト②(3教科)	12	日	キッズアート展	12	日	通信制面接(8・9・12)
13	木	中間テスト1日目	13	日		13	火	一斉退庁日	13	金		13	月		13	月	支援学校検査
14	金	中間テスト2日目 一斉退庁日	14	月		14	水		14	土	新郵政制服採寸	14	火		14	火	卒業式
15	土		15	火		15	木		15	日		15	水	Jアラート(11:00頃予定)	15	水	支援学校入学予定者発表
16	日	小学校運動会	16	水	Jアラート(11:00頃予定)	16	金		16	月		16	木		16	木	
17	月	小学校代休・給食ナシ	17	木	一斉退庁日	17	土		17	火		17	金		17	金	小学校卒業式
18	火		18	金		18	日		18	水		18	土		18	土	
19	水		19	土	土曜参観	19	月	期末懇談① 短縮授業・掃除なし	19	木		19	日		19	日	
20	木	公立高校説明会(ラブラー)	20	日		20	火	期末懇談② 短縮授業・掃除なし	20	金	一斉退庁日	20	月	公立高校特別選抜	20	月	公立高校一般入学者選抜発表
21	金		21	月	土曜参観の代休	21	水	期末懇談③ 短縮授業・掃除なし	21	土		21	火		21	火	春分の日
22	土		22	火	期末テスト1日目 新入生入学説明会 16:00~	22	木	期末懇談④ 短縮授業・掃除なし	22	日	校庭開放	22	水		22	水	
23	日	校庭開放	23	水	勤労感謝の日	23	金	終業式	23	月		23	木	天皇誕生日	23	木	公立高校二次選抜出願・面接
24	月		24	木	期末テスト2日目 一斉退庁日	24	土	一斉退庁日	24	火		24	金	3年進路懇談①	24	金	修了式 大掃除 油引き 一斉退庁日
25	火		25	金	期末テスト3日目	25	日	校庭開放	25	水		25	土		25	土	
26	水		26	土	全人教奈良大会 全体会 校庭開放	26	月		26	木		26	日	新入生物品販売 校庭開放	26	日	校庭開放
27	木	あいあい活動7:45~8:05	27	日	全人教奈良大会 分科会	27	火		27	金		27	月	3年進路懇談②	27	月	公立高校二次選抜合格発表
28	金		28	月		28	水		28	土		28	火	3年進路懇談③	28	火	
29	土		29	火		29	木	冬季休業日	29	日		29	水		29	水	
30	日		30	水		30	金	冬季休業日	30	月		30	木		30	木	
31	月		31	木		31	土	冬季休業日	31	火		31	金		31	金	